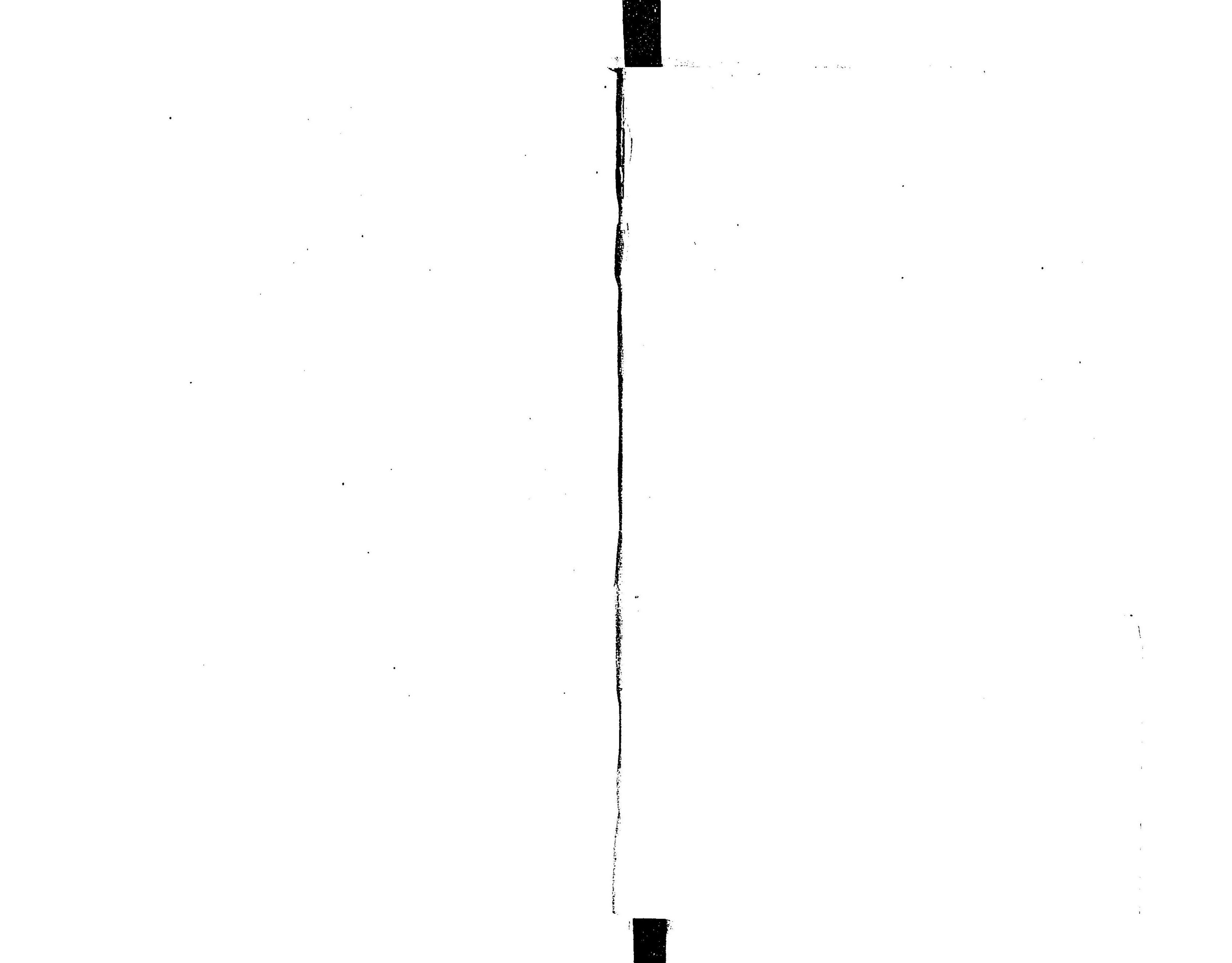


訂正再版

中西牛郎著

宗義革命論

東京博文堂發行



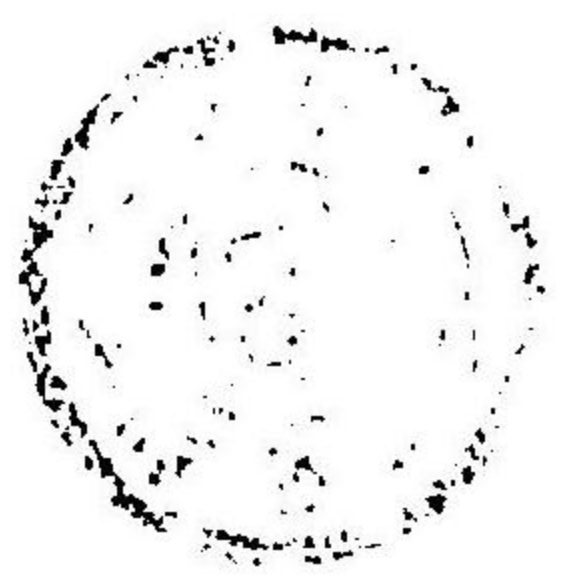
151304/2

中西牛郎著

宗義革命論

東京 博文堂發行

訂正再版



余ハ是レヨリ蒼茫タル万里ノ濤波ヲ超ヘテ米洲ニ
遊ハントス而シテ余ノ嚮キニ著ハセル宗教革命論
方サニ再版ニ附セリ顧フニ此書文章ノ觀ル可キモ
ノアルニアラス議論ノ人ヲ動カスモノアルニアラ
ス何ヲ以テ世ニ愛讀セラル、斯ノ如クナルヤ蓋シ
亦タ世界宗教ノ大勢余ヲシテ其新氣運ヲ豫言セシ
ムルモノアルニ由ラン歟嗚呼米洲ナルモノハ他日
余カ思想ヲ涵養發揮セシムルノ邦土ナルヲ信ス茲
土ニ周遊スル數年ナレハ余ノ進歩ハ何如ナル歟ニ

傾向スルヤ未タ容易ニ期ス可ラス然レモ余ヲ指南
スルノ羅針盤ハ只真理正義博愛ノ三大主義アル而
己余ヲシテ宗教革命論ヲ書カシムルモノハ此三大
主義ナリ余ヲシテ基督教ニ背シテ佛教ニ向ハシム
ルモノモ此三大主義ナリ而シテ余ハ切ニ我主釋尊
ニ祈ル余ノ進歩ヲシテ此主義ニ由ラシメントヲ余
ノ思想ヲシテ此主義ニ離レザラシメントヲ

明治二十二年五月廿八日著者横濱ニ於テ解纜ニ
臨ミ此ヲ識ス

"Gautama Buddha Sakya Muni has ennobled the whole human race. His fame is our common inheritance. His Law is the law of Justice, providing for every good thought, word, and deed its fair reward; for every evil one its proper punishment. His Law is in harmony with the voices of nature, and the evident equilibrium of the universe."

HENRY S. OLCOTT.

"In point of age, therefore, most other creeds are youthfull compared with this venerable religion, which has in it the eternity of a universal hope, the immortality of a boundless love, an indestructible element of faith in final good, and the proudest assertion ever made of human freedom."

EDWIN ARNOLD.

叙言

余嚮キニ我邦佛教ノ衰頽スルヲ慨シ。竊ニ自ラ
揣ラズ。獨カヲ振ツテ之ヲ挽回セント欲シ。大群
疾呼日夜奔走シテ。其僧侶及ヒ信徒ヲ警醒セシ
ムルニ盡カシタリ。然レモ未タ尺寸ノ功ヲ奏
スルニ能ハズ。以爲ラク余此精神アリ之ヲ口ニ
シテ一地方ノ佛教徒ニ告ルハ。寧ロ之ヲ筆シテ
全天下ノ佛教徒ニ訴フルニ若カズト。此ニ於テ
佛教改革論ト題スル一大議論ヲ起草スルヲ
企ルニ至ル。而シテ又タ以爲ラク余ガ佛教ヲ擴
張スルハ獨リ其教ヲ日本ニ挽回スルニ止ラズ。

遂ニ進シテ四海ニ光被セシメント欲スルノ目的ナレバ。先ツ佛教ガ世界文明ノ大氣運ト如何ナル關係ヲ有スルカヲ論明セザル可ラズ。佛教若シ世界文明ノ全局ニ於テ勝利ヲ占ムルモノナレバ日本ニ於テモ遂ニ勝利ヲ占メザル可ラズ。佛教若シ世界文明ノ全局ニ於テ敗績ヲ取ルモノナレバ日本ニ於テモ遂ニ挽回ス可ラズ。故ニ聊カニテモ此問題ヲ解釋スルハ方今ノ急務ナリト此レ佛教改革論ニ先ンシテ此論ヲ公ニスル所以ナリ。顧フニ此書區々タル小冊子ニ過ギズ。而シテ此大問題ヲ解釋スルノ任ニ當ルハ

或ハ「ナイフ」ヲ以テ巨材ヲ削ルノ喩ヲ免レザルニ似タリ。然レモ微密ニ本論ノ事實ト推論トヲ考フルモノアラバ。必ズ切リニ此書ヲ擯斥セザルナリ。然レモ余ハ敢テ此論ヲ以テ耶佛二教ノ教理ヲ論評セント欲スルニアラズ。余カ耶佛二教ヲ委シク論評スルノ書ハ。嘗サニ他日ヲ待チテ之レヲ公ニス可シ。蓋シ余ガ佛教ヲ觀ル或ハ世人ト其看ヲ異ニスルモノナキニアラズ。余カ耶蘇教ヲ觀ルモ亦タ或ハ世人ト其看ヲ異ニスルモノナキニアラズ。特ニ近頃世ニ著名ナル佛教活論

ハ其卓見往々余ヲシテ感服セシムルニ足リ。且ツ談著者ハ予ガ畏敬スル所ナリト雖モ。其佛教ヲ論ズルニ至リテハ余ガ所見ト或ハ吻合セズ。此レ蓋シ讀者ノ此書中ニ於テ感觸スル所ナラシ。嗟呼余ノ無學不才豈ニ著作ヲ以テ自ラ任ズルモノナランヤ。然レモ佛陀ノ予ニ與ヘタル感化ハ遂ニ余ヲシテ黙セント欲シテ黙ス可ラザルモノアリ。讀者乞フ幸ニ余ガ微志ヲ諒セヨ。』若シ人アリ本書ニ於テ叙述スル耶穌教ノ衰頽ヲ徵スル事實ヲ以テ尋常ニシテ奇トスルニ足ラズト云ハ。余ハ將サニ一言以テ之ニ對ヘテ

曰ハントス。世間尋常ノ事實ホド勢カケルノ事實ハアラズト。而シテ歐米佛教ノ近況通信ニ至リテハ。本書ハ實ニ西京海外宣教會ニ負フ所アリ。讀者若シ詳細ヲ委サント欲セバ。近日談會ヨリ發見スル海外佛教事情ヲ一讀スルノ勞ヲ執ラザル可カラズ。

明治二十二年一月熊本ニ於テ 著者誌ス

(1)

正訂 宗教革命論

目次

宗教革命ノ原因ヲ論ズ

第一章 宗教心ノ分析

第二章 宗教ハ顯示ニヨリテ立ツモノナリ

第三章 宗教ノ進化

第四章 眞理ニ合スル純全ナル宗教

宗教革命ノ現象ヲ論ス

第五章 道理ノ女神

第六章 耶蘇教ト理學ノ軋轢

第七章 宗教改革ノ結果

(2)

第八章 耶蘇教ノ前途

第九章 哲學ト宗教

第十章 佛教ノ振興

宗教革命ノ結局ヲ論ズ

第十一章 我邦ト佛教トノ關係

第十二章 舊佛教ヲ一變シテ新佛教トナサマル可ラズ

中西牛郎著

正訂 宗教革命論

宗教革命ノ源因ヲ論ズ

宗教心ノ分拆



レハ說ヲ爲シテ曰ク、宗教ニ二種アリ。一ハ自然教
ニ一ハ顯示教 (Revealed Religion) ナリ。蓋シ自然教ナ

スルモノ、訓誨顯示ヲ待ダズ直チニ人間固有ノ天性ニ淵源シ。適當ナ
ル境遇ニ應ジテ伸暢發達シ。人性自然ノ美花ヲ開キタルモノニ外ナラ
ズ。恰モ猶ホ物數ヲ計フレハ數理的ノ思想生シ。天然及ビ人工ノ美ヲ觀
レハ美術的ノ觀念生シ。自他交際ノ關係起レバ道德的ノ感情生ズルト

第一章 宗教心ノ分拆

70 No. 1304/22

一般ナルモノアリ。然レモ所謂顯示教ナルモノハ。之ニ反シ。聖賢。神佛。豫言者。救世主。其他人間ガ想像シテ尋常人間ノ能力ニ超絶シタルモノガ。人間智力ノ進モ討究シ能ハザル所ヲ顯ハシ。其永遠無窮ノ命運ヲ示スモノナリ。故ニ之ヲ約言スレバ。自然教ハ哲學ノ範圍ヲ出ル能ハズ。蓋シ哲學ナルモノハ人間智識ノ最高巔ニ達シタルモノナリト雖モ。猶ホ人間智力道理ノ及ブ所ヲ限界トシテ。此レヨリ以往ハ一步ト雖モ進ムコト能ハズ。若シ哲學ニシテ智力道理ノ範圍外ニ彷徨スルアラバ。此レ一種ノ想像タルニ過ギザルナリ。然レモ天下古今ノ宗教ヲ總論スルニ。吾輩未ダ其自然教ニ基カザルノ宗教アルヲ見ザルナリ。亦タ未ダ其顯示教ヲ有セザルノ宗教アルヲ見ザルナリ。然ラバ則チ自然ト顯示ハ宗教ノ二大要素ニシテ偏廢ス可ラズ。特ニ怪ム我邦學者往々佛教ヲ以テ哲學教トシ。耶蘇教ヲ以テ天啓教トナシ。以テ二教ノ優劣ヲ論ゼントスル

モノアリ。然レモ吾輩ノ所見ヲ以テスレバ。耶佛二教俱ニ人間自然ノ天性ニ基クニ至リテハ。敢テ異ナルヲナシ。亦タ其顯示ヲ包含スルニ至リテモ。敢テ異ナルヲナシ。之ヲ要スルニ顯示ナルモノハ。宗教ノ一大要素ナリ。此要素ヲ欠クキハ。宗教亦タ宗教タルノ價值ヲ有セズ。然レモ此要素ヲ需要スルモノハ。人性自然ノ宗教心ナリ。故ニ彼ノ自然教ナルモノハ之ヲ稱シテ宗教心ノ發達ナリト云ハザル可ラズ。而シテ宗教心及ビ顯示ノ性質ヲ知ラザルモノハ。未ダ其真正ノ宗教ヲ論定スルニ足ラザルナリ。然ラバ則チ宗教心トハ如何ナルモノゾ。人間自然ノ天性ガ其適當ナル境遇ニ應ジテ發達スルモノナリ。然ラバ則チ宗教心ヲ發達セシム可キ適當ナル境遇トハ如何ナルモノゾ。第一時ノ古今ヲ問ハズ。土ノ東西ヲ論セズ。凡ソ人間ハ宇宙萬有ノ終始變化ハ如何ナルモノナルカ。人間ノ

(4)

生ヤ焉クヨリ來ルカ其死ヤ焉クニ往クカ宇宙ト人間ハ何如ナル關係
 ナ有スルカノ問題ヲ生ゼザルハナシ此レ則チ智力ヨリ生ズルノ宗教
 心也。第二人間ノ懼ル、所ハ死ヨリ大ナルハナシ。又其知ラザル所ヨリ
 甚キハナシ而シテ死ハ人間ノ免レザル所ナリ。死後ノ事ハ人間智識ノ
 版圖ニ入ラザルモノナリ。故ニ此點ニ於テ人間ハ自ラ其薄弱ナルヲ感
 シ現世ト來世トヲ論セズ。必ズ常住不變ナルモノニ依頼スルノ念アラ
 ザルハナシ。此レ則チ感情ヨリ宗教心ヲ生ズルモノ也。第三人間ハ形體
 的ノ欲望アリ。精神的ノ欲望アリ。此二者其性質ヲ異ニスト雖モ其際限
 ナキニ至リテハ同一ナリト云ハザルヲ得ズ。然レモ人間ノ現性格ト現
 境遇トハ斯ノ如キ際限ナキノ欲望ヲ満足スルニ足ラザルヲ以テ。一轉
 シテ所謂天國ノ理想ヲ生シ現世ヨリモ一層快樂ナル一層美妙ナル境
 界ヲ希望セリ。此レ則チ意志ヨリ宗教心ヲ生ズルモノ也。

(5)

斯ノ如ク論シ來レバ宗教心ナルモノハ彼ノヘーゲルクローザン諸氏が
 唱説スルガ如ク獨リ智力ヨリ生ズルノ結果ニアラズ。シニラニエルマ
 ツヘルマンセル諸氏が主張スルガ如ク偏ニ感情ヨリ生ズルノ結果ニ
 アラズ亦タカント諸氏が立言スルガ如ク專ラ意志ヨリ生ズルノ結果
 ニアラズ。即チ智力ノ元素モアリ。感情ノ元素モアリト云ハザル可ラズ。
 然リ而シテ人間ノ智力ハ邦國時代ニ從ツテ其發達ヲ異ニスルヲ以テ。
 其宇宙現象ノ本源人間ノ命運ヲ解釋スルモ亦タ種々眞理ニ反對スル
 ノ説ヲ立ツルヲ免レズ。其自ラ薄弱ナルヲ感シテ限リナシ依頼スルノ
 感情ハ各宗教ノ同キ所ナリト雖モ或ハ恐怖ニ過ギ卑屈ニ流レテ愛悅
 ノ如キ歎美ノ如キ高尙ナル感情ヲ蔽塞スルモノアリ。或ハ欣慕親愛歎
 美恩寵ノ高尙優美ナル感情發達シテ恐怖畏懼卑屈奴隸ノ諸情漸ク減
 ズルモノアリ。而シテ宗教欲望ノ目的タル天國ニ至リテモ又タ以テ各

宗教理想ノ同一ナラザルヲ觀察ス可シ。此ニ由リテ之ヲ觀レバ、人間自
然ノ宗教心ナルモノハ、他ノ政治法律學問文學美術習慣風俗ト共ニ一
層進歩シ、漸ク劣等ヨリ高尚ニ赴キ、妄想ヨリ眞理ニ進ミ、不完全ヨリ完
全ニ達スルモノナリト云ハザルヲ得ザルナリ。

然ルニ天下ノ大生民ノ衆、宗教ニ反對スルノ學士論者モ亦タ少シトセ
ズ、彼ノ有名ナル法學ノ大家セレミー、ペンザム氏ノ如キハ、古來ノ道義
學者ガ良心ノ天賦未來ノ賞罰上帝ニ對スルノ義務ヲ以テ人間道徳ノ
基礎トスルノ說ヲ翻案一掃シ、斷然苦樂ヲ以テ道徳ノ大本トスルノ新
說ヲ立ツルヲ以テ、其勢自ラ宗教ヲ無用視スルニ至ラザルヲ得ズ。遂ニ
宗教ハ一時未開ノ世ニハ裨益スル所ナキニアラズト立論シテ、暗ニ宗
教ノ必要ヲ認メザルガ如シ。ジョン、スチユアルト、ミル氏ニ至リテハ更
ニ一步ヲ進メテ、古代希臘人ノ中ニ來世ノ念ニ乏キモノアリトテホ

ムルノ著作セルヲギツスセイヲ引證シ、又タ東洋幾億ノ人民カ奉信ス
ル佛教ノ寂滅ナルモノハ、斷無ノ見ニシテ殆ンド無宗教ニ異ナラズト
言ヒ、以テ宗教ノ必要ナラザルヲ證明シタリ。然レモ人間ニシテ宗教心
ヲ具スル以上ハ、宗教ノ必要ナラザル理アルヲナシ。彼ノ野蠻種族ガ禽
獸木石ヲ崇拜スル實ニ宗教心ノ發現セシモノニアラザルハナシ。各國
人民ガ天地開闢ニ關シテ傳フル所ノ「ミソロギ」モ亦タ宗教心ノ發現
セシモノニアラザルハナシ。美術文學哲學ノ煥發シテ博大高尚トナル
ニ從ツテ、必ズ幾分宗教心ノ元素ヲ含蓄セザルハナシ。故ニ宗教心ノ發
現セルハ、殆ンド世界一般ノ現象ナリト云ハザル可ラズ。然ルニ今ヤ或
ル國民ノ中ニ、或ル會社ノ中ニ、或ル種族ノ中ニ、偶々宗教ノ思想感情ニ
乏キモノアリト雖モ、此事實ヲ以テ直チニ宗教心ノ存在ヲ拒ムヲ得
ル乎。宗教ノ必要ヲ疑フヲ得ル乎。夫レ學術ハ人間ニ必要ナルモノナ

リ教育へ人間ニ必要ナルモノナリ。政治ハ人間ニ必要ナルモノナリ。國
 家ハ人間ニ必要ナルモノナリ。然レモ野蠻社會ニハ未ダ學術ノ微光ヲ
 仰ガザルモノアルニアラズヤ。未ダ教育ノ恩澤ニ浴セザルモノアルニ
 アラズヤ。大初原人ノ如キニ至リテハ。天然同居シテ未ダ政治ヲ設ケズ
 未ダ邦國ノ體裁ヲナサザルノ時代アリシニアラズヤ。然レモ人間ニシ
 テ其自然進化ノ理法ニ從ヒ。完美福祉ノ域ニ臻達セント欲セバ國家モ
 之ガ爲メニ必要ナリ。政治モ之ガ爲メニ必要ナリ。教育モ之ガ爲メニ必
 要ナリ。學術モ之ガ爲メニ必要ナリ。蓋シ發達アリテ始メテ必要ヲ生ズ。
 故ニ人間社會ニ起ル各般ノ必要ハ自ラ必要ナルニアラズシテ進歩ノ
 爲メニ必要ナリ。欲レ慈母ノ懷ニアリテ。呱呱乳ヲ求ムルノ小兒。豈ニ初メ
 ヲリ貨幣ト書籍トノ必要ヲ解センヤ。然ラバ則チ希臘ノ如キ人間一般
 ノ生活ニ至リテハ。稍々高尚ニ赴クト雖モ其獨リ宗教ノ思想ニ乏キモ

ノアルハ。必ズ他ニ事情アリ不幸ニシテ之レヲ發達スルノ機會ヲ得ザ
 ルモノアラソ。而シテミル氏ガ佛教ヲ以テ斷無ノ見トスルハ。恐クハ未
 ダ佛教ノ性質ヲ討究セザルノ致ス所ナランノミ。
 更ニ宗教ハ至ク人間ノ妄想ニ基ヒテ起ルニ過ギズト主張スルノ論者
 アリ。蓋シ此論ノ唱道者ハ。恐ラシクハ古代希臘ノ哲學家エピキユルス其
 人ナラン。氏曰ク宗教ナルモノハ。恐怖ヨリ生シタル人心妄想ノ幻影タ
 ルニ過ギズト。而シテ近世ニ至リテ此說最モ勢力ヲ極メ。說ヲ立テ、云
 ク。太古人間智識未ダ進マズ。推理ノ能力未ダ發達セザルニ方リテハ。宇
 宙萬有ノ變化運動ニ就ヒテ。物理的ニ其源因ヲ推究スル能ハズ。彼ノ山
 川ノ如キ。河海ノ如キ。風雨ノ如キ。雷電ノ如キ。星辰ノ如キ。其他種々ノ現
 象盡ク人間ノ如キ意欲ヲ有スルモノアリテ之ヲ主宰スルナラシトノ
 現像ヲ生ゼリ。然レモ理學智識ノ進歩シタル今日ヨリシテ之レヲ觀レ

ハ其妄想ニ出ルヲ看破スルコト容易ナリ。然ラハ則チ人間宗教ノ起源タル間ハズシテ其妄想ニ出ルヲ知ル可キナリ。問ハズシテ其妄想ノ暗霧ハ智識ノ大陽ニ照破セラレテ漸次拂散スルヲ知ル可キナリト。吾輩ハ固ヨリ古代宗教ハ大抵妄想ニ出ルヲ確信シテ疑ハズ。現時文明ノ宗教ト雖モ亦タ必ズ其妄想ヲ免レザルモノアルヲ確信シテ疑ハズ。此レ吾輩ガ此書ヲ著ハシ妄想ヲ排シテ眞理ヲ明ニシ人類社會ノ進歩ヲシテ一層善美ノ域ニ進マシメントスル所以ナリ。然リト雖モ天下各宗教ヲ以テ盡ク妄想ニ出ルトシ復タ道理ニ應合スル完全ナル宗教ナレトスルニ至リテハ此レ則チ全然タル非宗教者ニシテ吾輩ハ論敵ナリト云ハザルヲ得ズ。然レモ想フニ斯ノ如キ論者ハ唯耶蘇教ヲ以テ最モ進歩シタル宗教ナリトシ之ヨリ外ニ理學哲學ノ道理ト相戾ラザルノミナラズ。人類ノ命運ヲ明ニシ人心ノ高尚無限ナル感情ヲ満足シ宇

宙萬有ノ最大目的ヲ開示スルノ宗教アルヲ知ラザルナラン。抑モ世界シテ斯ノ如キ完全無比ナル宗教アリトセンカ。天下各宗教ハ進ンデ此宗教ニ達スルノ初步タルニ過ギズト云ハザルヲ得ズ。此宗教ノ不完全ナル模範タルニ過ギズト云ハザルヲ得ズ。而シテ斯ノ如キ完全無比ナル宗教ハ果シテ如何ナル宗教ナル可キカ。將タ果シテ如何ナル宗教ナラザル可ラザルカ。

第一章 宗教ハ顯示ニ因リテ立ツモノナリ

顯示ナルモノハ宗教ノ一大要素ナリ。如何ナル宗教ニテモ顯示ヲ包含セザルハナシ。故ニ猶太教ニハ猶太教ノ顯示アリ。回々教ニハ回々教ノ顯示アリ。耶蘇教ニハ耶蘇教ノ顯示アリ。獨リ儒教ノ如キハ顯示ヲ有セズ。此レ儒教ノ宗教タルヲ得ザル所以ナリ。然ラハ則チ顯示トハ如何ナルモノゾ。即チ吾輩ガ前章ニ於テ説明シタ

ルガ如ク。聖賢神佛。豫言者。救世主。其他智力能力ニ於テ尋常人間ニ超絶シタルモノガ人間智力ノ能ハザル所道理ノ達セザル所ヲ顯示シテ。宗教心ヲ満足セシムルモノナリ。蓋シ宗教心ナルモノハ。彼レインガソル氏ガ言フ如ク。靈魂不死ノ思想ハ猶ホ人心ニ潮流スルノ海水ノ如ク。恒ニ望波恐瀾ヲ生ジテ。時間ト命運ノ岸邊ニ打テ寄スルモノナリ。然ルニ此感情ハ書籍ヨリ生ズルモノニアラズ。信經ヨリ生ズルモノニアラズ。宗教ヨリ生ズルモノニアラズ。即チ人心自然ノ感情ヨリ來ルモノニシテ。人間ガ黄泉ト接吻スル迄ハ迷惶ト疑懼ノ間ニ彷徨スルヲ免レズ。嗚呼。此レ人間悲歎ノ淚露ヲ照ラスノ希望ナリ。嗚呼。此レ人間希望ノ燦爛タル。蠅蝻ナリ。而シテ此迷霧ヲ拂ヒ。此疑雲ヲ散シ。蒼々タル青空無限ノ天ヲ仰ガシムルモノハ。顯示ニアラズシテ。何ンゾヤ。

蓋シ人間ハ五官ニ由リテ萬有現象ヲ認識スルモノナリ。然レモ五官ノ

認識ハ限リアルモノナリ。故ニ五官認識ノ及ハザル所ハ推理ノ能力ヲ以テ道理ヲ究メザルヲ得ズ。然レモ推理ノ能力モ亦タ限リアルモノナリ。故ニ智識ヤ。理學ヤ。哲學ヤ。其討究スル所ハ範圍アリト謂フ可シ。然レモ人間ノ宗教心ナルモノハ。感情ト云ヒ。意志ト云ヒ。此範圍ノ外ニ超越シテ。絶對ノ門ヲ叩クニアラザレバ。満足スル能ハズ。而シテ人間ノ智力以テ之レニ達スル能ハザレバ。顯示ニ由ラズシテ。將タ奈何センヤ。既ニ然リ。人間ノ智力ハ道理ヲ以テ知ル可キノ範圍ト。知ル可ラザルノ範圍アリ。然レモ其知ル可キモノハ。那點マデ知ル可キカ。其知ル可ラザルモノハ。那點ヨリ知ル可ラザルカ。此二者ノ間ニ判然界線ヲ明畫シタルハ。近世哲學進歩ノ赫々タル一大偉業ニシテ。吾輩ハ此偉業ニ對シテハ特ニ彼ノスペンセル氏ニ謝セザルヲ得ズ。左レバ智識ニセヨ。理學ニセヨ。此知ル可キノ範圍ニ其歩ヲ駐ム可キハ。固ヨリ論ヲ待タズ。智力ヨリ生

ズルノ宗教心モ亦タ進ンデ知ル可ラザル範圍ニ入ル能ハズ唯此知ル可キノ範圍ニ於テ其所謂自然教ナルモノヲ建設スルニ過ギザルナリ然ラバ則チ自然教ハ知ル可キノ範圍ニ於テ建設セザル可ラズ。顯示教ナルモノハ知ル可ラザルノ範圍ニ於テ天啓ヲ仰ガザル可ラズ。左レバ知ル可キノ範圍ニ於テハ方今人間ノ知リ及バザル所甚多シト雖モ理學哲學ノ進歩ニ由レバ他日必ズ人間智識版圖ニ入ルノ時運到達セズト云フ可ラズ。然レモ其知ル可ラザルノ範圍ニ至リテハ理學如何ニ進歩スルモ哲學如何ニ進歩スルモ是レ豈ニ得テ知ル可キ所ナランヤ。然ラバ則チ人間ガ顯示ヲ要スル所ノモノハ此レ知ル可ラザルノ範圍ニ在ルノミ。苟モ知ル可キノ範圍ニアルモノハ亦タ何ンゾ顯示ヲ要センヤ。然ラバ顯示トハ何ゾヤ。人間智力ノ及バザル所ニ就ヒテ之ヲ顯示スル

ナリ。然ラバ顯示トハ那處ヨリ來ルヤ。夫レ顯示ヲ信ズルモノハ顯示ノ基本ヲ先定セザル可ラズ。此顯示ノ基本ヲ先定セズンバ吾輩焉ンゾ顯示ヲ信ズルヲ得ンヤ。此點ニ就ヒテハ彼ノミル氏ハ善ク説明シタリト云フ可シ。其說ニ云ク顯示ナルモノハ顯示ノ由リテ來ル基本ヲ先定セザル可ラズ。而シテ此基本ヲ先定スルニハ自然ノ現象ニ由ラザル可ラズト。此ニ由リテ之ヲ觀ンバ顯示ナルモノハ自然教ヲ以テ基礎トシ。自然教ニ於テ神體ノ性質ヲ先定シ萬有ノ目的ヲ先定シ人間ノ命運ヲ先定シ。然ル後チ顯示ノ必要始メテ生ズ可ク亦タ以テ顯示ノ如何ヲ判斷スルニ足ル可シ。

上來論ズル所ニ從ヘバ宗教ハ人間自然ノ宗教心ヨリ發達シタル自然教ヲ以テ基礎トシ顯示ヲ得テ然ル後チ始メテ完備ス可シ。然レモ人間ノ智力ハ漸次發達シ知ル可キノ範圍ト知ル可ラザルノ範圍トノ間ニ

於テ。確然タル一定不變ノ界線ヲ明ニシタルハ。殆ント十九世紀智識進歩ノ一大輝光ナリト云ハザル可ラズ。左レバ古代ニ在リテ人間智識ノ未ダ開發セザルヤ。現時ニ於テ理學ノ實驗ニ照ラシ。哲學ノ推理ニ徴シ。彰々トシテ知ル可キノ事物現象ト雖モ。之ヲ知ル能ハズシテ知ル可ラザルノ範圍ニ措クモノ。豈ニ少シトセンヤ。例ヘバ彼ノ創世紀ハ摩西ガ神ノ顯示ニ由リテ記錄シタルモノナリ。然レモ其說ノ現時理學ニ吻合セザル。殆ント耶蘇教ヲシテ辨護ニ困マシムルモノアリ。亦タ彼ノ十誡ノ如キモ。摩西カ西奈山ノ嶺ニ於テ。上帝ヨリ授リタル顯示ナリト稱スルモノナリ。然レモ十誡ニ教ヘタル道德ノ如キハ。顯示ヲ待タズトモ。社會進化ノ理法ニ由リテ世界人民ガ自ラ知ルモノナリ。故ニ斯ノ如キ顯示ハ價值アルモノニアラズ。然レモ當時ノ人民摩西ノ言フ所ヲ信ジテ。神ノ顯示トシタルハ。蓋シ疑フ可ラズ。何トナレバ。則チ人民ノ智識未ダ

進歩セザレハナリ。

然リ而シテ摩西ノ創世紀ノ如キハ。其大體現時ノ學理ニ吻合スルモノニアラズト雖モ。所謂ミソロヂーノ最モ簡潔美麗ニシテ頗ル意義アルモノナリ。其十誡ノ如キモ人間道德ノ高尚ナル真理ニアラズト雖モ。亦タ普通一般ノ循フ可キ守ル可キノ條規ナリ。サレバ此レ猶ホ古代人民ガ信シタル顯示ノ世ニ利益アルモノトセザル可ラズ。若シ夫レ未開人民ガ信ズル所ノ顯示ニ至リテハ。或ハ敵ヲ殺シテ犧牲ニ供スルモノアリ。或ハ敵ヲ攻伐スルモノアリ。或ハ天變地異ニ關シテ未來ノ事ヲ知ルモノアリ。之ヲ要スルニ。天命ト稱シ。託宣ト稱シ。神言ト稱シ。ト筮ト稱シ。感靈ト稱シ。祥瑞ト稱スルモノ。皆ナ顯示ノ一種タラザルハナシ。然レモ人智開明ノ今日ニシテ斯ル怪誕ヲ信ズルモノアルヤ否ヤ。然ラハ則チ宗教心ハ人間ノ天性ナリト雖モ。此天性ヨリ發生スル自然教ニハ自ラ

眞理ニ合スルモノト合セザルモノハアリト知ル可シ。顯示モ亦ク宗教ノ一大要素ナリト雖モ此要素ヨリ現出スル顯示ニハ亦タ自ラ憑信ス可キモノト憑信ス可カラザルモノアリト知ラザル可ラズ。

斯ノ如ク論ヲ來レバ人間智力ノ知ル可キ範圍ニ係ル顯示ハ價值アルモノニアラズ。宗教ノ所謂眞正ナル顯示ナルモノハ理學哲學ノ及バザル範圍ニ係ルモノナラザル可ラズ。然リト雖モ既ニ人力智力ノ及バザル範圍ニ係レバ何チ以テ其眞理ヲ明ニシ取捨ヲ決スルヲ得ンヤ。此レ最後ニ起ル可キノ問題ナリ。吾輩之ニ對ヘテ曰ク顯示ノ顯示タル既ニ人間智力ノ及バザル所ニ係レバ又タ其眞偽ヲ判斷ス可キノ標準ナキガ如シ。然レモ所謂人間智力ノ及バザル所ハ道理ニ超絶シタルモノニシテ決シテ道理ニ反對スルモノニアラズ。蓋シ道理ニ超絶ス(about reason)トハ通常ノ推理學術ノ智識ヲ以テ到達ス可カラザルモノナリ。道理ニ反

對ス(Contrary to reason)トハ一チ以テ二トナシ。因ナキニ果ヲ生ズル如キ人間思想ノ法則ニ反對スルモノナリ。左レハ顯示ノ表明スル所ハ推理智識ヲ以テ直ニ達ス可ラズト雖モ吾輩ハ何如ニシテ人間思想ノ法則ニ反對スルモノヲ信ズルヲ得ケンヤ。左レハ此差別ハ顯示ノ眞偽ヲ判斷スルノ一大標準ナルヲ知ル可キナリ。

吾輩ハ既ニ此一大標準ヲ示メシ。又タ進ンデ顯示者ノ資格ヲ定ム可シ。蓋シ釋迦ノ如キ耶穌ノ如キハ所謂顯示者ニシテ顯示ヲ判斷スルニハ顯示者ノ人物何如チ論定セザル可ラズ。顯示者其人ニシテ果シテ巍然トシテ億兆ニ卓越シ一言ニシテ天下ノ法タリ匹夫ニシテ萬世ノ師タリ。其品位道德世界人類ノ模範タリ儀表タルモノアリ。然ル後チ吾輩ハ始メテ其顯示ニ信チ措クニ足ル可シ。次ニ顯示者若シ自然教ヲ建設スルニ方リテ其說ヲ所理學哲學ノ眞理ト吻合シ。或ハ理學哲學ノ新理ヲ

闡明スルアラバ吾輩又其顯示ヲ信受スルノ一大根據ヲ得ベシ而シテ
 吾輩ガ顯示ヲ取捨スル最後ノ斷案ナルモノハ其顯示ハ果シテ人類一
 般ノ宗教心即チ無限ノ感情無限ノ慾望ニ適合シ其需要ニ應ズルヤ否
 ヤニアリ故ニ以上說ク所ヲ約說スレバ第一道理ニ超絶スルト道理ニ
 反對スルトハ大ナル相異アルコト第二顯示者ノ道德第三顯示者ガ自
 然教ノ真理第四其顯示ハ須ラク人類一般ノ宗教心ニ満足ヲ與フ可キ
 コト是也

吾輩ハ此章ヲ結了スルニ方リテ茲ニ猶ホ一言セザル可ラズ彼ノ耶蘇
 教ニ於テ耶蘇基督カ顯示者タルヲ證明センガ爲メニ基督ノ行フタル
 奇跡即チ例ヘバ死チ起シ病チ醫シ鬼チ驅リ海チ歩シ波チ靜メ水チ變
 シテ酒トナシ五個ノ蒸餅ヲ以テ五千人ニ分配シ亦タ自ラ死ヨリ蘇シ
 天ニ昇ルガ如キヲ以テセントスルハ頗ル直截明白ニ似タリト雖モ此

奇跡ハ人間目前ノ道理ニ反對スルモノナレバ吾輩ガ定メタル顯示判
 斷法ニ由レバ如此奇跡ハ眞正ナル顯示ヲ證明スルヨリモ却ツテ寧ロ
 其反對ヲ見ハスモノナリ

第三章 宗教ノ進化

吾輩人間ハ果シテ宇宙進化ノ一大劇場ニ地位ヲ占メタルモノナリト
 セン歟人間種族モ亦タ進化ノ大法ニ支配セラルハ固ヨリ論ヲ待タ
 ズ即チ人間相互ノ關係ヨリ生ズル社會ハ愈々完備シテ人間發達ノ境
 遇タル可キ目的ニ應セントシ其政治法律ノ如キハ愈々社員ノ權理ト
 自由トヲ保護セントシ其道德習慣ノ如キハ愈々公衆ノ福祉ヲ達セン
 トシ其言語文學ノ如キハ愈々精緻富瞻美麗ノ點ニ達シ思想ヲ發表ス
 ルニ敏妙ナル機關トナラントス次ギニ人間ト自然トノ關係ヨリ生ズ
 ル智識學問ニ至リテモ亦タ漸次發達シ其觀察愈々多ク其概括愈々博

キニ從ツテ萬有ノ性質ヤ關係ヤ秩序ヤ法則ヲ知ル益々眞理ニ近キモ
 ノアリ左レハ獨リ宗教ニシテ進化セザルノ理アル可ラズ試ニ看ヨ彼
 ノ埃及人が數千年ナイル河畔ニ於テ猫ノ如キ鱷魚ノ如キ動物ヲ崇拜
 セシヨリ至智全能ノ獨一眞神ヲ崇拜スルニ至ル迄舊約ノ我ハ嫉妬ノ
 神ナリト自稱スル耶和華ヨリ新約ノ神ハ則チ愛ナリト云ヘル在天ノ
 父ニ至ル迄太古原人ノ祖先教ヨリ倫敦ノ哲學士カ不可思議神ニ至ル
 迄宗教界ニ生ヲタル現象ハ如何ゾヤ其進化ノ距離ハ何如ゾヤ
 吾輩ハ既ニ人間固有ノ宗教心ヨリ生ヲタルモノヲ以テ自然教トシ人
 間ニ超絶セタル能力ヨリ生ヲタルモノヲ以テ顯示教トナシ而シテ其
 實際ニ至リテハ如何ナル宗教ニアレ此二大要素ヲ包含セザルハナク
 亦タ此二大要素ヲ包含セザルモノハ以テ宗教トナス可ラザル所以チ
 證明セタリ然ルニ今ヤ自然教ノ點ヨリシテ天下各宗教ヲ觀察スルニ

其大體教理ノ異ナル所ハ所謂多神教 (Polytheism) 一神教 (Monotheism) 凡
 神教 (Pantheism) ノ三大教理ニ外ナラザル如シ即チ天下各宗教ハ此三大
 教ノ分類ヲ出デザルモノニシテ此三教ノ中孰レニカ屬セザルヲ得ザ
 ル可シ此ヲ要スルニ宗教ハ神ト人間トノ關係ヲ説クモノナリ此點ニ
 於テハ萬教歸一ナル可シ然レモ其神ノ性質ヲ説クニ至リテハ大ニ異
 ナリ此レ多神教一神教凡神教ノ由リテ分ル所以ナリ
 抑モ多神教トハ種々許多ノ神ヲ崇拜スルモノニシテ我邦ノ八百萬神
 ニ於ケル支那ノ天地山川ニ於ケル埃及ノ拜物教ニ於ケル希臘ノ「ミソ
 ロテー」ニ於ケル其他古代社會ノ宗教ハ大抵多神教ノ一種ナラザルハ
 ナシ蓋シ多神教ニモ亦タ大ニ進化ノ見ル可キモノアリ其始メハ單純
 ナル拜物教ニ起リ凡ソ人間ヲ圍繞スル日月星辰山川河海風雨雷電草
 木禽獸ノ耳得テ聞ク可ク目得テ見ル可キモノヲ崇拜スルニ過ギズ然

レ凡人間ノ思想漸ク發達スルニ及ンデハ、勢力ノ如キ、智慧ノ如キ、慈愛ノ如キ、美妙ノ如キ、善惡ノ如キ、禍福ノ如キ、無形ノ思想ニ至ル迄、亦タ之ヲ主宰スルノ神アリト想像シ、其數次第ニ増加スレバ、所謂八百萬神ノ夥キニ達ス可シ。彼ノ希臘人ノ如キハ、其天性想像ニ富ミ、美術ニ長スルヲ以テ或ハ之レヲ繪畫ニ見ハシ、或ハ之レヲ彫刻ニ見ハシ、或ハ詩歌ヲ以テ其性徳ヲ形容スルガ如キ、美術上文學上ヨリシテ觀ルルキハ、大ニ稱嘆セザルヲ得ズト雖モ、若シ哲學上ヨリシテ觀ルルキハ、印度ニ於テ波羅門教カ創造、保持、毀滅ノ三大主宰ヲ立テ、波斯ニ於テゾロアストル教カ善惡二神ヲ立ルガ如キハ、遠ク希臘ノ上ニ卓越スルモノアリ。此レ蓋シ多神教ノ進化ナル可シ。然レモ、要スルニ多神教タルヲ免レザルナリ。方今世界ニ奉信セラルル、耶蘇教回々教ノ如キハ、所謂一神教ニシテ其教理ノ歸スル所ハ、獨一眞神アリ、時間ヲ以テ之ヲ論ズレバ、無始無終ナ

リ、空間ヲ以テ之ヲ論ズレバ、無限無量ナリ、神其全能ヲ以テ宇宙萬有ニ對スレバ、創造者トナリ、其全智ヲ以テ宇宙萬有ニ對スレバ、擬理者トナリ、其全善ヲ以テ宇宙萬有ニ對スレバ、愛護者トナル。故ニ一神教ハ神ヲ以テ宇宙萬有ノ源因トスルモノ、宇宙萬有ノ本體ヲ以テ神トスルモノニアラズ。此其宇宙萬有ノ上ニ神體ヲ立ル能ハズシテ、宇宙萬有ノ外ニ神體ヲ立テザルヲ得ザル所以ナリ。然レモ多神教ニ比較スレバ、其思想頗ル進化シテ眞理ニ近キ。敢テ同日ノ論ニアラザルベシ。抑モ西洋ニ於テハ、佛敎、西洋ニ於テハ、哲學諸家ノ說述スル所ハ、大抵凡神教ニアラザルハナシ。蓋シ凡神教ニ於テ神ノ性質ヲ論ズル、無始無終ト云ヒ、無限無量ト云ヒ、或ハ一神教ノ說ク所ト大ニ相異ナルヲナシ、其萬有進化ノ現象ニ就テテ論ズルキハ、至善至美、至眞ヲ以テ神ノ目的トスルモ、亦タ或ハ一神教ノ說ク所ト大ニ相異ナルヲナシ、只神體ヲ宇宙萬有ノ外ニ立ツ

レ○神○ト○萬○有○ト○隔○離○シ○テ○一○神○教○ト○ナ○リ○神○體○ヲ○宇○宙○萬○有○ノ○上○ニ○立○ツ○レ○
 ヲ○神○ト○萬○有○ト○一○致○シ○テ○凡○神○教○ト○ナ○ル○此○レ○二○教○ノ○大○ニ○異○ナル○所○以○ナ○リ○
 抑○モ○右○ノ○三○大○教○理○皆○ナ○人○間○自○然○ノ○自○然○ヨ○リ○現○出○シ○タル○モ○ノ○ニ○シ○テ○其○
 智○力○ノ○程○度○ヲ○異○ニ○ス○ル○ハ○此○三○大○教○理○ヲ○現○出○シ○タル○ノ○源○因○ナ○リ○ト○云○フ○
 可○シ○故○ニ○此○三○大○教○理○ハ○宗○教○進○化○ノ○三○大○階○級○ニ○シ○テ○社○會○文○明○ノ○進○步○ヲ○
 區○別○ス○ル○ニ○モ○亦○タ○多○神○教○ノ○時○代○一○神○教○ノ○時○代○凡○神○教○ノ○時○代○ヲ○以○テ○セ○
 ザ○ル○可○ラ○ズ○蓋○シ○多○神○教○ナル○モ○ノ○ハ○太○古○人○民○ガ○智○識○未○ダ○開○ケ○ズ○推○理○未○
 ダ○進○マ○ズ○只○想○像○ヲ○以○テ○萬○有○ノ○現○象○ヲ○解○釋○セ○ン○ト○欲○ス○ル○ヨ○リ○胚○胎○シ○タ○
 ル○モ○ノ○ナ○リ○ス○ペ○ン○セ○ル○氏○曰○ク○太○古○原○人○ハ○法○則○ノ○如○キ○秩○序○ノ○如○キ○源○因○
 ノ○如○キ○觀○念○ヲ○有○セ○ズ○又○タ○自○然○ト○非○自○然○ト○出○來○ク○可○キ○ト○出○來○ク○可○ラ○
 ザ○ル○ト○ト○判○然○區○別○ス○ル○能○ハ○ズ○ト○左○レ○バ○物○理○學○上○ノ○智○識○ノ○如○キ○ハ○毫○
 モ○未○ダ○發○達○セ○ズ○ト○知○ル○可○シ○此○時○ニ○方○リ○テ○萬○有○現○象○ノ○運○動○變○化○ス○ル○ハ○

必○ズ○人○間○ノ○如○キ○靈○氣○ア○リ○意○欲○ア○ル○モ○ノ○ア○リ○テ○之○レ○ヲ○主○宰○ス○ル○ナ○ラ○ン○
 ト○想○像○ス○ル○ハ○自○然○ノ○勢○ナ○リ○此○ニ○於○テ○炎○々○ト○シ○テ○焚○レ○バ○則○チ○火○ノ○神○ア○
 リ○浩○々○ト○シ○テ○流○レ○バ○則○チ○水○ノ○神○ア○リ○轟○然○ト○シ○テ○鳴○レ○バ○則○チ○雷○ノ○神○ア○
 リ○沛○然○ト○シ○テ○下○レ○バ○則○チ○雨○ノ○神○ア○リ○光○輝○粲○然○ト○シ○テ○世○界○ヲ○照○セ○バ○則○
 チ○大○陽○ノ○神○ア○リ○亦○タ○一○步○ヲ○進○メ○テ○無○形○的○ノ○現○象○ニ○至○レ○バ○美○麗○ニ○ハ○ウ○
 エ○ニ○ユ○ス○ア○リ○雄○辨○ニ○ハ○メ○ル○キ○ユ○リ○ア○リ○智○慧○ニ○ハ○ミ○チ○ル○ブ○ア○リ○觀○音○
 ノ○如○キ○ハ○智○慧○ヲ○表○シ○不○動○ノ○如○キ○ハ○勇○氣○ヲ○表○ス○故○ニ○古○代○ニ○在○リ○テ○ハ○多○
 神○教○モ○亦○タ○大○ニ○人○民○智○力○ノ○度○ニ○適○シ○自○然○教○ノ○基○礎○ヲ○ナ○セ○リ○然○レ○モ○人○
 間○社○會○ノ○朦○朧○タル○妄○想○漸○ク○去○リ○テ○智○識○ノ○旭○光○僅○ニ○破○レ○人○々○推○理○ヲ○尙○
 ノ○デ○想○像○ヲ○信○セ○ズ○宇○宙○萬○有○ノ○運○動○變○化○ハ○悉○ク○秩○序○ア○リ○テ○一○定○不○變○ノ○
 法○則○ニ○支○配○セ○ラ○ル○、○チ○發○明○ス○ル○ニ○至○レ○バ○多○神○教○ハ○漸○ク○其○勢○力○ヲ○失○フ○
 可○シ○故○ニ○人○智○ノ○進○步○ニ○從○ツ○テ○多○神○教○ハ○信○仰○ヲ○失○フ○所○以○チ○約○言○ス○レ○バ○

第一、其宇宙萬有ノ運動變化ヲ以テ人間ノ如ク靈氣アリ意欲アルモノ
 所作ニ歸スルハ一定不變ナル物理ノ法則ニ反對シ、第二世界ニ無數
 ノ神アリトスルハ宇宙萬有ノ目的一致スルノ思想ニ反對シ、第三世界
 ニ無數ノ神アリトスルハ第一原因ト云ヘル思想未ダ生ゼザルモノナ
 リ、何トナレバ第一原因ハ統一ナル可クシテ複雜ナル可ラズ、第四
 無數ノ神アレバ其性質能力必ズ有限ニシテ無限ナルヲ得ズ、相對ニシ
 テ絕對ナルヲ得ズ、此亦以テ人間ガ限リナク依頼スルノ感情ヲ満足セ
 シムルニ足ラズ、之ヲ要スルニ智力ノ點ヨリシテ云フモ感情ノ點ヨリ
 シテ云フモ多神教ハ遂ニ一神教ニ其地位ヲ讓ラザルヲ得ザルナリ、
 故ニ多神教倒レテ一神教起ルハ宗教界ノ一大進化ナリ、蓋シ一神教ニ
 於テ神ノ性質ヲ論ズル絕對無限悠久不變ヲ以テ其理性トスルヲ以テ、
 神ハ天地ニ先ナテ自ラ有リ、天地ニ後レテ獨リ存シ現ハレザル所ナク、

在ラザル所ナシ、又全能全智至善至美ヲ以テ其徳性トスルヲ以テ神ノ
 宇宙ヲ創造スル其目的ハ自己ノ榮光ヲ顯ハシ人間ノ福祉ヲ圖リ萬物
 ナ攝理シテ其意ニ從ハシメ善ヲ賞シ惡ヲ罰セザルハナシ、蓋シ一神教
 ハ自然教ノ頗ル發達シテ高等ニ進ミタルモノナルヲ以テ智力ニモ感
 情ニモ満足ヲ與フルハ決シテ復タ多神教ノ比ニアラズ、理哲二學ト雖
 モ其未ダ大ニ進歩セザルノ時ニ在リテハ、嘗ニ一神教ト反對ノ點ヲ見
 ハサマルノミナラズ或ハ却テ之レヲ説明スルノ具タルニ過ギザルモ
 ノアリ、然レモ理學哲學大ニ進歩シテ現時ノ如ク愈々博大精緻ナルニ
 從ツテハ一神教モ亦ク其勢力ヲ失ハザルヲ得ズ、何トナレバ一神教ハ
 神ト萬有トヲ隔離シテ別物トスルヲ以テ神ハ宇宙萬有ノ創造者タラ
 ザルヲ得ズ、且ツ一神論者ノ世界創造ヲ說クヤ有機無機動植人獸其他
 一切ノ物皆テ神ノ特造ニ係リテ本來差別アルモノトセリ、然レモ此說

ハ○近○世○進○化○説○ノ○論○ズ○ル○所○ト○反○對○ス○ル○ヲ○以○テ○遂○ニ○維○持○ス○可○ラ○ズ○次○ニ○一
 神○論○者○ハ○宇○宙○萬○有○ノ○運○動○變○化○ヲ○以○テ○神○ノ○攝○理○ニ○歸○ス○ト○雖○モ○宇○宙○萬○有
 ハ○其○勢○力○保○存○ノ○理○ニ○由○リ○テ○一○定○不○變○ノ○法○則○ヲ○ル○一○恰○モ○猶○ホ○時○辰○表○カ
 精○巧○ナ○ル○機○關○ノ○裝○置○ニ○依○リ○一○度○彈○力○ヲ○與○フ○レ○バ○一○定○ノ○規○則○ニ○從○ツ○テ
 自○ラ○運○行○シ○復○タ○時○々○刻○々○他○力○ノ○干○涉○ヲ○待○タ○ザ○ル○ト○一○般○ナ○ル○モ○ア○ラ
 ン○次○ニ○一○神○論○者○ハ○神○ヲ○以○テ○宇○宙○萬○有○ノ○創○造○者○ト○ナ○ス○ト○雖○モ○本○來○物○質
 ハ○不○滅○ノ○性○ヲ○具○フ○ル○モ○ナ○リ○然○ル○ニ○人○間○思○想○ノ○理○法○ニ○從○ヘ○バ○無○ヨリ
 有○チ○生○シ○因○ナ○キ○ニ○果○ヲ○作○ル○能○ハ○ズ○左○ラ○バ○物○質○ハ○那○點○ヨリ○現○出○ス○ル○カ
 一○神○論○者○必○ズ○曰○ク○神○ニ○全○能○力○ア○リ○既○ニ○全○能○力○ア○レ○バ○無○ヨリ○有○チ○モ○生
 ズ○可○シ○因○ナ○ク○シ○テ○果○ヲ○モ○作○ル○可○シ○ト○果○シ○テ○然○ラ○バ○神○ニ○全○能○力○ア○ル○ハ
 何○ニ○由○リ○テ○カ○之○レ○ヲ○知○ル○可○キ○ヤ
 故○ニ○現○時○理○學○ノ○進○步○ハ○一○神○教○ノ○外○郭○ヲ○奪○フ○テ○其○本○城○ニ○返○ル○ノ○形○勢○ア

リ○然○レ○モ○一○神○教○ノ○本○城○ヲ○攻○メ○崩○シ○テ○凡○神○教○ノ○勝○旗○ヲ○建○ツ○ル○モ○ハ○哲
 學○ノ○論○理○ニ○由○ラ○ザ○レ○バ○能○ハ○ズ○抑○モ○一○神○論○者○カ○絶○對○無○限○ヲ○以○テ○神○ノ○理
 性○ト○ス○ル○ハ○大○ニ○宜○シ○ト○雖○モ○試○ミ○ニ○問○ハ○ン○絶○對○ナ○ル○モ○ハ○何○ヲ○以○テ○絶
 對○ナ○ル○カ○無○限○ナ○ル○モ○ハ○何○ヲ○以○テ○無○限○ナ○ル○カ○必○ズ○萬○有○即○神○ナ○レ○バ○ナ
 リ○神○即○萬○有○實○在○ノ○本○體○ナ○レ○バ○ナ○リ○若○シ○神○ハ○萬○有○ノ○外○ニ○ア○リ○萬○有○ハ○神
 ノ○外○ニ○ア○リ○ト○云○ハ○バ○此○レ○ニ○物○並○立○シ○テ○互○ニ○相○對○ナ○ル○ヲ○以○テ○絶○對○ニ○ア
 ラ○ザ○ル○ナ○リ○二○物○隔○離○シ○テ○互○ニ○有○限○ナ○ル○ヲ○以○テ○無○限○ニ○ア○ラ○ザ○ル○ナ○リ○然
 レ○モ○吾○輩○ハ○直○チ○ニ○此○點○ヨリ○窮○追○セ○ズ○更○ニ○問○鋒○ヲ○轉○シ○テ○曰○ク○宗○教○ニ○自
 然○教○ト○顯○示○教○ノ○二○大○要○素○ヲ○含○蓄○ス○ル○ハ○吾○輩○ガ○既○ニ○說○明○ス○ル○所○ナ○リ○左
 ラ○ハ○一○神○教○凡○神○教○ノ○真○理○ヲ○論○ズ○ル○モ○ノ○ハ○自○然○教○ノ○範○圍○ナ○リ○然○ル○ニ○自
 然○教○ノ○點○ヨリ○シ○テ○論○ズ○レ○バ○一○神○教○ニ○於○テ○神○ア○リ○ト○ス○ル○モ○凡○神○教○ニ○於
 テ○神○ア○リ○ト○ス○ル○モ○皆○ナ○八○間○ノ○智○力○ニ○ヨリ○テ○斷○定○シ○タル○モ○ノ○ニ○外○ナ○ラ

ズ。而シテ神ニ絶対無限ノ理性ナリト斷定スルモ、亦タ人間智力ノ結果ナリトスルハ、此レ人間ハ絶対無限ノ存在ヲ認識スルモノナリ。夫レ既ニ人間ニシテ絶対無限ノ存在ヲ認識スルハ、人間ハ少クとも其理性ニ於テ絶対無限ノ一部分タルヲ得ベシ。此レ論法ニ於テ抗ス可ラザルノ眞理タリ。

故ニ神性ヨリシテ論ズルモ、人性ヨリ論ズルモ、一神教ハ進ンデ凡神教トナラザレバ其論理ヲ完成スル能ハズ。然レ此以上二個ノ論理ハ、猶ホ未ダ一神教ノ不完理ヲ明ニシテ凡神教ノ完理ヲ示スニ足ラザルベシ。乞フ更ニ論點ヲ改メテ之レヲ説明セントス。抑モ一神論者ハ神ヲ以テ宇宙萬有ノ第一原因トスルモノナリ。夫レ既ニ第一原因ト云ヘハ、其獨立ニシテ無始ナル可キハ固ヨリ論ヲ待タズ。然レ此宇宙萬有ハ此第一原因ノ結果タルニ相違ナシ。即チ神ハ原因ナリ、萬有ハ結果ナリ。然ルニ

凡ソ原因ト結果ノ間ニハ必然必須ノ關係アルコトハ、一定不變ノ道理ト云フ可シ。蓋シアリストツルハ原因ノ種類ヲ分析シテ、元質原因 (Material Cause)、形様原因 (Formal Cause)、動作原因 (Efficient Cause)、結局原因 (Final Cause) ノ四種トセリ。今マ此ニ一大建築ヲ爲スト、假定センニ材木ノ如キ切石ノ如キ煉瓦ノ如キ丹墜ノ如キ其他建築ニ供スル種々材料ハ、所謂元質原因ナリ。然ルニ建築セント欲スルノ人、既ニ此等材料ヲ蒐集スレバ、必ズ宏壯雄偉ナル「ゴツチ」ク體ニ築クトスルモ、或ハ齊均美妙ナル「グレシアン」體ニ築クトスルモ、孰レカ形様即チ觀念ヲ豫定シテ材料ヲ用ヒザル可ラズ。此レ所謂形様原因ナリ。材料既ニ集リ屋體既ニ定レバ、工匠ハ奔走經營シテ運動ヲ作ササル可ラズ。故ニ工匠ハ所謂動作原因ナリ。然ルニ此建築ヲ起スノ目的トスル所ハ、必ズ住居ノ利樂ニ外ナラズ。左レバ材料モ屋體モ工匠モ、共ニ此目的ヲ達セントスルノ方便タル

可シ此レ所謂結局原因ナリ然リ而シテ彼ハ一神論者ハ神ハ萬有ヲ創
 造シ攝理スルヲ説クト雖モ神ヲ以テ萬有ハ實在ト即一ナリトセズ此
 レ神ノ形様原因タルヲ認メテ元質原因タルヲ認メザルニテラズ
 ヤ然レハ彼レ既ニ神ヲ以テ獨立ニシテ無始ナル第一原因トスルハ
 元質原因モ亦タ神外ニアリトス可ラズ此レウヰルリアムハミルトン
 氏等モ唱説スル所ナリ然ルニ一神論者ハ此際ニ方リ遁詞ヲ設ケテ曰
 ヲ神ハ萬有ノ第一原因タルモ神即萬有ヲラズ何トナレバ神ハ全能ノ
 力ヲ有スルヲ以テ無ヨリ有ヲ生シ因ナクシテ果ヲ生ズルモ自由タル
 可シ左レバ神ハ萬有ヲ創造スレドモ亦タ萬有ト異ナルヲ得ベシ然
 レハ此○全○能○力○ナ○ル○モ○ノ○ハ○神○ノ○附○性○(Attribute)ナリ凡ソ附性ナルモム
 ハ○萬○有○ニ○顯○ハ○ル○事○實○ヲ○以○テ○基○本○ト○セ○ザ○ル○可○ラ○ズ○然○ル○ニ○物○理○的○ノ○顯
 象ハ因果一定ノ大法ニ從ツテ萬古素レズ只心理的ノ顯象ハ古來意志

ノ自由ト稱スル一説アリト雖モ此レ亦タ近世學理ノ進歩ニ從ヒ漸ク
 一變シテ因果一定ノ説トナラントス而シテ思想ノ法則ハ決シテ無因
 ノ説ヲ許サレバ神ニ全能ノ附性ヲ歸ス可キ事實アルコトナシ若シ神
 ハ宇宙萬有ノ第一原因ナリ故ニ全能ナリト云ハマ此レ第一原因ヲ以
 テ全能ヲ證明シ亦タ全能ヲ以テ第一原因ヲ證明セント欲スルモノニ
 シテ其極タル途ニ無數ノ循環論理ヲ生ズルニ至ル之ヲ要スルニ神ヲ
 以テ宇宙萬有ノ第一原因トスルノ説ハ彼ノアリストツルガ四種ノ源
 因ヲ悉ク包括セザル可ラズ而シテ其歸結スル所ヲ推スニ萬有ハ神
 ノ一部分タルノ一大真理ヲ證明スルニ外ナラズ何トナレバ第一原因
 ハ獨リ形様原因結局原因タル而已ナラズ亦タ元質原因動作原因タラ
 ザル可ラザルナリ
 之ヲ要スルニ神ニシテ存在セバ其存在(Existence)ハ絶對無限ナラザル

可ラズ。然レハ絶対無限ノ存在ハ其實萬有ト即一ナリ。然ルニ一神論者或ハ言フ神ヲ指シテ絶対無限トスルハ特ニ其智慧能力目的ノ絶対無限ナルヲ歎稱スルモノナリ。然ラハ神ハ其無限ノ智慧無限ノ能力無限ノ目的ヲ以テ萬有ヲ創造シ萬有ヲ攝理シ萬有ヲ結局スト雖モ猶ホ萬有ト異ナルヲ得ルニアラズヤト特ニ知ラズ智慧ハ如キ能力ハ如キ目的ノ如キハ神ノ存在ノ表現シタルモノニ過ギズシテ所謂附性ハミ。若シ先ヅ神ノ存在即チ本會ナルモノアラズンハ知慧焉クヨリ發シ能力焉クヨリ發シ目的焉クヨリ發センヤ故ニ正當ナル論理ノ順序ヲ以テ之ヲ論ズレハ神ノ存在ハ此等ノ附性ニ先テ既ニ備ハルモノナリトセザル可ラズ。而シテ神ノ存在既ニ絶対ナリ無限ナリ。宇宙萬有亦タ豈ニ絶対無限ノ現象タラザルヲ得ンヤ。然リ而シテ第一原因ノ點ヨリシテ立論スルモ神ヲ以テ獨リ宇宙萬有結局原因ナリトセズ亦タ必ズ

元質源因ナリトセザル可ラザルトキハ益々以テ一神教ノ不完理ヲ明ニシテ凡神教ノ完理ヲ示スニ足ル可シ故ニ多神教ノ論理ニ一歩ヲ進ムレバ其勢一神教タラザルヲ得ズ一神教ノ論理ニ又タ一歩ヲ進ムレバ其勢凡神教クヲザルヲ得ズ之ヲ譬フレバ一神教ハ凡神教ノ黄金ヲ以テ作りタル牡丹唐獅子ノ如シ其牡丹タリ唐獅子タルノ形状ヲ以テ之ヲ觀ルルキハ黄金ニアラザルガ如シト雖モ之ヲ鎔盪スレバ乍チ其元質ノ黄金タルヲ見ハス可シ而シテ一神教ノ形状ハ則チ凡神教ノ元質ヨリ陶鑄シタルモノナリ。

然ラハ吾輩ハ進ンデ少シク凡神教ノ真理ヲ開示セザル可ラズ。凡神教ニ於テ論定スル神ノ性質ハ何如ナルモノナルカ。蓋シ凡神教ニ於テハ絶対無限ノ存在アルヲ信ズ。宇宙萬有ハ此絶対無限ノ現象ナルヲ信ズ。而シテ絶対無限ハ固ヨリ無始無終不生不滅ノ本體タルヲ信ズ。此レ無

形上ノ論理(Ontological Reason)ヨリシテ神ノ理性ヲ立テタルモノナリ。左レハ無形上ノ論理ニノミ據ルキハ神ハ只絕對無限ノ存在ニシテ萬有現象ノ本體タルヲ斷定スルニ止リテ其他ノ性質ハ得テ知ル可ラズ。故ニ又タ有形上ノ論理(Cosmological Reason)ヲ以テ之ヲ論ゼザル可ラズ。夫レ神既ニ宇宙ノ本體ダレバ萬有現象ハ皆テ神ノ表現タルハ言ヲ待タザル可シ。然リ而シテ神ノ表現タル萬有ハ物質勢力運動ノ三大現象トナリテ茲ニ現ハレ。此三大現象進化スレバ自然生活思想ノ三大階級トナル。而シテ進化ノ目的トスル所ハ至善至美至眞ニ外ナラズ。蓋シ此目的ヲ認識シテ其理想トスルモノハ世界ニ於テ獨リ人間ニ止マルガ如シト雖モ其實萬有進化ノ最終結局ニシテ吾輩ハ亦タ之ヲ以テ絕對無限ノ目的トセザルヲ得ズ。抑モ絕對無限ノ存在ナルモノハ不可思議ノ天國ニシテ之ニ歸スルニ何等ノ附性ヲモ以テス可ラザルガ如シト雖

モ絕對無限ノ存在。既ニ萬有ノ本體ダレバ其現象ニ就ヒテ本體ノ目的ヲ知ルハ決シテ論理ニ戻ルモノニアラズ。而シテ萬有進化ニ於テ既ニ其目的ヲ發明スレバ從ッテ亦タ無限心意(Infinit Intelligence)ヲ推考セザル可ラズ。既ニ無限心意ヲ推考スレバ進ンテ又タ普通意志(Universal Will)ヲ論定スルモ敢テ不可ナリトセズ。左レバ萬有ハ進化シテ其最上目的ニ達セザル可ラズ。此進化ニ反對スルモノハ自然淘汰ノ理ニ從ッテ滅亡セザル可ラズ。人間ハ進化ノ最高階級ニ地位ヲ占ムルヲ以テ進化ノ目的ヲ認識スルノ榮光アリ。故ニ又タ之ヲ實行スルヲ以テ其義務トセザル可ラズ。抑モ又タ萬有現象ハ絕對無限ノ表現ナルヲ以テ其進化ハ那點ニ達ス可キヤ。那點ヲ以テ極度トス可キヤ。此レ智力ノ及バザル所ナリ。然レモ感情ニ至リテハ智力ノ及バザルヲ以テ満足スル能ハズ。於是乎顯示教ヲ渴望スルニ至ル。

上來述ブル所ハ多神教一神教凡神教ノ大綱ヲ示スニ外ナラズト雖也。此大綱既ニ同ラザレハ從ツテ亦タ理想道德信仰ノ異ナルアルハ固ヨリ論ヲ待タズ。然レモ多神教ノ最モ進歩シタルモノハ其理想道德或ハ一神教ト異ナラザル可シ。又ク一神教ノ最モ進歩シタルモノハ其理想道德亦ク或ハ凡神教ト異ナラザル可シ。故ニ實際ハ點ヨリシテ言フモ、彼ヲ存スルモ可ナリ。此ヲ立ルモ亦ク可ナリ。一チ廢シテ一チ立ルモ更ニ差別ヲ見ザルガ如シト雖モ人間ハ真理ニアラザレバ満足スル能ハズ。宗教ノ壯麗偉觀ナル一大殿堂ハ獨リ信仰ニヨリテ其基礎ヲ支フルモノナリ。故ニ信仰ノ基礎一タビ動搖スルキハ其儀式ハ徒ラニ虛儀タルニ過ギズ。テ漸ク將サニ社會人心ヲ維持スル能ハザラントス。其道德ノ如キモ舊慣積習ノ致ス所ヲ以テ或ハ猶ホ生氣ヲ含ムガ如シト雖モ彼既ニ水ニ渴シタルノ插花ナリ。焉ゾ久ク新鮮艶媚ノ色香ヲ呈セ

ンヤ。今ヤ耶蘇教ノ歐米各國ニ於ケル殆ンド此ニ類スルモノアラザル歟。蓋シ方今文明世界思想發達ノ度ハ一神教ノ時代既ニ去リテ凡神教ノ時代將サニ來ル而シテ彼ノ耶蘇教ナルモノ猶ホ主義ヲ固執シテ時ト共ニ進化スルヲ知ラズ。此レ其物質的ノ文明進歩スルニ比例シテ精神的ノ文明未ダ進マズ。智力的ノ文明進歩スルニ比例シテ道德的ノ文明未ダ進マザルハ一大原因ナリト云ハザル可ラズ。凡ソ人間思想ノ發達スル從來確信スル所ノモノモ必ズ之ヲ疑フニ至ル。既ニ一タビ疑ヲ生ズレバ信仰必ズ薄弱ス。信仰既ニ薄弱ナレバ道德必ズ衰頹ス。故ニ既ニ薄弱シタルノ信仰ハ恰モ猶ホ死體ノ如ク又タ之ヲ喚起活動セシム可ラズ。左レハ我邦ニ於テ近日道德ノ衰頹スルヲ憂ヘテ種々挽回スルノ術ヲ講ズルモノアリト雖モ思想發達ノ度ニ適スルノ信仰ヲ與ヘズンバ遂ニ實効ヲ奏スル能ハザル可シ。左レハ耶蘇教

ヲ輸入シテ之ヲ救フ可キ乎。曰ク耶蘇教ハ既ニ文明世界思想發達ノ度ニ適スル能ハズ。殆ンド既ニ信仰薄弱ナルノ現象ヲ生シタリ。然ラバ則チ此信仰薄弱ナルノ耶蘇教ヲ以テ其儘日本ニ輸入シタリトモ。日本國民ノ道德ヲ救フ可キ乎。故ニ吾輩ハ日本ノ道德ヲ挽回スルノ術ヲ講ゼント欲セバ先ヅ第十九世紀文明世界ノ信仰ヲ一變シテ大活動力ヲ新生スルノ大業ニ當ラザル可ラズ。

抑モ吾輩ガ自然教ノ進化ヲ以テ多神教一神教凡神教ノ三大階級トナシタルモノハ人間思想發達ノ順序ニヨルヲ以テ之レチ一國ノ上ニ適用シテ何ノ頃ヨリ何ノ頃迄ハ多神教ノ時代ナリ。何ノ頃ヨリ何ノ頃迄ハ一神教ノ時代ナリト判然界線ヲ畫スル能ハズト雖モ同國同時ノ人物ニシテモ其思想ノ發達スルト發達セザルトニ由リチ自ラ判ル、所ナキニアラズ。然ルニ吾輩若シ現世紀歐米ノ文明ヲ以テ自然進化ハ一

大現象ナリトスルキハ羅馬帝國覆滅ノ後ニ方リテ耶蘇教ガ歐洲大陸チ一統セザル以前チ以テ多神教ノ時代トセザルチ得ズ。又學問中興以來、理哲二學大ニ其旭光ヲ放チテ暗世ノ長夜ヲ破リ自由思想茲ニ發達スルヲ以テ凡神教ノ時代始メテ開キタリトセザル可ラズ。而シテ此三大教ガ各其時代ノ社會ニ政治ニ技術ニ文明ニ影響ヲ及ボシ交互ノ關係ヲ有スルニ至リテハ實ニ歴史家ガ講究セザル可ラザルハ一大事實タリ。蓋シ多神教ハ無心ノ造化ニ歸スルニ有心ノ性質ヲ以テシ。又タ人間無形ノ思想ニ歸スルニ有形ノ體狀ヲ以テスルヲ以テ大ニ想像ヲ養成シ美術ヲ進步スルノ功績アリ。即チ印度波斯巴比倫埃及ノ古代各國ハ美術ヲ以テ後世ニ誇ルニ足ルモノアリ。而シテ希臘ノ如キハ最モ其極致ニ達セルモノトセザル可ラズ。次ニ多神教ハ各國人民其崇奉スル所ノ國神ナルモノアリテ其國ノ榮光武震ヲ耀揚スルヲ以テ其目的ト

セザルハナシ。故ニ君主人民ハ其國神ノ歡心ヲ買ヒ保護ヲ仰ガンガ爲メニ他國ヲ制服シ自國ヲ強盛ナラシムルニ汲々タラザルハナシ。此點ヨリシテ言フキハ多神教ハ愛國心ヲ養成スルノ利益アリ。彼ノ舊約聖書ノ所謂萬軍ノ耶和華ノ如キモ其實此國神ノ一種タルニ過ギズ。然レモ多神教ハ亦タ半神半人ノ教ナルヲ以テ。古代各國ノ君主ハ往々自ラ神ト稱シ無限抑壓ノ政ヲ施シ以テ人民ヲ制馭スルノ術ヲ逞ノスルニ至ル。彼ノ巴比倫王チブカドチサルガ高大ナル金像ヲ鑄リ人民ヲ率ヒテ之ヲ崇拜セシメタルガ如キハ昭明較著ナル適例ト云ハザル可ラズ。然ルニ進ンテ一神教ノ時代ニ至レバ始メテ人間平等ノ理ヲ唱フルモ猶ホ君主ノ權ヲ以テ神權トシ其戰爭ノ如キハ漸ク攻撃的ノ性質ヲ一變シテ防禦的ノ性質トスルノ傾向アリト雖モ猶ホ基督教國ノ名義ヲ立テ異邦國民ヲ敵視スルノ態ヲ免レズ其道德法律ノ如キハ人爲ナ

樂テ天爲ニ就ク可キヲ主張スト雖モ智識思想ノ發達ハ力ヲ極メテ之レヲ挫折セント企テタリ。然リ而シテ思想自由既ニ發達シ理哲二學既ニ進歩スレバ社會人心ハ恰モ歡天喜地凱歌ヲ唱ヘテ凡神教ヲ迎ヘント欲スルモノ、如シ何トナレバ理哲二學ニアラザレバ凡神教ノ真理ヲ顯ハス能ハズ。凡神教ニアラザレバ理哲二學ノ終局ヲ結ブ能ハズ。而シテ哲學ニシテ進歩スレバ思想自由ノ萌芽茲ニ發シ。理學ニシテ進歩スレバ生産實業ノ旭日茲ニ昇ル。而シテ思想自由ノ人心ニ於ケル。生産實業ノ社會ニ於ケル。其勢誠ニ世界文明ノ全局ヲ一變スルニ足ルモノアリ。蓋シ歐洲學問中興以來ハ思想自由ノ發達。理哲二學ノ進歩。互ニ相密着シ。互ニ相聯結シ。主トナリ伴トナリ。先鋒トナリ後殿トナリ。駉々乎トシテ世界ノ大勢ヲ驅リテ。此點ニ赴カシメ。佛國革命ニ至リテハ方サニ滔天翻海ノ一大波瀾ナ

ルヲ見ル故ニ佛國革命ハ最モ概括ナル觀察ヲ以テ見解ヲ下スキハ之
 レテ政治上ノ革命ナリト云ハソヨリモ寧ロ宗教上ノ革命ナリト云フ
 ニ若カズ之レヲ無神の運動ナリト云ハソヨリモ寧ロ凡神の運動
 ナリト云フニ若カズ
 吾輩ハ論シテ此ニ至レバ人間ノ智識信仰ハ單孤ナルモノニアラズ社
 會諸種ノ現象ハ端緒相連リテ必須不離ノ關係アルヲ見ルニ至ル今マ
 夫レ一神教ニ於テ世界ニハ唯一上帝アリ其權能至尊至大ニシテ對敵
 アルヲナシト云ヘルモノハ政治上ニ於テ君主ハ制限ス可ラザルノ主
 權ヲ有スルト云ヘルト同一ノ現象ニアラザル乎一神教ニ於テ世界萬
 物ハ上帝ガ其榮光ヲ彰サンガ爲メニ之ヲ造ルト云ヘルモノハ政治
 上ニ於テ一國人民ハ君主ガ其私欲ヲ達センガ爲メノ手段トシテ存ス
 ルモノナリト云ヘルト同一ノ現象ニアラザル乎一神教ニ於テ天地萬

物ハ皆ナ上帝ノ物ナリト云ヘルモノハ路易十四世ガ國家ハ即チ朕ナ
 リト云ヘルモノト同一ノ現象ニアラザル乎一神教ニ於テ上帝ハ以テ
 萬物ハ法則ヲ作ル可シ故ニ亦之レヲ破ル可シト云ヘルモノハ政治
 上ニ於テ國家一切ノ法律ハ悉ク君主ハ私意ニ發スト云ヘルモノト同
 一ノ現象ニアラザル乎一神教ニ於テ人間道德ノ標準ハ上帝ノ意旨ヲ
 奉ズルニアリト云ヘルモノハ政治上ニ於テ適モナク莫モナク唯君主
 ハ命是レ從順スト云ヘルモノト同一ノ現象ニアラザル乎一神教ニ於
 テ上帝ハ賞罰ノ大權ヲ握リ人間ヲ畏愛シテ其權下ニ俯服セシムルト云
 ヘルモノハ政治上ニ於テ君主ハ其權ヲ以テ生殺與奪ヲ恣ニスト云ヘ
 ルモノト同一ノ現象ニアラザル乎一神教ニ於テ萬物ハ皆ナ上帝ノ特
 造ニ係リテ本來差別アリト云ヘルモノハ政治上ニ於テ社會ノ階級ハ
 天爲ニ出テ易フ可ラズト云ヘルモノト同一ノ現象ニアラザル乎此

ニ由リテ之ヲ觀レバ、宗教ト政治トハ、其現象ノ性質ヲ同フスルモノナリト云ハザルヲ得ズ、而シテ一宗教ト君主獨裁ノ政體トハ、互相表裏スルモノナリト云ハザルヲ得ズ、然ルニ今ヤ君主獨裁ノ政體ハ安クニ在ルヤ、而シテ一宗教ハ抑モ將タ那ノ針路ニ向ツテ進化セントスルカ、吾輩スペンセル氏ガ論ヲ聞クニ曰ク、宗教上ノ思想ハ其人民ノ性質ト互相適合ス、然レハ人民ノ性質變化シテ止マザルモノナレバ、宗教上ノ思想モ亦タ共ニ變化セザル可ラズト、而シテ氏ハ又タ耶蘇教ニ於テ鏘々有名ナル大家ノ説ヲ引證シテ曰ク、宇宙萬有ノ第一性ハ神ニモ客觀的ノモノナレバ、以テ神ノ行爲ヲ制限ス可シ、神ハ唯其第二性ニ於テ自己ノ靈能意志ヲ決行スルヲ得ルト、夫レ果シテ此ノ如クナレバ、一宗教モ亦上帝專治ヨリ漸ク進んで立憲上帝政ヲラント欲スルカ。

若レ上來論ズル所ヲ以テ少ク想像的ノ概括ニ過ルトセバ、吾輩ハ更ニ

他ノ問題ニ就ヒテ現時文明ノ大勢ハ既ニ頗ル一宗教ノ時代ヲ經過シタルヲ説明セント欲ス、抑モ一宗教ニ於テハ、世界人類ハ祖先以來ノ罪惡ヲ以テ既ニ墮落シ、自ラ振ツテ高尚完美ナル道德福祉ノ域ニ進ム能ハズ、故ニ感化ヲ要スト、此説ハ如キモ亦タ現時世界ノ新主義ニ反對ス、ト云ハザル可ラズ、試ニ看ヨ、吾輩ノ遭遇スル第十九世紀ノ一大特異ナル標幟ハ政治ニアレ、法律ニアレ、經濟ニアレ、教育ニアレ、干渉主義衰頽シテ放任主義勃興シ、抑壓主義勢力ヲ失シテ自由主義輝光ヲ放クントスル是也、故ニ能フ可クンバ政治ニ於テハ、自治ヲ尙ンデ政府職務ノ範圍ヲ狭クセント欲シ、能フ可クンバ法律ニ於テハ、各人ノ權利ヲ保護スルニ其歩ヲ駐メテ行爲自由ノ版圖ヲ擴メント欲シ、能フ可クンバ商業ニ於テハ、自由貿易ヲ主張シテ保護政策ヲ擯斥セント欲シ、能フ可クンバ教育ニ於テハ、外力檢束ノ舊習ヲ脱セシメテ自力開發ノ原則ニ由ラ

シメントスルガ如キ一トシテ人類發達ノ新主義勝利ヲ占メントスル
 ノ休徴ヲ示サイルハナシ然リ而シテ此新主義ノ基ク所ノモノハ實ニ
 萬有進化ノ理法世ニ明ナルニ職由セズンアラズ蓋シ進化主義ニ據レ
 ハ人類社會ニ禍害尙ホ存シ罪惡跡ヲ絶タザルモノハ進化ノ未ダ全ラ
 ザルニアリトシ而シテ進化ヲ遂ゲセシムルノ方法ハ亦唯其自然ニ逆
 フテ之レヲ矯枉スルニアラズ即チ其自然ニ順ツテ之レヲ利導スルニ
 アリトス左レハ此點ニ關シテハ耶蘇教ノ人類墮落說ト社會發達ノ新
 主義トハ正サニ反對ニ出ルモノナリト云ハザル可ラズ然レモ現世紀
 文明ノ大勢ハ復タ一神教ノ敢テ抗スル所ヨアラズ故ニ熱心ナル一神
 論者ヲ以テ自ラ任ズルモノト雖モ却ツテ此新主義ノ真理ヲ主張シテ
 疑ハザルニ至ル而シテユニテリアン宗派ノ如キハ更ニ一步ヲ進メテ
 一大活眼ヲ刮破シ人間ハ決シテ墮落スルモノニアラザルナリ人類社

會ハ自ラ進化シテ最善最美ノ境過ニ達スルノ機能ヲ有スルモノナリ
 一 大聲絶叫シテ敢テ願ミザルナリ
 之ヲ要スルニ理哲二學ハ人類進化ノ泉源ニシテ近世歐洲ノ文明ハ實
 ニ其賜ニアラザルハナシ然レモ理哲二學ハ人間ノ智識ヲ開キ其進歩
 ナ促ガスコハ盛大ナル勢力アルモノニシテ獨リ世界ノ平和ヲ助ケ實
 利ヲ進ムルノミナラズ抑モ又タ妄想ヲ排シテ真理ヲ闡明シ不正ヲ改
 ノテ正道ヲ鼓舞シ從來ノ薄弱ナル信仰ヲ破リ更ニ強大ナル信仰ヲ以
 テ之ニ代ヘント欲スルモノ也從來ノ識見ヲ破リ更ニ博大ナル識見ヲ
 以テ之ニ代ヘント欲スルモノ也故ニ其運動ハ獨リ破壞的ニアラズシ
 テ亦タ建設的ナリ然レモ其破壞的ヨリシテ建設的ニ經過セントスル
 ニハ毎ニ革命ニ出デザルヲ得ズ噫文明世界學問政治法律社會習慣ノ
 革命皆ナ既ニ運動ヲ始メタリ宗教豈ニ獨リ革命ノ運動ニ遭遇セザル

ヲ得ンヤ、然ラバ、則チ、吾輩ハ、敢テ、斷言ス、宗教革命ノ、一大運動ハ、必ズ、將來ニ、起ラシ、然レ、モ、既ニ、將來ニ、起ル、トセバ、亦、ク、必ズ、既往ニ、其準備ナカル、可ラズ、而シテ、世人此革命準備ノ、現象ニ、注目スル、モノハ、鮮キハ、何ゾヤ、

第四章 眞理ニ合スル純全ナル宗教

吾輩ノ所見ヲ以テスレバ、極メテ眞理ニ合シ極メテ完全ナル理想宗教ハ、一方ニ於テハ、理智ニ學ノ極致ヨリ生ズル自然教ノ基礎ヲ有シ、他ノ一方ニ於テハ、智力推理ノ及バザル所ニ於テ、人間ノ最大目的ニ應ジ宗教感情ヲ満足セシメンガ爲メニ顯示ヲ有スルノ宗教是也、左レバ此ノ如キ理想宗教ハ、果シテ歴史宗教タル可キ乎、更ニ之レヲ詳説スレバ、吾輩ノ思想ニ於テハ、眞理トシテ完全トスルノ宗教ハ、亦、ク、果シテ實際世界ニ存在スルモノナル乎、若シ實際ニ存在セズンバ、吾輩ノ理想宗教ハ、只一

ノ空想タルニ過ギザル可シ、果シテ存在ストセバ、知ラズ孰レノ宗教ナル歟、

夫レ、耶蘇教ノ一神教ニシテ、佛教ノ凡神教ナルハ、吾輩ノ前論スルガ如シ、故ニ單ニ自然教ノ點ヨリシテ、言フキハ、佛教ノ耶蘇教ニ卓絶スル論ヲ待タズ、即チ、耶蘇教ハ、一神教ノ時代漸ク經過スルニ從ツテ、之ト共ニ信仰ヲ失シ、佛教ハ、凡神教ノ時代漸ク到達スルニ從ツテ、之ト共ニ愈々信仰ヲ得ルニ至ル可シ、然レ、モ、一神教凡神教ハ、自然教ノ眞理ヲ判斷スルニ足ラズ、何如シ、トナレバ、自然教ハ、宗教ノ一面ニシテ、他ノ一面ハ、顯示教ナラザル可ラザレバ、ナリ、蓋シ、自然教ナルモノハ、理智ニ學ノ建設ナル所ニシテ、不完全ニ、理智ニ學ノ推理ヲ應用スレバ、以テ一神教ヲ生ズ可シ、完全ニ、理智ニ學ノ推理ヲ應用スレバ、以テ凡神教ヲ生ズ可シ、彼ノ歐洲學術ノ大ニ進歩スル、一神教ヲ以テ完全ナル眞理トセズ、哲學ニ

由リテ凡神教ヲ建設スルモノ勝ゲテ數フ可ラズ然レモ其耶蘇教ニ代
 リテ社會人心ヲ統御スル能ハザルモノハ只自然教ニシテ顯示教ナラ
 ザレバナリ故ニ佛教ニシテ自然教タルニ過ギズトセバ亦タ彼ノヘ
 ゲルル一諸氏ガ建設シタル哲學ト毫モ其異ナルヲ見ザル可シ而シ
 テ豈ニ能ク真正ノ宗教タルヲ得ン哉
 吾輩竊ニ佛教各派ノ説ク所ヲ看ルニ大小卑高ノ別アリト雖モ其全體
 ノ結構ニ至リテハ凡神教ヲ以テ基礎トセザルハナシ即チ俱舍ノ如キ
 ハ唯物主義ヨリ進ンテ絕對ノ存在ヲ論シ唯識ノ如キハ唯心主義ヨリ
 進ンテ絕對ノ存在ヲ論シ成實ノ如キハ現象ノ假想ナルヲ論シ三論ノ
 如キハ絕對ノ思議ス可ラザルヲ論シ華嚴天台ニ至リテハ萬有即チ絶
 對ノ現象ナルヲ論ズ凡神教ノ眞理茲ニ至リテ深奧ヲ極メタリト云フ
 可シ然レモ若シ佛教ノ説ク所ヲシテ此ニ止ラジメバ佛教ハ僅カニ自

然教ノ基礎ヲ築キタル迄ニシテ近世哲學ノ講明スル所ト何ゾ異ナル
 アラン唯其レ此ニ止ラズシテ無限心意ノ目的ヲ示メシ人性ヲ開發セ
 レメテ無限心意ト一體ヲラシムルノ道ヲ説クニ至リテハ正サコ是レ
 佛教ノ顯示教タル所以コシテ佛教ノ適當ニ宗教タル所以ハ蓋シ此ニ
 在ル可シ故ニ之ヲ一言スレバ佛教ハ凡神教ヲ以テ基礎トスルノ顯示
 教ナリ
 佛教ヲ以テ既ニ顯示教ナリトセバ佛教ノ開祖タル釋尊其人ハ顯示者
 ノ地位ニ立タザル可ラズ而ルニ釋尊ハ果シテ顯示者タルノ價值アル
 ヤ否ヤ吾輩此點ニ關シテハ十分公平ノ見ヲ以テ其人物ヲ評論セザル
 可ラズ
 彼レ二千八百八年前印度ノ中央王國極盛ノ運ニ降誕シタル悉達太子
 ナルモノハ果シテ何等ノ景仰驚歎ス可キ神聖大尊ナル一大現象ナル

彼レ生レテ相貌端嚴風采非凡聰明智慧真ニ倫類ニ絶シ長ズルニ從
 ヒ騎射ヲ善クシ算數ニ精ク當時印度ノ文學武技一ツトシテ練達セザ
 ルハナク深宮ノ裡ニ長シ富貴榮華窮極ナク飲食歌舞歡樂ヲ助ケ凡ソ
 耳目ノ欲スル所性情ノ娛ム所何ヲ求メテカ得ザランヤ何ヲ爲シテカ
 成ラザランヤ然レモ安逸ニ耽ラズ肉慾ニ汚サレズ至聖ナル名譽ト樂
 光トチ全ク一朝忽チ人間命運ハ宏大深遠ナル真理ニ感動セラレ萬
 乘至尊ノ王位ヲ棄テ王宮ヲ遁レタリ此レ豈ニ人間模範(Human Model)
 最モ完全ナルモノニアラズヤ彼レハ武術兵技ヲ以テ身體ヲ發達シ文
 學性理ヲ以テ其才智ヲ鍛練スルノミナラズ美術ヲ脩メ禮儀ニ嫻ヒ世
 態ニ通シ人情ヲ知り凡ソ人性ニ於テ發達ス可キ天性技能美辭才智感
 情思想經驗ハ悉ク之ヲ美麗ニ完全ニ發達セザルハナシ此レ豈ニ人間
 發達(Human Development)ノ最美ナル花ニアラズヤ彼レハ一身ヲ犧牲ニ

シテ一切衆生ヲ子視シ其人間ヲ愛スル限量アルコトナシ然レモ其觀念
 ハ萬有ノ表ニ卓絶シ其志氣極メテ高尚ナリト雖モ其慈愛尤モ懇切ナ
 リ其欲ヲ制シ私ニ克ツノ勇氣ニ至リテハ至大至剛ニシテ殆ンド凡天
 下ノ物ヲ以テスルモ之レ敢テ動カスニ足ラズト雖モ其心ハ常ニ喜悅
 ト平和トヲ以テ充滿シタリアルノルド氏云ハズヤ此純潔ニシテ温和
 ナル印度ノ教師ハ真ニ王侯大人ノ品格ヲ備ヘタリ聖賢ノ智慧ヲ有シ
 タリ熱心ニ溢レタル殉教者ナリト此レ豈ニ人間徳性(Human Virtues)
 ノ最モ善ク調和セタルモノニアラズヤ彼レガ教ヲ説キ道ヲ傳フニ權
 威ヲ以テセズ命令ヲ以テセズ一ニ之ヲ衆生ノ良心ト理性トニ訴ヘテ
 曰ク唯人ノ説クカ故ニト云フテ信スル勿レ聖賢ノ書ハ唯聖賢著ハセ
 シガ故ニト云フテ信ズル勿レ亦ダ吾ガ教フル所ハ吾レ之ヲ教フルガ
 故ニト云フテ信ズル勿レ唯汝ノ良心ト理性トニ適スルモノニシテ然

ル、後、チ、ニ、之、ヲ、信、セ、ヨ、ト、抑、モ、亦、タ、彼、レ、ハ、何、人、ゾ、萬、乘、至、尊、ノ、太、子、ナ、リ、貴、族、ノ、高、等、ニ、位、ス、ル、モ、ハ、ナ、リ、且、ツ、一、世、界、國、民、ノ、最、モ、種、族、ヲ、重、ン、シ、門、閥、ヲ、尙、ブ、ノ、社、會、ニ、生、レ、乍、ラ、習、慣、ハ、鐵、天、地、ヲ、破、リ、始、メ、テ、人、類、平、等、ノ、一、大、眞、理、ヲ、唱、說、シ、タ、ル、モ、ハ、彼、レ、其、人、ニ、ア、ラ、ズ、ヤ、然、レ、モ、彼、レ、ハ、温、和、ニ、之、ヲ、唱、說、シ、敢、テ、過、激、ナ、ル、手、段、ヲ、用、ヒ、ズ、人、種、邦、國、ノ、同、異、ヲ、問、ハ、ズ、博、ク、一、切、人、類、ヲ、愛、シ、之、レ、ヲ、以、テ、其、目、的、ト、セ、リ、此、レ、豈、ニ、自、由、平、等、博、愛、ヲ、以、テ、生、命、元、氣、ト、ス、ル、人、間、進、步、(Human Progress)ノ、最、モ、公、明、正、大、ナ、ル、首、唱、者、ニ、ア、ラ、ズ、ヤ、

夫レ古今世界ノ偉人ヲ稱スレバ、必ズ耶蘇孔子、ソクヲテスニ、僕指ス可シ、此三氏ハ、誠ニ命世ノ大賢ナリ、然レモ有名ナル耶蘇一代記ノ著者ス、ト、トリス氏曰ク、耶蘇ハ、道徳上ニ於テハ、實ニ完全ナル人間模範ノ理想ナルモ、技術上ノ理想ニ至リテハ、猶ホ缺ル所アルヲ免レズト、果シテ然

リ、氏ナシテ我が釋尊ヲ評セシメバ、將サニ何等ノ辭ヲ以テセントスルカ、孔子ノ好學力行固ヨリ敬ス可シ、然レモ孔子ハ人ニ示スニ進歩ノ理想ヲ以テセズ、又自ラ振ツテ新時代ヲ創開スルモ、ハ、ア、ラ、ズ、故ニ孔子ヲ稱シテ支那人中ノ支那人ト云ヘルハ、適切至當ノ評ト謂フ可シ、豈ニ我が釋尊ト其優劣ヲ比スルニ足ランヤ、而シテソクヲテスノ思想稍々高尚闊大ナルモ、亦タ釋尊ノ完全ナル發達ニ及バズ、然ラバ則チ單ニ其人ヲ以テ評スルモ、世界無比古今獨歩ノ人物ハ、悉達太子ナリト稱歎贊美セザルヲ得ズ、若シ更ニ其講明シタル哲學ニ就ヒテ之ヲ論ズレバ、實ニ古今東西ノ哲學者ガ說ク所ハ、如何ニ博大ナルモ、如何ニ精緻ナルモ、未ダ嘗テ釋尊思想ノ範圍外ニ出デシモノアルヲ見ズ、吾輩亦タ焉ンツ彼ノ井上氏ニ倣フテ、眞ニ是レ思想ノ大海哲學ノ源泉ニシテ、古今東西ハ、諸論諸說皆ナ、其一滴タルニ過ギズ、如何ナル識者ト雖モ、此中ニ入り

テ、自己ノ見識ハ小ナルヲ見如何ナル學者ト雖モ此中ニ入りテ自己智
 カハ足ラザルヲ知リ自ラ其智力ヲ屈シ其見識ヲ卑フシテ佛界ノ廣大
 無邊深遠不測ナルニ驚歎ス可シト云ハザルヲ得ンヤ
 然レモ吾輩ハ敢テ獨リ釋尊ノ人物ト哲學トノミヲ以テ其顯示者タル
 ノ資格ヲ定ムルモノニアラズ即チ亦タ顯示其物ニ就ヒテ其信ズ可キ
 ト其信ズ可ラザルトチ判斷セザル可ラズ夫レ絶對無限ノ體ハ吾輩得
 テ識ル可キノ範圍ニアラズ然レモ此絶對無限ノ現象ハ即チ宇宙萬有
 ナリ然ルニ萬有進化ノ順序タル自然一進シテ生活ヲ生シ生活又ター
 進シテ思想ヲ生シ而シテ思想ノ目的トスル所ハ至善至美キ眞ニアレ
 バ決シテ無限心意ナシト否定ス可ラズ亦タ無限心意ハ至善至美至眞
 ナラズト否定ス可ラズ吾輩推理ノ及ブ所ハ蓋シ此ニ駐ルノミ然ラハ
 無限心意ハ人間ト如何ナル關係ヲ有スルカ如何ニシテ人間ヲ濟度ス

ルカノ問題ニ至リテハ是レ則チ顯示ノ範圍ニシテ高尚深遠ナル哲學
 ト雖モ解釋ヲ與フル能ハズ只宗教ニシテ此問題ヲ解釋スル能ハザル
 モノハ眞正ノ宗教トスルニ足ラザルナリ然ルニ釋尊ハ吾輩ニ誨フル
 ニ因果ノ理法ハ三世ニ通シ禍害ノ存在スルハ人ニ未ダ進化セサル
 ニアリ故ニ只愛ト眞理トハ天國ニ達スルノ正路ナルヲ以テ又タ萬
 有ノ目的ヲ示シ絶對ノ門ヲ開キテ吾輩ニ誨フルニ無限心意ハ佛陀
 ト現ハレ廣大無量ノ智慧ト慈悲トヲ以テ一切衆生ヲ濟度スルヲ以
 テシタリ然ラハ則チ釋尊ノ顯示タル人間自然ノ感情ニ契合シ徒ニ其
 宗教心ヲ満足スルニ足レルノミナラズ更ニ之ヲ發達シテ無限ノ福祉
 ト無限ノ希望トヲ與ヘザルハ莫シ
 然ラハ則チ眞理ニ合スル純全ナル宗教ハ佛教ヲ除ヒテ他ニ求ム可ラ
 ズ蓋シ宗教心ヨリシテ論ズレハ佛教則チ智力感情意志併セテ満足セ

シムルノ宗教ナリ、自然教ヨリシテ論ズレハ、佛教則チ其進化ノ極點ニ達シタルノ宗教ナリ、顯示教ヨリシテ論ズレハ、佛教則チ顯示者ノ資格ヲ備フルノ教祖チ有スルノ宗教ナリ、夫レ然リ之レチ人間自然ノ天性ニ問フテ其真理タルチ證明シ之チ理哲二學ノ推理ニ問フテ其真理タルチ證明シ又之チ教祖ノ人物哲學顯示ニ問フテ亦タ其真理タルチ證明スルハ吾輩豈ニ佛教ヲ稱シテ真理ニ合スル純全ナル宗教ト謂ハザルチ得ンヤ、既ニ真理ニ合スル純全ナル宗教ナリ、世界萬民一タビ其照ラセル光チ仰ヒテ深奥ナル理性チ發揮シ其活ケル水チ飲ンデ高尚ナル感情チ感動スルニ至リテハ、豈ニ歡喜踊躍シテ此教ニ歸依セザルチ得ンヤ、豈ニ彼ノ景仰驚嘆ス可キ神聖尊大ナル一大現象ニ俯服拜跪セザルチ得ンヤ、然リ而シテ吾輩ハ方今世界大勢ノ趨ク所思想ノ潮流スル所千派萬派滔々奔注シテ此純全ノ宗教ニ朝宗スルチ確信シテ敢

テ疑ハザルモノナリ。

宗教革命ノ現象ヲ論ズ

第五章 道理ノ女神

前編ニ於テ吾輩ハ宗教ノ性質及ビ其進化ヲ説明シタリ然ルニ其説明ノ結局ニヨレバ文明世界ノ舊宗教ハ漸ク倒レ新宗教之ニ代リテ將サニ興ラントスルノ一大原因ヲ發明シタリ然リ而シテ徒ニ此一大原因ヲ發明シタル而已ニ止リ更ニ議論ト事實トチ一致調和シテ若々證明スル所アラズンバ吾輩ノ論亦タ焉ンク牽強附會ノ臆説トシテ世ニ擯斥セラル、チ免カル、チ得ンヤ蓋シ事實ニ合セザルノ議論ハ如何ニ巧ナリト雖モ到底空想タルチ免レザルナリ故ニ吾輩ハ此レヨリ事實ヲ叙シテ前説ヲ證明スルノ勞ヲ執ラザル可ラズ而シテ此事實タル宗教革命ノ現象ニシテ破壊ト建設ノ両面ヲ見ハスチ以テ破壊的ノ一面ニハ一神教ノ時代漸ク去ルニ從ツテ耶蘇教之ト共ニ勢力ヲ失シ建設

的ノ一面ニハ理哲ニ學漸ク進ムニ從ツテ凡神教ノ時代既ニ來ルチ明示セザル可ラズ既ニ此點ニシテ證明スルチ得バ更ニ進ンテ理哲ニ學ハ凡神教ノ眞理ヲ立ツルチ得ルモ其顯示チ欠クノ故チ以テ純全ナル宗教トナリ一般人心チシテ信仰歸依セシムルニ足ラザルチ明示セザル可ラズ吾輩果シテ事實ニ據リテ此二點ヲ證明スルチ得ルニ至リテハ前説ノ空想ニアラザル蓋シ又タ喋々辨解ヲ要セザルモノアラソ

然リ而シテ此事實ヲ明示スル那邊ヨリ説キ起サンカ蓋シ近世文明世界ノ一大運動タル恐ラクハ彼ノ佛國ノ大革命ニ過ギタルハナシ然ルニ世人僅ニ佛國革命ノ説ヲ聞ケバ其腦裡既ニ慘熱タル一幅ノ血畫ヲ描キ出ダシ人類進歩ノ一大失策ダリトノ記憶ヲ喚ビ起サシムルモノ殆ンド稀ナリ吾輩ト雖モ此一大革命ノ原因ト結果トヲ探究セズシテ徒

ニ彼ノダントンノ如キ。ロベスピールノ如キ。斬頭臺ノ如キ。帝王王后ノ
 弑虐ノ如キヲ看ルニ至リテハ。豈ニ英國小説家ノ巨擘ト共ニ彼ノ自由
 一タビ暗黒ナル海門ヲ出ツルヤ。人心前途ノ望ヲ開ク。恰モ睡々タル紅
 旭ノ輝光燦爛トシテ寶石ヲ射ルガ如シ。然レ此期望ハ忽然夢ノ如ク
 ニ滅シタリ。彼ノローランドノ艶麗ナルベルシニヨノ雄辨ナルコンド
 ルセーノ目的遠大ナルマルセルブノ感情高尚ナル。其他無數ノ機智家
 ナリ。哲學家ナリ。政治家ナリ。愛國家ナリ。夢想家ナリ。各自軀命ヲ抛テテ
 精神ヲ竭セシモ。猛惡ナル血神ハ其兒ヲ食ヒ盡シテ獨リ自ヲ殘レリ
 ト哀辭ヲ垂レテ既往ヲ吊セザルヲ得ンヤ。然レモ眞ニ此革命ノ全體ヲ
 以テ之レヲ觀察スルハ是レ人心發達ノ一大運動ニシテ其功績タル。
 獨リ抑壓束縛ノ制度ヲ掃蕩シテ政治ノ新世ヲ開クニ止ラズ。社會百般
 ノ思想之ガ爲メニ煥然トシテ面目ヲ改ムルニ至リテハ。天下後世實ニ

其賜ヲ謝セザル可ラズ而シテ此一大演劇ノ中央ニ於テ悲劇ニモアラ
 ズ。喜劇ニモアラズ。即チ人心自然ノ智力感情ヨリ流出スル一大美事ヲ
 演シタル如キハ吾輩ノ最モ稱賛シテ止マザル所ナリ。夫レ其一大美事
 トハ何ゾヤ。所謂道理ノ女神是也。
 抑モ佛國大革命ノ騷亂ハ千七百九十三年ニ至リテ最モ其高度ニ達シ
 グリト云ハザルヲ得ズ。然ルニ此年ノ十一月十日ニ當時革命ノ大政府
 タル「コンベンション」ニ於テ「サンキユルロット」一派ノ人ハ僧侶ヲ還俗セ
 シメ教會ニ供スル一切ノ費用ヲ廢止セバ如何ント建議セシコ。此說大
 ニ國民ノ意ニ投シ。巴里市民ハ直チニ此議ヲ以テ政府ニ請願セント。コ
 ンベンションニ詰メ懸ケ當代第一ノ美人ト聞ヘタル「デムーラン」夫人
 ナシテ麗服盛裝セシメ道理ノ女神ト稱シ。群衆之ヲ環擁シテ請願者ノ
 首魁「ダラシメタリ」時ニ議員ノ一人タル「シヨウメット」氏ハ直チニ起立

シ一稿ノ演説ヲナシテ曰ク妄想ハレテ真理起ルハ世運開明ノ一大進歩ナリ。看ヨ彼ノ宏大美麗ナル寺院ハ虚談妄説ヲ以テ反響シタルニアラズヤ。然レモ今ヤ赫々グル真理ノ大光ハ既ニ上帝ヲ壓倒シテ信仰ヲ失セシメタリ。然ラバ則チ吾輩妄信ノ偶像ヲ廢シテ之ニ代フルニ道理ノ女神ヲ以テセバ豈ニ亦タ善ラズヤト。其言未ダ畢ラザルニ拍手喝采四面ニ湧キ。殆ンド將サニ議院ノ堂宇ヲ震動スルニ至ラントス。此ニ於テ女神乍チ來リテ議長ノ傍ニ坐ス。議長乃チ之ニ接吻シテ友愛ノ情ヲ表シ。車馬絡繹。官民陸續。相携ヘテノートルダムノ大寺院ニ詣リ。盛大ナル式ヲ行ヒ。大理石ヲ以テ彫刻シタル哲學大家ノ肖像ヲ羅列シ。其机ヲ名ケテ道理ノ机ト稱シ。其燈ヲ名ケテ真理ノ燈ト稱シ。其樂ヲ名ケテ共和ノ樂ト稱シ。其堂ヲ名ケテ哲學ノ堂ト稱ス。時ニ宛轉タル一隊ノ少女。桂冠ヲ戴キ。左右列チ成シ。樂ヲ奏シテ前ニ來ル。道理ノ女神乃チ至

高至尊ナル哲學ノ堂ヨリ出デ、敬愛ヲ受ケ暫クアリテ復タ裡ニ入ラントスルノ時。顧眄シテ無限ナル愛憐ノ眸ヲ萬衆ノ感情ニ印シ去ル。此ニ於テ萬衆ハ喜ブガ如ク泣クガ如ク。長ク道理ノ女神ヲ崇拜セント宣盟シタリ。

蓋シ佛國革命ノ時ニ方リテ。智者學者ハ理論ヲ以テ耶蘇教ヲ攻撃スレバ。愚夫愚婦ハ亦タ暴力ヲ以テ之レヲ撲滅セントシ。其勢恰モ長江ノ決スルガ如シ。此ニ於テ自然真理ノ外別ニ真正ナル宗教ナシト言フモノアリ。上帝トハ結晶體ノ最モ高尚ニシテ最モ完全ナルモノナリト云フモノアリ。バイブルハ稗史小説ニシテ毫モ信ヲ措クニ足ラズトスルモノアリ。學校ニ於テ無神教ヲ講義スルモノアリ。僧侶ニシテ斷然耶蘇教ヲ拋棄シ非常ノ稱賛ヲ博スルモノアリ。史家ハツル氏曰ク。千七百六十四年。英國ノ碩學ヒューム。佛國ニ赴キ。ドルバツク男爵ノ家ニ於テ。其頃同

國ノ名聲噴々タル人物ト會合セシ時ニ問フテ曰ク余ハ貴國ニ於テ無
 神論者甚ダ多シト聞ケドモ未ダ一人ニモ遭遇セズ男爵對ヘテ曰ク誠
 ニ君ハ不幸ハミ然レモ今ヤ君ハ茲ニ其十七人ト對話スルハ光榮ヲ得
 タリト此ニ由リテ之ヲ觀レバ佛國上流ノ人士ガ耶蘇教ヲ厭忌シテ無
 神ノ說ヲ唱フル甚ダ久シ豈ニ一朝一夕ノ際ニシテ偶然ニ發シタルモ
 ノナランヤ然リ而シテ革命政府ノ果斷ナル耶蘇教禁止ノ令ヲ下ダシ令
 ニ畔クモノハ處スルニ嚴刑ヲ以テシ或ハナソツニ於テハ三百六拾人
 ノ僧侶ヲ銃殺シテ四百六拾人ヲ水ニ投ジ或ハ魯華河ニ於テハ一夜ノ
 間ニ五十人ノ僧侶ヲ鷗夷シテ之ヲ投ジ千七百九十一年ヨリ千七百九
 十五年ニ至ル迄千百三十五人ノ僧侶ヲ戮殺スルニ至ル此レ蓋シ愚民
 ガ學士輩ノ理論ニ鼓舞煽動セラレ一時暴起シテ致ス所ニ係ルト雖モ
 亦タ以テ當時ノ人心ノ嚮フ所ヲ觀ル可シ

吾輩佛國革命史ヲ讀ンテ此處ニ至ル毎ニ未ダ嘗テ卷ヲ掩フテ長ク歎
 セズンバアラズ嗚呼彼ノ道理ノ女神ノ現出スル豈ニ偶然ナランヤ世
 ノ論者或ハ曰ク佛國革命ナルモノハ恰モ酒ニ酔フタルガ如ク一時暴
 起シタルノ結果ナリ故ニ其爲ス所ハ源因アルニアラズト然レモ吾輩
 ハ此說ニ敬服スル能ハザルナリ他ノ論者ハ又タ曰ク佛國人民ガ彼ガ
 如ク耶蘇教ニ反對シタルモノハ當時僧侶ガ君王貴族ノ味方トナリテ
 社會ヲ抑壓シタルノ反動ニ出デタルモノナリト此論前說ニ比スレバ
 大ニ道理ニ近キガ如シ然レモ一層深シ之ヲ思考スレバ此說モ亦タ其
 實ヲ得タルモノトス可ラズ何トナレバ彼レ只僧侶ニ激シタルニ過ギ
 ザル歟僧侶ヲ攻撃スル可ナリ而シテ其教會ヲ顛覆シタルモノハ何ン
 ソヤ教會ヲ顛覆スル猶ホ可ナリ而シテ其耶蘇教ヲ拋棄シタルモノハ
 何ンゾヤ耶蘇教ヲ拋棄スル猶ホ可ナリ而シテ其上帝ヲ驅逐シタルモ

ノハ何ンツヤ此ニ由リテ之ヲ觀レバ此一大現象ノ原因ハ更ニ一層永
 久ニシテ一層深奥ナルモノ源因ナラザル可ラズ而シテ更ラニ一大問
 題クルモハ斯ノ如ク僧侶ヲ攻撃シ教會ヲ顛覆シ耶蘇教ヲ拋棄シ上
 帝ヲ驅逐シタルノ國民ニシテ彼ノ人情ト時機トヲ洞察スルニ爛眼ヲ
 有スル一大政事家ナボレチン第一世ガ天主教ヲ以テ國教トスルニ方
 リ再ビ復タ多數ノ信徒ヲ喚起シタルト是也吾輩ハ問題ヲ講究シテ蓋
 シニ大眞理ヲ發明シタリ曰ク一神教ノ時代漸ク去リテ凡神教ノ時代
 將サニ來ル曰ク顯示アルノ一神教ハ顯示ナキノ凡神教ニ優サル是也
 而シテ吾輩ノ愚論ヲ讀ムモノハ冒頭ヨリ結末ニ至ル迄此ニ大眞理ヲ
 記○臆○セ○ザ○ル○可○ラ○ズ○

第六章

耶蘇教ト理學ノ軋轢

耶蘇教ハ一神教ナリ故ニ一神教ノ時代ニ適スルノ宗教タルハ固ヨリ

論ヲ待タズ耶蘇教ハ顯示教ナリ故ニ其宗教トシテ人間ノ宗教心ヲ滿
 足セシムル理學哲學ノ敢テ企及スル所ニアラザルハ又タ固ヨリ論ヲ
 待タズ然レモ人間思想ノ發達既ニ一タビ一神教ノ時代ヲ去リテ凡神
 教ノ時代ニ移ルニ及ンテハ理學哲學ト相分離セザルヲ得ズ其分離ノ
 極ハ遂ニ信仰ト道理ト相軋轢シ學術ト宗教ト相軋轢シ信仰道理ヲ撲
 滅セントスレバ道理モ亦タ信仰ヲ壓例セント欲シ宗教學術ヲ敵視ス
 レハ學術モ亦タ宗教ニ抵抗セント欲ス故ニ其勝敗ノ數ハ兩者勢力ノ
 優劣ヲ以テ之レヲ判斷セザル可ラズ此レドレ一パー氏ガ所謂宗教學
 術軋轢ノ歴史ナリ
 然ラバ則チ此耶蘇教ト理學トノ軋轢ハ那ノ時代ニ始リタル乎那ノ問
 題ニ生シタル乎此ヲ紀述セント欲セバ先ツ耶蘇教ガ勝利ヲ占メテ歐
 州人心ノ信仰ヲ支配シタルノ淵源ニ溯ラザル可ラズ抑モ耶蘇教ノ始

メテ羅馬帝國ニ侵入スルヤ。上ハ帝王ヨリ下ハ人民ニ至ル迄。大ニ之ヲ敵視シ。三百餘年間ニ於テ。凡ソ十回ノ大迫害ニ遭フモ敢テ屈撓セズ。悉ク鮮血ヲ以テ其熱心ヲ證シ。コンスタンチン大帝ノ時ヲ待テ始メテ國教トナリ。大ニ其教ヲ傳播シ。羅馬帝國ニ於テ大權ヲ賞握スルヲ得タリ。之ヲ譬フレバ。地上ニ生ズル植物ガ其始メ霜雪ニ冒サレ蓬蒿ニ厄セラレ牛馬ニ蹂マレ。歳日ヲ積ンテ漸ク生長シ。蠶々トシテ青霄ニ聳ヘ。枝葉繁茂シテ蓋天ノ雲ノ如キモノアリ。而シテ耶蘇教ガ彼ガ如ク異教徒ノ爲メニ攻撃ヲ受ケタルニモ係ハラテ。帝王人民ノ爲メニ嫌惡セラレタルニモ係ハラズ。桎梏。劓戟。水火。猛獸ヲ以テ迫害セラレタルニモ係ハラズ。遂ニ全ク勝利ヲ占メ十字架ヲシテ日月ト光ヲ争フニ至ラシメタルモノハ果シテ如何ナル原因ニ歸ス可キカ。耶蘇教徒ハ勿論言ハシ。此レ則チ上帝ノ全能ヲ顯ハス所以ナリト。然レハ哲學的ノ觀察ヲナス。

モノハ之ヲ信セス曰ク羅馬帝國ガ兵力上政治上ニ於テ隆盛ノ極度ニ達シタル日ハ。即チ其宗教上社會上ニ於テ衰頹ノ極度ニ達シタル日ナリ。試ニ當時ノ有様ヲ回顧スレバ。人生ハ當サニ一大宴會ノ如クナルベシ。道德ハ快樂ヲ以テ目的トスベシ。天下ノ崇拜ス可キモノハ勢力ヨリ大ナルハナシ。戰功武勳ヲ賞センガ爲メニハ良民ノ土地ヲ奪フ可シ。民力ノ膏血ヲモ絞ル可シ。言フヲ以テ社會ノ格言トシ。而シテ其華侈驕奢ナル。玉ヲ沙トシ。錦ヲ霞トシ。綺羅ノ服。夜光ノ杯。歡樂豪遊。淫蕩流連シテ。男子ハ廉耻ヲ顧ミズ。婦女ハ貞節ヲ知ラズ。赫々タル帝國將サニ變シテ一大淫亂國トナラントス。此時ニ方リテ道德ヲ以テ主義トスル耶蘇教ニシテ勝利ヲ占メクルハ。必然ノ理ニ由ルト云ハザルヲ得ズ。夫レ水ノ低卑ニ就キ。空氣ノ稀薄ニシテ。風ヲ起スモノハ。重力ハ大法ナリ。而シテ人類社會ハ生存運動スル亦タ未ダ嘗テ此重力ハ大法ニ支配セ

ラ、ズ、ン、ハ、ア、ラ、ズ、然、ラ、ハ、則、チ、無、道、徳、ノ、羅、馬、帝、國、ニ、向、ツ、テ、道、徳、主、義、ノ、
 耶、蘇、教、ガ、進、入、シ、テ、遂、ニ、勝、利、ヲ、占、ム、ル、モ、ハ、蓋、シ、亦、タ、水、ノ、低、卑、ニ、就、キ、
 空、氣、ノ、稀、薄、ニ、シ、テ、風、ヲ、起、ス、ト、同、一、ノ、理、法、ニ、由、ラ、ザ、ル、ヲ、得、ン、ヤ、ト、
 此、説、タル、眞、ニ、當、時、ノ、事、情、ニ、通、ゼ、リ、ト、謂、ツ、可、シ、然、レ、モ、之、ヲ、以、テ、耶、蘇、教、
 ガ、勝、利、ヲ、占、ム、ル、ノ、一、大、源、因、ト、ス、ル、ニ、至、リ、テ、ハ、則、チ、不、可、ナ、リ、蓋、シ、耶、蘇、
 教、ガ、羅、馬、帝、國、ニ、於、テ、勝、利、ヲ、占、ム、ル、ノ、一、大、源、因、ハ、實、ニ、多、神、教、一、神、教、ノ、
 盛、衰、興、廢、ニ、外、ナ、ラ、ズ、而、シ、テ、其、理、ヲ、推、究、ス、レ、バ、宗、教、進、化、ノ、一、大、現、象、ニ、
 歸、セ、ザ、ル、ヲ、得、ザ、ル、ナ、リ、蓋、シ、此、時、ニ、方、リ、テ、羅、馬、帝、國、ニ、行、ハ、ル、ハ、ノ、宗、教、
 ハ、多、神、教、ニ、ア、ラ、ザ、ル、ハ、ナ、シ、然、ル、ニ、文、明、ノ、進、步、ヨ、リ、シ、テ、言、フ、モ、思、想、ノ、
 發、達、ヨ、リ、シ、テ、言、フ、モ、多、神、教、ノ、時、代、ハ、既、ニ、去、レ、リ、之、ヲ、詳、説、ス、レ、バ、多、神、
 教、ハ、以、テ、當、時、ノ、智、力、ト、感、情、ト、ヲ、滿、足、ス、ル、ニ、足、ラ、ズ、而、シ、テ、之、レ、ヨ、リ、一、
 層、進、步、シ、タル、宗、教、未、ダ、起、ラ、ズ、是、ヲ、以、テ、人、民、ノ、信、仰、ハ、既、ニ、地、ヲ、掃、フ、ニ、

至、ル、夫、レ、信、仰、ノ、薄、弱、ト、云、フ、源、因、ア、レ、バ、必、ズ、道、徳、ノ、衰、頹、ト、云、フ、結、果、ア、
 リ、信、仰、ノ、薄、弱、ト、云、フ、前、唱、ア、レ、バ、必、ズ、道、徳、ノ、衰、頹、ト、云、フ、後、和、ア、ル、ハ、此、
 レ、實、ニ、吾、輩、ガ、各、個、人、ノ、經、験、ニ、質、シ、又、社、會、ノ、經、験、ニ、質、シ、テ、確、信、ス、ル、所、
 ノ、一、大、法、則、ナ、リ、然、ラ、バ、則、チ、耶、蘇、教、ガ、羅、馬、帝、國、ニ、進、入、シ、遂、ニ、勝、利、ヲ、占、
 メ、大、權、ヲ、握、ル、ニ、至、ル、モ、ノ、ハ、此、宗、教、進、化、ノ、大、勢、ヨ、リ、生、シ、タル、ヲ、吾、輩、ノ、
 疑、ヲ、容、レ、ザ、ル、所、ナ、リ、
 羅、馬、帝、國、ノ、異、教、ハ、多、神、教、ノ、時、代、ト、共、ニ、過、去、ノ、世、界、ニ、死、タ、リ、耶、蘇、教、ハ、
 一、神、教、ノ、時、代、ト、共、ニ、將、來、ノ、世、界、ニ、生、ジ、タ、リ、新、ニ、生、レ、タル、ノ、耶、蘇、教、ヲ、
 リ、故、ニ、當、時、ノ、智、力、ニ、適、シ、感、情、ニ、適、シ、大、ニ、信、仰、ヲ、得、テ、福、音、傳、播、ノ、迅、速、
 ナ、ル、ハ、實、ニ、駭、ク、ニ、堪、ヘ、タル、モ、ノ、ア、リ、即、チ、コ、ン、ス、タ、ン、チ、ン、大、帝、即、位、ノ、
 頃、全、帝、國、ノ、耶、蘇、信、徒、ハ、既、ニ、十、分、ノ、一、ヲ、占、メ、タ、リ、ト、云、フ、漸、ク、降、リ、テ、第、
 九、世、紀、ノ、頃、ニ、至、リ、テ、ハ、殆、ン、ド、全、歐、ヲ、驅、リ、テ、其、教、ニ、歸、セ、シ、ム、ル、ノ、ミ、ナ、

ラズ更ニ遠ク亞拉伯波斯支那蒙古其他東方亞細亞ニ波及スルニ至ル。然リ而シテ世ノ論者ハ或ハ以爲ク耶蘇教ハ此ノ如ク他ノ迫害ヲ脱シテ誠ニ其勢力ヲ得タリ然レモ之ニト同時ニ漸ク其性質ヲ變シ純良無罪ナル子羊ハ乍ナ化シテ貪戻無厭ノ豺狼トナリ或ハ希臘ノ遺學ヲ撲滅シ或ハ世俗ノ政治ニ干涉シ或ハ各國ノ君主ト連衡シテ抑壓ヲ施シ其文明ノ進路ヲ遮ルノ罪ハ勝ゲテ數フ可ラズト。吁嗟是レ十九世紀ニ在リテ耶蘇教ヲ論ズルノ言ナリ暗世時代ニ在リテ耶蘇教ヲ論ズルノ言ニアラザルナリ試ニ瞳孔ヲ開ヒテ歐洲社會ノ歴史ヲ看一看セヨ彼レ上下殆ンド一千餘年ノ間ニ於テ將サニ禽獸ノ域ニ沈淪セントスル社會ヲ救フテ人類ニ適當ナル地位ト光榮トヲ與ヘタルモノハ誰ゾヤ放縱腐敗ナル羅馬ノ空氣ヲ一洗シテ活潑剛健ナル新元氣ヲ喚起シタルモノハ誰ゾヤ其絶ヘザル線ニ線ノ如クナル古代文明ノ文學技術ヲ

後世ニ傳ヘタルモノハ誰ゾヤ私欲利己ノ主義ヲ排撃シテ公共ノ良心ヲ養成シ國家ノ法律ニ威力ヲ添ヘタルモノハ誰ゾヤ人間諸徳ノ生命タル愛ノ感情ヲキテ社會ノ脈管ニ注流セシメタルモノハ誰ゾヤ精神ノ自由ヲ主張シ政教ノ二大世界ヲ分離シタルモノハ誰ゾヤ婦人ヲ奴婢ノ地位ヨリ挽キ上ゲテ男子ノ良朋トナシタルモノハ誰ゾヤ捨施ノ源泉ヲ開キ戰爭ノ慘酷ヲ滅シタルモノハ誰ゾヤ人情慈善公道正直信誼友愛ハ人類天性ノ懿徳タルヲ知ラシメタルモノハ誰ゾヤ想フテ此ニ至レハ吾輩ハ耶蘇教ニ謝セザラント欲スルモ豈ニ得ケンヤ然ラハ耶蘇教ハ如何ナル勢力ニ由リテ之レヲ致シタル乎吾輩對ヘテ曰ク此レ亦ク一神教ノ信仰ヨリ生シタルノ一大勢力ナリ蓋シ世界ノ各宗教各學派各種族各國民ハ此等ノ善タリ美タルヲ知ラザルニアラズ否ナ此等ヲ以テ其教理トシ訓誡トシ理想トスルモノサヘ無キニアラズ。

然リト雖モ彼等ガ未ダ嘗テ耶蘇教ノ如ク之レヲ實行スル能ハザルモ
 ノハ何ツヤ其勢力ナキヲ以テナリ其勢力ナキモノハ何ツヤ其信仰ナ
 キヲ以テナリ而シテ此信仰ナルモノハ果シテ那處ヨリ來ル乎曰ク其
 時代ノ智力ト感情トニ適シタルノ一神教ヨリ來ルナリ更ニ之ヲ詳説
 スレバ一神教ガ其時代ニ適シタルノ結果ナリ
 然リト雖モ耶蘇教ガ一ノ時代ニ適合スル所以ハ即チ他ノ時代ニ適合
 セザル所以ヲ忘ル可ラズ一ノ時代ニ利益ヲ與フル所以ハ即チ他ノ時
 代ニ利益ヲ與ヘザル所以ヲ忘ル可ラズ一ノ時代ニ新勝ノ凱旋ヲ祝シ
 タル所以ハ即チ他ノ時代ニハ敗軍ノ凶報ヲ弔スル所以ナルヲ忘ル可
 ラズ一ノ時代ニ朝旭光輝ヲ放チテ萬里ノ前途ヲ照ラシタル所以ハ即
 チ他ノ時代ニハ金鳥既ニ海底ニ沈ンテ暗黒世界漸ク逼ル所以ナルヲ
 忘ル可ラズ之ヲ要スルニ一神教ハ只一神教ノ時代ニ適シタルモノナ

リ其適シタル間ハ則チ信仰ヲ維持シ得ルノ間ナリ故ニ一神教ノ時代
 既ニ去レバ其信仰モ亦タ從ツテ去ラザルヲ得ズ而シテ此自然進化ノ
 大勢既ニ去ルヲ知ラズ強ヒテ人爲ノ手段ヲ以テ之レヲ維持セントス
 ルハ恰モ隻手ヲ揮ツテ激潮ニ抗セントスルガ如ク徒ニ抗シ得ザル
 ノミナラズ却ツテ將サニ世界文明ノ進路ヲ遮ルニ至ラントス然レモ
 過去ノ燦爛タル記憶ハ其勢力意外ニ強キモノニシテ社會保守ノ舊分
 子ナルモノハ多クハ茲ニ胚胎セズンバアラズ而シテ遂ニ防ガント欲
 シテ防グ可ラザルモノハ人間思想ノ發達ナリ遮ラント欲シテ遮ル可
 ラザルモノハ自然進化ノ大勢ナリ彼レ一神教ハ既ニ此レヲ以テ多神
 教ニ打ち勝チタルモ今ヤ亦タ此レヲ以テ凡神教ニ打ち勝タレントス
 其勢然ルナリ故ニ彼レノ盛ナル所以モ其衰フル所以モ均ク是レ同
 一ノ法則ニ支配セラレモノナリト云ハザルヲ得ズ然ラバ則チ一神

教ノ時代ハ那ノ時ニ始メテ衰運ニ就キタルカ吾輩ハ此問題ニ答ヘン
カ爲メニ亦タ彼ノドレーパー氏ガ歐洲智力發達史宗教學術軋轢史ニ
據リテ耶蘇教ト理學ノ軋轢ヲ略陳セザル可ラズ即其軋轢ノ問題ハ左
ノ如クナルヲ看ル

第一靈魂ノ性質ニ關スル軋轢也蓋シ耶蘇一神教ノ説ク所ニヨレバ人
間ノ靈魂ナルモノハ上帝ノ特造ニ係ル所ニシテ物質機關ノ發達シタ
ルモノニアラズ又タ上帝ノ體質ヨリ發現シタルモノニアラズト之ニ
反シテ東洋凡神教ノ説ク所ハ靈魂ハ物質機關ノ進化シタルモノニシ
テ神ノ體質ノ發現シタルモノニ過ギズト然ルニ彼ノ希臘哲學ノ泰斗
タルアリストツル氏ハ東洋宗教ノ説ク所ヲ擴張セシガ此説後ニ至リ
テアレキサンドリヤヨリ之レヲサラセンニ傳ヘ十二世紀ニ至リ有名
ナルアベルロース氏ヲ待テ始メテ一大定説トナレリ而シテ此説タ

ル紀元後八百年ノ頃耶蘇教家ニ於テモジョンエリザエナ氏ノ如キハ
早ク既ニ之ヲ唱説シタルヲ以テ駭々トシテ耶蘇教國ニ進入シ歲ヲ追
フテ益々蔓延シ殆ンド教會ノ信仰ヲ動サントスルノ勢アリ此ニ於テ
羅馬法王インノーセント第四世ハ紀元後千二百四十三年ニ至リテ以
大利西班牙日耳曼及ビ佛蘭西ノ南部ニ於テ新ニ宗教裁判所ヲ設置シ
テ異説ノ徒ヲ吟味シタリ進ンデ第十五世紀ニ至レハ更ニ之レヨリ甚
キモノアリ法王ハ更ニ異説禁止ノ嚴令ヲ發シ又タ西班牙ノ女王イサ
ベルラノ請ヲ納レテ神聖局ノ創立ヲ認可シタリ而シテ此神聖局創立
ハ目的ハ峻法酷刑ヲ以テ異説ノ徒ヲ一掃セントスルニ在ルヲ以テ僅
々タル二十年間其人ヲ烙殺スルノ一萬二千二百二十一人其屍ヲ燒シテ六千
八百六十人其人ヲ懲罰スルノ九萬七千三百二十一人其サマシカニ
貯藏シタル東方文學ノ書冊ヲ焚クノ六千冊而シテ其禍難ヲ避ケテ四

方ニ逃ルモノハ至リテハ亦タ幾千萬人ナルヲ知ラザルナリ嗚呼此ヲ讀ムモノ孰レカ悚然トシテ寒心セザランヤ若シ此事實ヲ以テ之レヲ東洋ニ比例ヲ求レバ其抑壓ノ至猛至烈ナル彼ノ始皇ノ儒ヲ坑ニシ詩書ヲ火スル僅ニ相似タルモノアリ而シテ其峻法酷刑ニ至リテハ桀紂ト雖モ恐ラクハ將サニ三舍ヲ避ントス。

第二地球ノ性質ニ關スル軋轢也耶蘇一神教ハ「バイブル」ノ明文ヨリテ大地ハ平坦ニシテ日月星辰之レヲ轉繞スルノ說ヲ主張シ其形體ニ關シテハ地球說ヲ取ラズシテ地平說ヲ取リ其運動ニ關シテハ地動說ヲ取ラズシテ天動說ヲ取リ其地位ニ關シテハ大陽中心說ヲ取ラズシテ地球中心說ヲ取リシハ亦タ往古物理ノ智識未ダ進歩セザル時代ノ思想ニシテ深ク尤ムルニ足ラザルナリ然ルニ彼ノアウガステンガ「バイブル」ハ天下萬事ノ真理ヲ包括スト云ヘルノ論ニ拘泥シ天文地理ニ

係ハルノ問題モ亦タ「バイブル」ヲ以テ之レヲ解釋セントスルニ至リシハ此レ亦タ一神教ガ信仰勢力ノ消長ニ影響スル敢テ少シトセズ蓋シ彼ハ十五世紀ナルモノハ近世歐洲ノ新舞臺ニ登ラントスルハ初ニシテ暗黒時代漸ク去リテ人文煥發ノ拂曉始メテ達シ學問ノ再興ト云ヒ社會ノ進歩ト云ヒ印刷術ノ發明ト云ヒ一ツトシテ歐洲人民ガ智識經驗思想信仰ニ著大ナル變化ヲ生セザルハナシ然ルニコロンバス氏ガ始メテ新世界發見ヲ以テ各國君主ニ遊說スルヤ西班牙ノ耶蘇教僧侶ハ地球說ヲ以テ「バイブル」ニ反對スルノ邪說トナセシモ其梟シテ新世界ヲ發見シ尋テデガママセルラン二氏全世界ヲ一週シテ其說ヲ實驗スルニ至リテハ僧侶ヲシテ狼狽ノ極殆ンド驚倒愧死セシムルニ至ラントス然ルニ進んで第十六世紀ノ初ニ至リコバルニキエス氏始メテ地動ノ理ヲ論ジテ大陽中心說ヲ唱ヘカリレオ氏又タ望遠鏡ヲ製シテ天

體ヲ觀察シ、愈々將サニ其說ヲ證明セントスルニ及ビ、宗教裁判所ハ又其ハイプルの所說ニ違フヲ以テ異端トシ、之ヲ捕ヘテ獄ニ繋キ、呻吟十年ノ久キ經テ遂ニ空シク其中ニ死セシメタリ、然レモ此レヨリシテ天文ノ學大ニ進ミ、其博大精緻既ニ新面目ヲ開キ、遂ニ有名ナル凡神論者ブルノ一氏ヲ出スニ至ル、蓋シ氏ガ說ノ歸着スル所ハ、彼ノ爛然トシテ大空ニ懸ル、無數ノ星ハ皆ナ一個ノ世界ニシテ、我が地球ト異ナルトナシ、然ラバ則チ宇宙萬有ハ無限心意ノ一大發現ニシテ、塊然タル物質ト雖モ亦タ皆チ機體トナリテ生命ヲ發達セントス、是ヲ以テ教會僧侶ノ忌諱ニ觸ル、復タコバルニキユスガリレオ二氏ノ儔比ニアラズ、遂ニ鮮血ヲ流サシメザルハ、寬典ナリトテ、焚刑ニ處スルニ至ル、是レ實ニ地球說軋轢ノ歴史ナリ。

第三、眞理ノ標準ニ關スルノ軋轢也、夫レ耶蘇一神教ニシテ異說ヲ生ゼ

ズンバ則チ止マン、苟モ一々ヒ異說ヲ生シ、甲乙相爭フコ方リテハ、之レガ是非眞僞ヲ判斷スルノ標準ナカル可ラズ、然ルニ最初教會ニ生ズル爭論ハ、會議ヲ開キ多數ヲ以テ之レヲ議決セシガ、此法後ニ及ンデ亦タ漸ク其弊ヲ生シ、世ノ識者ハ皆チ以テ眞理ノ標準トスルニ足ラザルヲ知ル、而シテ異說ハ天下ニ起ル益々熾ナルヲ以テ之レヲ壓服センガ爲メニ、第十三世紀ニ至リテ、所謂宗教裁判所ヲ設立シ、千四百八十一年ヨリ千八百八年ニ至ル迄、異說ノ徒ヲ探查シテ之ヲ罰スル、三十四萬人ノ夥キニ達シタリ、古今人類ノ最大禍害タル戰爭ヲ除キテハ、未ダ嘗テ此ハ如ク慘烈ナルモノアラザルナリ、然ルニ羅馬教會ハ獨リ宗教裁判所ノ設立ヲ以テ敢テ足レリトセズ、ラトランノ會議ヲ以テ懺悔解罪法ナルモノヲ發布シ、子ヲシテ其父ヲ訟ヘシメ、妻ヲシテ其夫ヲ訟ヘシメ、奴婢ヲシテ其主人ヲ訟ヘシメ、其不信仰ナル者若クハ異說ヲ懷ク者ハ直

ナニ之ヲ宗教裁判所ニ引キ渡タシテ以テ其罪ヲ問フニ至ル此ニ於テ
 一家懽々トシテ恰モ敵國ノ中ニアルガ如キ心地セリ然リ而シテ羅馬
 教會ハ第十六世紀ノ初ニ至リ更ニ一大醜罪ヲ犯シタリ其レ何ゾヤ
 所謂赦罪券ノ發賣是也蓋シ赦罪券ヲ發賣スルノ說ニ曰ク基督ハ一切
 人類ノ罪ヲ贖ハンガ爲メニ血ヲ流シタリ故ニ基督ノ血ハ即チ人間ノ
 罪惡ヲ贖フノ權力アルモノナリ而シテ此券ハ乃チ基督ノ血ヲ印スル
 モノナレバ此ヲ買フモノハ以テ地獄ノ途ヲ避ク可シ以テ天國ノ門ニ
 進ム可シト嗚呼物トシテ之ヲ抑壓スル其極ニ達スレバ其反動ナキハ
 莫シ彼レ羅馬教會ガ宗教裁判所ヲ設置シ亦タ之ニ繼グニ懺悔解罪法
 ナ以テシ更ニ之ニ繼グニ赦罪券ノ發賣ヲ以テスルニ及ンテハ其抑壓
 既ニ極點ニ達シタリト謂フ可シ此レ豈ニ一大反動ヲ生ゼザルヲ得ン
 ヤ而シテ知ル此一大反動ハ則チ彼ノルーテルガルピン諸氏ガ慨然憤

起シタルノ宗教改革ニ外ナラザルナリ
 然リ而シテ羅馬教會ト新教會ノ由リテ分ル、最大主腦ハ遂ニ真理標
 準ノ一大問題ニ歸ス羅馬教會曰ク真理ノ標準ハ法王ニ在リ新教會曰
 ク真理ノ標準ハパイブルニ在リ而シテ理學ハ更ニ一步ヲ進メテ曰ク
 真理ノ標準ハ自然ノ顯示ニ在リト
 第四宇宙ノ管理ニ關スルノ軋轢也夫レ此世界ハ上帝ノ干涉シテ管理
 スル所ナル乎將タ一定不變ノ法則ニ支配セラル、乎甲說ハ教會ノ信
 スル所ニシテ乙ノ說ハ理學ノ執ル所ナリ蓋シ上帝ハ全能ナル宇宙萬
 有ノ管理者ニシテ事々物々ノ變化運動一ツトシテ其意ニ由ラザルハ
 ナシ故ニ積誠ヲ以テ祈禱スレハ其恩寵ヲ被ル可シトハ耶蘇一神教ノ
 定理トスル所ナルヲ以テ其勢自ラ甲說ヲ信ゼザルヲ得ズ然ルニ近世
 理學ハ一步ヲ進ムル毎ニ宇宙萬有ハ一定不變ノ大法ニヨリテ支配セ

ラル、ノ事實ヲ證明セザルハナシ蓋シケブレル氏始メテ行星ノ運動ニ關スルノ法則ヲ發明シガリレオ氏動ノ三則ヲ發明シニユートン氏又ダ此三則ヲ以テ天體ニ適用シテ太陽系統ノ大小距離運動ヲ解説シヘルシェルラブラス二氏此結局ヲ推シテ星霧說ヲ唱ヘ天文地質ノ說愈々進歩シテ遂ニ萬有進化ノ一大主義嶄然トシテ頭角ヲ見ハシ彼ノ萬物ノ變化スル所以植物ノ榮枯スル所以動物ノ生死スル所以社會ノ盛衰スル所以ニ至ル迄盡ク之ヲ器械的ニ説明シ盡ク之ヲ數理的ニ推測スルニ至リテハ宇宙萬有一定不變ノ大法ニヨリテ支配セラレハノ眞理ハ殆ンド復々爭フ可ラス故ニ羅馬教會ハ此等理學ノ新主義ニ向ツテハ大ニ反對スト雖モ復々昔日ノ如ク神權ト腕力トヲ利用シテ之レガ撲滅ヲ試ミル能ハズ而シテ宗教改革ノ健兒タルカルビン氏ノ如キハ新主義ノ爲メニ感化セラレ所謂神意像定ノ說ヲ唱ヘテ舊教ノ定

理ニ反對スルニ至ル眞理ノ忍耐ニシテ勢力アル一時ニ屈スト雖モ遂ニ結局ノ勝利ヲ制ス此レ豈ニ明證ニアラズヤ此ノ如クシテ理學ハ徒ニ智識世界ヲ一變スルノ勢力アルノミナラズ經濟世界ニ於テモ亦タ燦爛輝光アル勳業ヲ顯ハシ之ガ爲メニ生産ヲ進メ之ガ爲メニ實利ヲ生シ其學理ヲ技術ニ發明ニ機關ニ製造ニ適用シテ殆ンド新天地ヲ開キ來ルニ及ンデハ理學ノ人類ニ恩惠ヲ與フル世界何物カ以テ之レニ比スルコトヲ得ン而シテ之ニ反對シ之ニ抵抗シ之ヲ壓服シ之ヲ迫害シタルノ宗教ニシテ信仰ヲ失スルニ至ルハ亦タ自然ノ理ナリト謂ハザルヲ得ズ此ニ於テ羅馬教會ハ早クモ天下ノ大勢日ニ我が神學ニ反對シ異端不信ノ徒月ニ増加スルノ勢アルヲ察シ千八百六十九年(距今二十一年前)ヲ以テ羅馬府ニ教會大會議ヲ開キタリ此レ所謂ハチカン會議ナリ而シテ今マ此會ニ於テ議決シタル破宗

條款ナルモノヲ舉レバ曰有形無形一切萬有ノ創造者タル眞正ノ上帝
 アルヲ否ム者曰物質ノ外一物ナシト主張スル者曰上帝ノ本質モ萬
 物ノ本質モ同體ナリト云フ者曰有限物ノ形體精神ハ上帝ヨリ發現シ
 又クハ神體發達シテ萬物ト現ハルト言フ者曰宇宙萬有ハ上帝ハ之
 レヲ無ヨリ創造スト言フヲ信セサル者曰人間ハ其自己ノ力ハ社會
 ノ進歩ニ由リテ至眞至善ノ域ニ到達スト言フ者曰トレント會議ニ於
 テ定メタル規則ニ從ヒバイフルハ神命ニ出テズトスル者曰人間ノ理
 性ハ獨立不羈ノ權力ヲ有シ上帝ト雖モ之レヲシテ其信セザル所ヲ信
 ゼシムル能ハズト言フ者曰顯示ハ外證ヲ以テ信セシムル能ハズト言
 フ者曰奇跡ハ行ハルノ理ナシ又ク奇跡ノ證ハ確實ナルモノニアラ
 ズ又ク耶穌教ノ上帝ニ出ルハ奇跡ヲ以テ證明ス可ラズト言フ者曰
 顯示ハ秘義ヲ有スルモノニアラズ又ク道理ヲ以テ解説ス可シト言フ

者曰理學ハ顯示ニ反對スルモ遂ニ眞理ト認メラルノ精神ヲ以テ之
 ヲ講究ス可シト言フ者曰理學ノ進歩スルニ從ヒ教理ハ現時教會ガ解
 釋スルヨリモ他ノ意義ヲ以テ解釋セラル可シト言フ者是也

嗚呼羅馬教會ガ此條款ヲ發スル豈ニ偶然ナランヤ試ニ看ヨ此破宗條
 款ナルモノハ第十九世紀思想發達ノ傾向ヲ歴々トシテ摸寫スルヲ
 此思想發達ノ傾向ハ理學哲學ノ結果ナルヲ亦ク此大勢ハ教會ノ基
 礎ヲ震撼スルノ一大勢力アルヲ蓋シ彼ノドレーパー氏ハ羅馬帝國
 顛覆ノ後ヨリ第十五世紀ニ至ル迄ヲ以テ信仰的ノ時代トシ十五世紀
 以後ヲ以テ道理的ノ時代トセリ而シテ孰レカ知ラン其所謂信仰的ノ
 時代ナルモノハ即チ一神教ノ時代ニシテ道理的ノ時代ナルモノハ即
 チ凡神教ノ時代ナルヲ

第七章 宗教改革ノ結果

第七章 宗教改革ノ結果

止レ、光リ止レ、永遠不變ナル上帝ト共ニ止レ、上帝一言シテ光リハ
 赫灼トシテ世界ヲ照ラシタリ、來レ、萬色來レ、變々化々スル萬色ハ
 萬物ヲ寫シテ吾人ニ觀セシメヨト、嗚呼、此レシルレガ光ト色トヲ詠
 シタルノ詩也、而シテ其光リト共ニ止リテ去ラザルモノハ何ゾヤ、其色
 ト共ニ來リテ照ラスモノハ何ゾヤ、
 若シ吾輩ガ發明シタル宗教進化ノ大法ニシテ真理ナラシメバ、吾輩ハ
 此通則ヲ以テ現時文明ノ世界ニ適用シ、以テ宗教上ノ現象ヲハ解釋セ
 ザル可ラズ、於此乎吾輩ハ先ヅ前章ニ於テ宗教ト理學トノ軋ニ叙シ、此
 軋ノ結果ハ理學勝利ヲ占メテ宗教敗績ヲ取リタルノ結果ナルヲ示
 シタリ、然ルニ今ヤ吾輩ヲシテ一步ヲ進メテ之ヲ論ゼシメンガ、吾輩ハ
 既ニ敗績ヲ取リタルノ耶蘇教ハ愈々信仰ヲ失シ、亦タ勝利ヲ占メタル
 ノ理學ハ愈々凡神教ニ傾向セントスルノ勢アリト斷言スルノ外ナカ

ル可シ、而シテ之ガ明證ヲナスモノハ、乃チ彼ノ破宗條款ニアラザルカ。
 然リ而シテ世ノ論者或ハ吾輩ノ説ヲ駁シテ云ハントス、彼ノ宗教ト理
 學トノ軋ニナルモノハ、ドレーパー氏モ自ラ言ヘルガ如ク、羅馬教ト理
 學トノ軋ニシテ新教ト理學トノ軋ニアラズ、蓋シ羅馬教ナルモノ
 ハ、彼ガ如ク現時文明ノ精神ニ反對シ、彼ガ如ク理學哲學ノ進歩ニ反對
 スルヲ以テ、遂ニ人文發達ノ大勢ニ背馳シ、漸次信仰ヲ失シ、衰頽ヲ招ク
 ニ至リタルヲ、天下有識ノ士カ深ク知ル所ナリト雖モ、幸ナル哉、今ヤ
 羅馬教廢スト雖モ、新教起ル其勢恰モ太陽ノ正サニ中スルガ如シ、然ラ
 バ、彼ノ宗教ト哲學トノ軋ニ由リテ信仰ヲ失スルモノハ、羅馬教ナリ、
 新教ニアラザルナリ、更ニ之ヲ詳説スレバ、現時文明ノ精神ニ反對シ、理
 學哲學ノ進歩ニ反對スルモノハ、羅馬教ナリ、新教ニアラザルナリト、果
 シテ或説ノ如クナラシムルキハ、吾輩ガ宗教進化ノ大法、即チ歐洲ニ於

テ耶蘇教が衰運ニ赴カントスルノ一大原因ハ一神教ノ時代既ニ去リ
 テ凡神教ノ時代將サニ來ルニ在リトスルノ説ハ假令論理ノ基礎ヲ覆
 ヘスニ至ラズトスルモ大ニ其價值ヲ減セザルヲ得ザルナリ然レモ試
 ム彼ノ宗教改革ノ結果如何ヲ極メテ精細ニ調査セヨ吾輩ガ主張スル
 宗教進化ノ大法ハ益々將サニ其確固不拔ナル一大真理タルヲ證明ス
 ルモハアラントス

抑モ宗教改革ナルモノハ羅馬教會ノ反動ニ出デタルコトハ何人ト雖モ
 明知スル所ナラン然レモ其適切ナル原因ニ至リテハ實ニ異説紛々タ
 ルヲ免レズ蓋シ社會ノ表面ニ現ハル、重大ナル事變ナルモノハ其源
 因毎ニ複雑ナルモノニシテ若シ仔細ニ分析スルキハ遠因アラン近因
 モアラン主因モアラン伴因モアラン其他種々ノ原因種々ノ事情相集
 合シテ一大事變ヲ組織スルモノナリ然ルニ黨派偏僻ノ見ヲ懷キタル

論者ガ極メテ我方ニ便利ナル一ノ原因ヲ認メテ一大原因トナシ誇張
 幻惑ノ手段ヲ運ラシテ往々事實ヲ誤ルモノハ歴史家批評家ニ免レサ
 ルノ弱點ナリト謂フ可シ左レバ彼ノ宗教改革ノ如キモ羅馬教徒ガ論
 ズル所ニ從ヘハ當時教會ガ赦罪券ノ發賣ヲ以テルーテルニ委任セザ
 ルヲ以テ彼ガ娼嫉ヲ惹キ起シ遂ニ彼レヲシテ咄々怪事ヲ激成セシメ
 タリト云ヒ新教徒ノ論ズル所ニ依レバ此改革ノ目的ハ全ク羅馬教會
 ノ腐敗ト弊害トヲ一掃スルニ在リト云フ然ルニ更ニ識見濶大ナル史
 家ギヅー氏ノ如キハ之ヲ論シテ曰ク余ガ所見ヲ以テスレバ宗教改革
 ナルモノハ決シテ彼ガ如ク偶然ノ結果ニアラズ又彼ガ如ク一時ニ生
 シタルモノニアラズ又徒ニ宗教改良ヲ目的トシテ生シタルモノニア
 ラズ乃チ余ガ所見ヲ以テスレバ人心其自由ヲ發達センガ爲メナリ他
 人ノ權威ニ羈絆セラレズシテ自ラ思慮シ自ラ判斷スルノ新鮮ナル希

望ヲ達センガ爲メナリ東縛セラレタル道理ヲ禁獄ヨリ脱出セシメン
 ガ爲メナリ宗教ノ壓制ニ逆フテ暴起シタル人心ノ謀叛也ト眞ニ然リ
 然リ而シテ此思想運動ノ大勢ヲ驅リテ此ニ赴カシメタルモノヲ以テ
 其源因耶蘇教以外ニ在リトセバ其結果モ亦タ必ズ耶蘇教以內ニ止ル
 不能ハズ更ニ之ヲ詳説スレバ此思想運動ノ大勢一神教ヲ進メテ凡神
 教トスルノ大勢ナリ故ニ宗教改革ハ一神教ヲ一變シテ凡神教トナス
 ニアテザレバ假令區々ノ教理ヲ改革シタリトテ焉ンゾ能ク耶蘇教ヲ
 再生復活スルヲ得ンヤ然レモ全然一神教ヲ一變シテ凡神教トナセ
 バ是レ既ニ改革ニアラズモ革命ナリ嗚呼革命ニアラザレバ焉ンゾ
 能ク第十九世紀思想運動ノ大勢ヲ満足セシムルヲ得ンヤ
 故ニ吾輩ハ進ンテ宗教改革ノ結果ニ就ヒテ直ニニ觀察ヲ下サントス
 蓋シ宗教改革ナルモノハ耶蘇教ノ範圍内ニ運動シタルノ改革ナリ故

ニ其耶蘇教ノ腐敗ト弊害トチ一掃シタルノ功業ハ固ヨリ掩フ可ラズ
 ト雖モ其教理ニ就テ之ヲ言ヘバ新教ト雖モ羅馬教ノ上ニ著明ナル進
 歩ヲナシタルヲ見ズ只羅馬教ノ近世學術ニ於ケル之ヲ敵視シ新教ハ
 頗ル之ト相調和スルガ如シ然レモ止リテ進マザルモノハ耶蘇教ナリ
 動ヒテ進ムモノハ學術ナリ故ニ一ノ調和既ニ成レバ一ノ軋轢亦タ生
 シ到底雙方ノ調和ハ得テ望ム可ラズ例ヘバペーリー氏ガ自然神學ノ
 如キハ又タ善ク學術ト調和シタルモノナリト謂フ可シ然レモ進化主
 義一タビ出ルニ及ンデハ新ニ亦タ學術ト軋轢ヲ開カザルヲ得ズ然ル
 ニ近頃新教ノ學者ハ亦タ之ト調和シテ曰ク進化主義モ亦タ必ズモ
 耶蘇一神教ニ反對スルモノニアラズト然レモ進化主義ノ最モ博大ニ
 最モ精緻ニ組織セラレタルスペンセル氏ノ說ノ如キニ至リテハ新教
 學者ト雖モ必ズ既ニ調和ノ術ニ窮スルナラン之ヲ要スルニ羅馬教ハ

始メヨリ學術ト調和セズ新教ハ頗ル之ト調和スルヲ以テ其間大ニ害
 壞懸隔ナキヲ能ハズ然リ而シテ新教ト雖モ既ニ宇宙創造説人類墮落
 説ヲ拋棄セザル以上ハ到底學術ト調和スル能ハズ若シ強ヒテ之ヲ拋
 棄スルキハ一神教ヲ一變シテ凡神教トナスニアラザレバ能ハズサレ
 バ宗教改革ハ太先達タルカルビンハ學士セルベチユヲ焚殺シルテ
 ルハアリストツルヲ罵リテ彼レハ人類ノ最モ恐ル可キ欺騙者ナリ大
 膽ナル虛喝家ナリ暗國ノ王ナリ惡魔ナリ猛獸ナリト叫ンタルモ亦タ
 故ナキニアラザルナリ
 左レハ吾輩ハ宗教改革ノ結果ニ就ヒテ二個ノ事實ヲ發明シタリ一ハ
 羅馬教新教信徒ノ數ヲ比較シテ宗教改革ノ勢力ハ世人ガ想像スル程
 ニハ廣大ナラザル一ハ新教ハ夥多ナル教派ヲ生シ分裂乖離ノ傾向
 益々熾ンタルヲ是也夫レ羅馬教ガ現時文明ノ精神ニ反對シ理學哲學

ノ進歩ニ反對スルヲハ新教徒ト雖モ必ズ明言スル所ナラン亦タ從來
 古風ノ信仰ヲ維持シ怪誕ナル神學ヲ講説シ迷妄ナル儀式ヲ墨守スル
 モノハ羅馬教ニ次ヒテハ必ズ希臘教會ナラン然ルニ歐洲各國ニ於テ
 抑太利西班牙葡萄牙伊太利ノ如キハ猶ホ羅馬教會ヲ以テ國教トシ魯
 西亞希臘二國ノ如キハ猶ホ希臘教會ヲ以テ國教トスルニアラズヤ凡
 ソ世界耶蘇教信徒ノ數ハ三億數千萬ナリトス然ルニ其中ニ就ヒテ最
 モ多數ナルモノハ羅馬教會ニシテ壹億五千二百萬ノ信徒ヲ有シ之ニ
 次グモノハ新教各派ニシテ壹億ノ信徒ヲ有シ又タ之ニ次グモノハ希
 臘教會ニシテ七千五百萬ノ信徒ヲ有ス故ニ若シ羅馬教會ト希臘教會
 トト合スルキハ新教各派ハ僅ニ其三分ノ一ニダモ値ヒセザルニアラ
 ズヤ而シテ試ニ一考セヨ新思想新學術ノ氣運ハ社會ニ政治ニ教育ニ
 法律ニ習慣ニ思想ニ經驗ニ滔々トシテ洪水ノ如ク殆ンド世界ノ全面

チ、掩ハントスルノ、今日ニ於テ、理學、哲學、ハ、一、大、仇、敵、者、タル、羅馬教會希臘教會ニシテ、多數ヲ占ムル、ト、斯ノ、如シ、其、將來、人心、ノ、信仰、ニ、起ル、一、大、變動、ハ、果シテ、如何、ン、ゾ、ヤ、

若シ果シテガムベシルニテ、二氏ガ宗教改革ヲ唱道スルノ日ニ方リテ、世界各國ノ耶蘇教會變ノ如ク之ニ應シ、現時新教ノ如クナリトモ、宗教ト學術トヲ調和シ、其教理ヲ一變シテ、進歩改良ヲ圖ルアラハ、吾輩ハ宗教改革ノ努力誠ニ廣大ナルニ感服シ、耶蘇教ノ前途ヲ以テ猶ホ幾分カ將來ニ望ミアリトセズンバ、アラズ、然ルニ新教ト舊教トヲ比較スレバ、彼ガ如シ、而シテ新教各派ガ其前途ニ向ツテ失望ニ堪ヘザルコトハ、更ニ舊教ノ比ニアラザルモノ有リ、彼レ、宗教改革ハ、先達ガ、一、ク、ビ、ハイ、ブ、ル、チ、解釋、スル、ニ、各、個、人、ノ、道、理、ニ、權、威、ヲ、與、ヘ、テ、ヨ、リ、遂、ニ、人、々、意、ニ、從、ツ、テ、聖、書、ヲ、解、シ、其、見、解、稍、々、異、ナ、レ、ハ、教、派、ヲ、別、ツ、テ、相、軋、乖、離、シ、分、裂、ハ、

極、殆、ン、ド、將、サ、ニ、其、底、止、ス、ル、所、ヲ、知、ラ、ザ、ル、ニ、至、ラ、ン、ト、ス、蓋シ宗教改革ガ羅馬教會ニ對シテ、利益アル影響ヲ及ボシタルコトハ、今日ニ在リテハ羅馬教徒ガ既ニ承認スル所ナリ、然レモ之ガ爲メニ種々無數ノ各派ヲ生シ、之レガ爲メニ互相軋、乖、シ、テ、懷、疑、不、信、ノ、徒、ヲ、増、殖、シ、之、ガ、爲、メ、ニ、同、胞、一、體、ナル、教會、ヲ、分、裂、シ、テ、平、和、友、愛、ノ、連、鎖、ヲ、破、ル、ニ、至、リ、テ、ハ、羅、馬、教、徒、ガ、飽、迄、駁、撃、ス、ル、所、ニ、シ、テ、新、教、徒、ト、雖、モ、願、フ、ニ、此、駁、撃、ニ、對、シ、テ、ハ、之、レ、ヲ、辨、解、ス、ル、言、詞、ナ、キ、ニ、苦、ム、ナ、ラ、ン、

今ヤ全世界ニアル新教各派ハ、其數幾何ナル乎、蓋シ精密ニ之レヲ調査スルハ甚ダ難事ナル可シ、所謂ガルビニストト云ヒ、アルミニオント云ヒ、ヒ「バアツクステリアン」ト云ヒ、「アンチノミアン」ト云ヒ、「アリアン」ト云ヒ、「ニコテリアン」ト云ヒ、「エピスコパリアン」ト云ヒ、「インデペンデント」ト云ヒ、「セシードル」ト云ヒ、「プローニスト」ト云ヒ、「シエカル」ト云ヒ、「ユニバ

ルサルスト」ト云ヒ此等ノ名目タル通常世人ガ熟知スル所ニシテ宗中更ニ宗ヲ生シ派内更ニ派ヲ分チ今日ニ至リテハ殆ンド幾百派アルヲ知ラズ僅々大英一國ノ版圖ニ於テサヘモ新教各派ノ數ハ既ニ百有餘派ニ達セリト此夥多ナル新教各派ガ各旗幟ヲ樹テ獨立分裂スルノ狀況ハ恰モ封建世界ニ於テ千百ノ世界ヲ現出シタルガ如シ而シテ其相互ノ關係ヨリ生ズルモノハ反對トナリ確執トナリ不和トナリ嫉妬トナリ怨恨トナリ仇視トナリ軋轢トナリ將サニ耶蘇教道德ノ精神タル同胞博愛ノ主義ヲシテ足下ニ蹂躪スルニ至ラントス左レバ耶蘇教ヲ以テ世界平和ノ源ダラシメ普ク其愛ト光トヲ普及セシメテ四海波靜ナラシメント熱望シタルトイマスギツク氏ノ如キモ此點ニ就ヒテハ殆ンド痛歎ト失望トニ堪フルヲ能ハズ曰ク耶蘇教ノ最優ナル真理ヲ世界ニ知ラシムルノ方法タル只其感化ノ結果ヲ以テ之ニ示メスニ外

ナラズ然ルニ今ヤ新教各派ハ相愛セズシテ相嫉ミ相和セズシテ相憎ミ相協同セズシテ相軋轢ス此ノ如キノ有様ヲ以テ不信者ヲ誘ヒテ其教ニ歸セシメント欲セバ不信者ハ必ズ云ハシ汝等先ツ相互ニ和セヨ然ル後チニ吾儕ハ汝等ノ教理ニ就ヒテ考フル所アラソミト然ラバ則チ今日ニ方リテ不信ノ徒ヲ増殖スルノ源因ハ此各教派ノ分裂ニアラズ何ソヤトギツク氏ノ言誠ニ情實ヲ穿チテ明快痛切ナリト謂フ可レ吾輩亦タ何チカ言ハンヤソレ結合スルモノハ進化ノ始メナリ分裂スルモノハ溶化ノ始ナリト云ヘル原則チシテ果シテ誤ナラシメバ吾輩ハ此原則ヲ適用シテ新教各派ノ將來ヲトスルヲ夫猶豫セザル可シ然リ而シテ宗教改革ノ結果チシテ斯ノ如ク失望ノ極ニ出デシメタルモノハ必ズ一大總括的ノ源因ナクソバアラズ吾輩ノ所見チ以テスレバ一大總括的ノ源因トハ蓋

他ニアラズ。即チ宗教進化ノ大法是也。

第八章 耶蘇教ノ前途

吾輩が過去若クハ現在ノ現象ニ就ヒテ。耶蘇教盛衰ノ大勢ヲ論ズル所ハ。實ニ前段ノ述ブル所ニ過ギズ。若シ又チ一步ヲ進メテ其前途ヲ觀察スルコトヲ得バ。愈々將サニ其將來命運ノ歸着スル所ヲ知ルニ足ラントス。然リ而シテ今日吾輩ハ千萬里外ノ世界ヲ窺フノ望遠鏡ヲ有スルモ。未ダ將來ヲ察スルノ利器ヲ有セザレバ。將來ノ事モ亦タ過去若クハ現在ノ現象ニヨリテ之ヲ推測スルノ外ハアラザル可シ。然ラバ則チ將來ノ事ハ如何シテ推測ス可キ乎。

凡ソ自然運動ノ大法タル外力ノ障礙ニ遭ハザルキハ。一たび運動シタル物體必ズ其運動ヲ止メザル可シ。又チ方サニ運動スルノ物體ト雖モ。外力ノ障礙ニ遭フキハ其抵抗ノ強弱ニ應ジテ或ハ其方向ヲ變ジ。或

ハ其速力ノ度ヲ減シ。或ハ全ク其運動ヲ止ムルニ至ル可シ。今ヤ吾輩が事物未然ノ大勢ヲ豫察スルモ亦タ豈ニ此自然ノ大法ニ由ラザルチ得ンヤ。夫レ耶蘇教モ亦タ將來ニ向ツテ運動スルモノナリ。夫レ外力ニシテ之レニ抵抗スルモノアラズンバ。其進歩ノ大勢モ亦タ未ダ測ル可ラザルモノアラシ。然レモ耶蘇教ハ不幸ニシテ障礙ヲ有スルモノナリ。而シテ此障礙タル其勢力漸次ニ増加セントスルモノナレバ。其耶蘇教ノ進歩ニ抵抗スル益々強大ナルニ至ル可キハ言ヲ待タズ。更ニ之ヲ詳説スレバ。耶蘇教ハ此外力ノ爲メニ障礙ヲ被ルモ。此外力ハ未ダ他ノ障礙ヲ被ルヲ見ザルナリ。

然ラバ則チ耶蘇教ノ障礙タル外力トハ如何ナルモノナルカ。即チ耶蘇教ニ反對スルノ感情傾向理論ヲ指シテ之ヲ總稱スルモノニシテ其源因一ナラズ。故ニ其耶蘇教ニ反對スルノ方法モ亦タ同ラズ。然リ而シテ

吾輩ノ所見ヲ以テスレバ、近日歐米ニ起ル政治社會上ノ一大問題タル、社會主義ノ如キモ亦タ其耶蘇教ノ進歩ニ抵抗スル一大障礙タルヲ信ズル也。抑モ社會主義ノ歐洲ニ生ズル數世紀ノ前ニ在リト雖モ其最モ氣鋭ヲ生シ其蔓延最モ廣シシテ冥々ノ裡ニ漸ク將サニ社會ヲ動かスノ一大勢力トナリ。世ノ識者チシテ杞憂ニ堪ヘザラシムルニ至ラントスルモノハ實ニ第十九世紀ノ一大現象ナリト稱セザルヲ得ズ。蓋シ現時文明ノ世界ニ於テ政治上ノ重要ナル問題ハ勞力社會ニ若クモノハナカル可シ而シテ此勞力社會ノ問題ト社會主義ノ問題トハ頗ル密着シテ其關係殆ンド解ク可ラズ然ルニ此社會主義ナルモノハ不幸ニシテ無神的方向運動ニ出デ、其耶蘇教ニ反逆スルノ一大勢力タルトハ實ニ亦ク著明ナル事實ナリトス。試ニ彼ノ一千八百七十年萬國連合社會黨ガ伯林ニ於テ開キタル會議ヲ看ヨ。有名ナル魯國盧無黨ニカヘル

ハツクニシテハ其主義ヲ代表シテ吾儕ノ會盟ハ無神の會盟ナリ。故ニ斷然耶蘇教ヲ廢シ學術ヲ以テ之ニ代フ可シト明言シタルニアラズヤ。ウルソ一氏曰ク現時基督教國ニ蔓延スル社會主義ナルモノハ耶蘇教ハ教理ヲ取ルモ其事實ハ之ヲ捨テ、取ラズ又タ曰ク佛國ノ思想家及ビ社會主義ニ傾向スルノ學士ハ全ク耶蘇教ヲ拋棄セリ。又タ曰ク日耳曼ノ社會黨モ亦タ「バイブル」トルーデルノ信仰ヲ棄テ、信ゼズト而シテ此社會主義ガ耶蘇教ニ反對スルノ思想感情ハ果シテ如何ナルモノナルカチ了解セント欲セバ氏ガ引證シタル彼ノ佛國社會主義ノ泰斗ニシテ而カモ凡神教ノ曉星トモ稱ス可キル、一氏ノ言ヲ聞ケヨ。蓋亦思半ニ過ルモノアラン。其言ニ曰ク。

耶蘇教ノ始メテ世界ニ現出スルヤ頗ル眞理ヲ含蓄シタリ。特ニ中世ノ頃ニ在リテハ世道人心ノ進歩ヲ援ケタルノ功業ハ顯赫ナリ

ト謂フ可シ然ルニ宗教改革ノ後ニ及ンテハ其精神元氣既に消亡
 衰耗シ再タビ歐洲思想ノ運動ヲ駕馭スル能ハズ今日ニ至リテハ
 全ク既ニ死シタリ其猶ホ存スル所ノモノハ獨リ塊然タル屍骸ナ
 ランノミ然ラバ則チ今ノ時ニ方リテ耶蘇教ニ代リテ新宗教ヲ建
 設ス可キモノハ哲學ニアラズシテ何ソゾヤ

又タ氏ガ哲學家政事家工藝家ニ訴フルノ文ニ曰ク

今ノ時ニ方リテ此地球上ニ望ム可キモノハ金銀ノ如キ貨財ノ如
 キ寶物ノ外ハアラザルナリ故ニ呼吸シテ生息スル所ノモノハ天
 下萬人皆ナ我ニ此金銀ヲ分配セヨ此貨財ヲ分配セヨト云フノ權
 利アラザルハナシ時ニ社會ノ監視者ハ答ヘテ曰ク富ノ分配ハ現
 時ト雖モ既ニ行ハレタルニアラズヤ曰ク富ノ分配全ク行ハレズ
 ト言フニ非ズ只其分配ノ宜チ得ザルヲ奈何セン監視者曰ク然ラ

バ今日ニ至ル迄汝ガ現社會ノ組織ニ満足シタルモノハ何ソゾヤ
 曰ク吾儕ガ嚮キニ現社會ニ満足シタルモノハ天ニマシマス上帝
 アリ樂ム可キノ天國アリ又タ怖ル可キノ地獄アリタレバナリ且ツ
 我が君主ガ此社會ヲ支配スルヤ其支配ノ權ハ上帝ヨリ來ルト且
 ツ社會ニ於テハ萬人不平等ナルモ教會ニ於テハ萬人平等ナリ皆
 ナ天父ノ子ナリト又僧侶輩ハ必ズ吾儕ヲ案内シテ天國ニ引導セ
 ント約束スルヲ以テ塵寰欲界ノ紛々擾々タルハ曾テ念頭ニ懸ケ
 ザリシナリ然ルニ今ヤ吾儕ハ萬事ヲ失シタリ教會ハ去レリ天國
 ノ望ハ絶チタリ奈何トナレバ汝ガ基督ハ一ハ欺騙者タルヲ證明
 シタレバナリ然ラザレバ汝ハ何ソゾ天下萬事ヲシテ盡ク金銀貨
 財ヲラシメテ然ル後チニ止マントスルヤ

抑モ社會主義ナルモノハ果シテ不祥ノ現象ナルヤ將タ將來ハ如何ナ

ル奇局ヲ演ズルニ至ルヤ此等ハ姑ク他ノ問題ニ譲ルトスルモ現時ニ在リテ其猖獗ノ勢ハ一日ヨリ熾シナリト謂フ可シ然ルニ彼等ガ耶蘇教ニ對スルノ情況ヲ察スレバ恰モ其無情ヲ怨ムガ如ク又其不平ヲ訴フルガ如ク到底彼等ハ耶蘇教ヲ以テ現社會ノ憐ム可キ悲慘ナル境遇ヲ一變シ更ニ最大福祉ノ天國ヲ此地上ニ實施スルガ如キ前途ノ望ヲ生ゼシムルノ勢力アルモノニアラズト見限リタルモノハ如シ左レバ社會主義ノ耶蘇教ヲ拋棄スルハ理論ヨリモ寧ロ其實際ヨリ來ルト謂ハザルヲ得ズ然レモ吾輩一步ヲ進メテ其理ヲ考フルニ耶蘇一神教ノ信仰ヲ失スルハ元來理哲二學ノ理論ニ反對スルニヨル理哲二學ノ理論ニ反對スルハ社會人心ノ信仰ヲ失スル所以ニシテ既ニ一タヒ其信仰ヲ失スレバ從ツテ其實際ノ感化ヲ失セザルヲ得ズ既ニ實際ノ感化ヲ失スレバ決シテ亦タ社會ヲ改良シ將來ニ向ツテ一層善美ナ

ル新世ヲ開クノ實力アルヲナシ故ニ理論ニ於テ敗績ヲ取ルハ其源因ニシテ實際ニ於テ勢力ヲ失スルハ其結果ナリト謂ハザルヲ得ズ而シテ因々果々互ニ相生シ展轉反覆窮リ無キモノハ亦タ事物自然ノ勢ニシテ怪ムニ足ラザルナリ然リ而シテ此社會主義ノ如キモ亦タ耶蘇教ニ反對スル一ノ抵抗力タルニ過ギザルノミ若シ現時文明ノ世界ニ於テ其他耶蘇教ニ反對スル種々異様ノ傾向ヲ逐一列擧セント欲セバ固ヨリ指ヲ屈スルニ遑アラズ因リテ吾輩ハ此ニ獨リ有名ナル耶蘇教家ホレーヌブシマン氏(ナチエラルエンドシユボルナチエラルト題スル冊子ノ著者)ノ説ヲ以テ此耶蘇教ニ反對スル種々異様ノ傾向ヲ示サント欲ス蓋シ氏ハ熱心ナル耶蘇一神教ノ辨護者ナレバ耶蘇教ノ弱點ヲ掩フガ爲メニハ十分注意ヲ加ヘタルハ言ヲ待タザル所ニシテ吾輩亦タ氏ノ説ヲ引證スルハ

不公平ノ譏ヲ避ルガ爲メニ極メテ利益ナリトス。
 フツシマン氏曰ク今ヤ我が耶蘇教ハ實ニ八面圍攻ノ敵中ニ在ルガ如ク、基督教世界人心ガ不信ノ點ニ傾向スルヲ恰モ地球ノ重力ガ其表面ニ萬物ヲ引着スルガ如シ故ニ其現ハレテ耶蘇教ニ反對スルモノハ千態萬狀勝テ數フ可ラズ。然レモ其最モ著明ナルモノヲ舉レバ、甲)無神論也彼ノヒニーム及ヒ佛國理學者等ガ唱道シタル無神論ハ其遺響猶ホ存シテ今日ト雖モ未ダ其跡ヲ絶タズ。此無神論ハ時トシテハ理論トナリテ現ハレ時トシテハ嘲罵トナリテ現ハレ時トシテハ新哲學ヲ裝フテ現ハレ。ホツプスヒニームトシテ既ニ去レバ、コントトナリテ復タ現ハレ。其形態ハ消極的タリ、積極的タルヲ問ハズ、理論的タリ、嘲罵的タルヲ論セズ、其歸着スル所ヲ論ズレバ、遂ニ超性ノ信仰ヲ以テ道理ニ合セズトスルコト外ナラザルナリ、乙)凡神論也蓋シ凡神論ノ原則トスル所

ハ神ト萬有トヲ以テ同體不離ナリトシ宇宙ノ存在及ヒ其歴史ヲ以テ、神ノ發達若クハ自覺トスルニ外ナラズ。故ニ此論ニ據レバ、宇宙ノ外ニモ宇宙ノ上ニモ奇跡ヲ演ズルノ神力アルコトナシ。而シテ所謂顯示ハ則チ自然ノ發達ニ外ナラザルナリ、丙)實利主義也ソレ實利主義ナルモノハ人間凡百ノ行爲ハ皆チ生物機關ノ結果ナルヲ以テ快樂苦痛ノ感覺コソ則チ倫理ノ大本ナリトスルニアラズヤ。故ニ此主義ニ於テハ道德上宗教上ノ義務ナルモノハ上帝ヨリ來ルモノニアラズシテ、宇宙物質ノ秩序ヨリ生ズルモノトシ其勢遂ニ耶蘇教ヲ以テ哲理ノ比喻トスルニ至ル。而シテ世ノ此主義ヲ尊奉スルモノハ表面ヨリ耶蘇教ニ反對セズト雖モ其裡面ニ耶蘇教ノ信仰ヲ滅ズルニ至リテハ殆ンド憂フルニ堪ヘザルモノアリ、丁)ユニテリアン派也蓋シ此派ハ自ラ耶蘇教徒ト稱シ或ハ熱心ニ奇跡ノ眞理ヲ證明スルモノアリト雖モ人類墮落ノ說

チ許サ、ルヲ以テ耶蘇超性教ノ必要ヲシテ、殆ンド其價值ヲ失セシメ
 拯救ヲ以テ發達ト解シ去リ、世界因果ノ理ハ自ラ善惡賞罰ノ組織アリ
 ト主張シテ、贖罪ノ說ヲ無用視スルニ至ルガ如キ。一ツトシテ、耶蘇教理
 ノ精神ニ反對セザルハ、ナシ。(戊)社會學派也。此派ノ說ニ曰ク、人性ハ本ト
 宇宙自然ノ秩序ニ從ツテ圓滿幸福ニ達ス可キモノナリ。然レモ現時ノ
 如キ不幸福禍害ノ境遇ニ陥リタルモノハ、人性自然ノ理ニ從ツテ社會
 組織セザルガ故ナリ。抑モ人間ノ私利私欲タル譬ハ猶ホ天地ノ間
 ニ行ハル、重力ノ大法ノ如シ。宇宙萬有ハ此ニ由リテ其秩序ヲ正シ。此
 ニ由リテ地位ヲ保チ。此ニ由リテ天地位シ。此ニ由リテ萬物育ス。故ニ私
 利私欲ノ人性ニ放任シテ、新社會ヲ組織スルキハ、耶蘇超性教ヲ待タズ
 シテ、世界人類ハ自ラ圓滿幸福ニ達ス可シ。(己)傳氣術是也。此術ヲ脩ムル
 モノハ、電氣磁石ノ傳感作用ニヨリテ種々ノ奇跡ヲ演シ、遂ニ耶蘇基督

ガ現ハシタル奇跡ハ、今日ニ至リテハ、學理ヲ以テ盡ク之レテ、實驗スル
 チ得可シト說チナシ。且ツ新ニ發見シタル星球天界ハ、耶蘇教ノ天國ヨ
 リモ一層至美至樂ノ天國ナリト主張シテ、耶蘇教ノ顯示奇跡ヲ輕蔑愚
 弄スルニ至ル。(庚)唯物論也。彼ノ徒ニ物質及ビ其法則ヲ講明スルニ從
 事スルモノハ、自ラ唯物主義ニ傾向スルノ勢アルヲ免レザルナリ。故ニ
 醫師ノ如キ、人身形體ノ現象及ビ之ガ心意ニ及ボスノ影響結果ヲ攷々
 研究スルモノハ、自ラ此主義ニ陥ラザルヲ得ズ。又タ工師ノ如キ、物理化
 學ノ法則ヲ適用スルヲ以テ職業トスルモノハ、自ラ此主義ニ陥ラザル
 チ得ズ。蓋シ彼等ハ物質ノ外ハ何モノモ信セザルナリ。因果ノ外ハ何モ
 ハモ信セザルナリ。而シテ彼等ガ斯ノ如クシテ知ラズ識ラズ耶蘇教理
 チ拋棄スルニ至ルハ、亦タ自然ノ傾向ナリト謂ハザルヲ得ザルナリ。(辛)
 新政理ノ傾向也。夫レ舊政理ト新政理トノ間ニ於テ、判然界線ヲ劃シテ

其差別ヲ明ニス可キモノハ何ツヤ蓋シ舊政理ハ一國ノ元首即チ君主
 チ以テ上帝ヨリ撰擇セラレタル天吏トシ其立法行政ノ目的トスル所
 ハ民意ヲ矯正シ民欲ヲ克治シ不正ヲ禁壓シ人生ヲ保護シ以テ墮落
 タル薄弱邪行ノ人類ノ爲メニ其尋倫ヲ叙スルヲ以テ最上主義トセザ
 ルハナシ故ニ之ガ臣民タルモノハ亦タ國家ノ法律威力ヲ以テ神權ニ
 基クトセザルハナシ然ルニ新政理一タビ出デ民主主義大ニ勢力ヲ
 逞フシ國家ヲ以テ社會ノ結合トシ立法ヲ以テ人民ノ約束トシ制裁ヲ
 以テ投票ノ多數トシ遂ニ全ク上帝ノ意ヲ國家ノ外ニ驅逐スルニ至ル
 於此乎教會又ハ教育ヲ以テ耶蘇教ノ主義ヲ擴張セントスルモ奈何セ
 シ其信仰ハ政治生活ノ爲メニ日ニ傾覆セラル、チ而シテ商業貿易自
 由諸發明ハ愈々此新政理ヲ擴張スル機會トナリ其勢遂ニ將サコ天下
 チ風靡レテ社會ハ自ラ生活シ自ラ發達スルハ法則アリト言ハシムル

ニ至ラントズ誰レカ如此政理ヲ以テ耶蘇教ノ教理精神ニ反對セズ
 ト稱スルヲ得ンヤ(王)當代流行ノ文學也蓋シ其形貌ヲ以テ之ヲ論ズ
 レバ當代ノ文學ノ如ク宗教的ナルモノハアラザル可シ然レモ密ニ
 之ヲ察スレバ當代ノ文學ハ耶蘇教ノ名譽ニ供フルノ頌詞ナリト云ハ
 シヨリモ寧ロ耶蘇教ニ代ラント欲フルモノナリト謂ハザルヲ得ズ如
 何トナレバ彼等ハ耶蘇教ヲ誨ヘタル道德ノ盛大美麗ナルヲ尊敬セザ
 ルニアラズ然レモ其上帝ヨリ來ルハ命令ナルヲ認メザルナリ彼等ハ
 基督ヲ以テ豪傑中ノ豪傑ナリト賛歎セザルニアラズ然レモ其神ノ肉
 身タルヲ認メザルナリ彼等ハ宇宙萬有ノ宏大榮光ナル物象ヲ觀テ上
 帝アルヲ知ラザルニアラズ然レモ彼等ハ却ツテ自己ノ心意及ビ其想
 像ニ於テ神質アルヲ自覺スルモノナリ嗚呼當代ノ文學ガ宗教トスル
 所ハ實ニ此宗教ナリ而シテ其將來世界ノ青年ヲ感化スル所ノ宗教ハ

實ニ此宗教ナリ

以上逐叙スル所ハ現時歐米ノ政治法律社會學術文學技藝等ノ傾向ニシテ此傾向ハ不幸ニモ耶蘇教ニ反對スルノ大敵ニアラザルハナシ然ラバ此傾向ハ將來ニ向ツテハ進歩スルモノナル乎退歩スルモノナル乎ト問ハハ吾輩ハ毫モ其勢力ヲ減ズル所アルヲ見ザルノミナラズ第十九世紀文明ノ大勢ハ駭々乎トシテ其傾向ト共ニ進歩スルヲ見ルナリ而シテ此等ノ傾向一步ヲ進ムレバ耶蘇教ハ一步ヲ退カザルヲ得ズ此等ノ傾向勢力ヲ得レバ耶蘇教ハ勢力ヲ失セザルヲ得ズ耶蘇教此等ノ傾向ニ打チ勝ツ能ハズンバ耶蘇教ハ此等ノ傾向ニ打チ勝タレザルヲ得ズ此二者ハ到底並行スル能ハザル可シ吾輩故ニ曰ク耶蘇教ノ前途ヲトセント欲セバ之レヲ彼ノ物質運動ノ大法ニ徴セヨ

而シテ知レ我が第十九世紀文明世界ノ現象タル物質ニアレ智識ニア

レ道德ニアレ皆ナ凡神的ノ現象ニシテ一神的ノ現象ニアラザルナリ此レ他ナシ一神教ノ時代既ニ去リテ凡神教ノ時代既ニ達スレバナリ夫レ四圍八面ノ環象ニヨリテ其形狀其生活ヲ變化セラル、モノハ豈ニ獨リ動植世界ノ法則ノミナランヤ或ル點ヨリシテ觀ルキハ思想世界モ一大機體ナリ亦タ焉ンゾ此法則ニ支配セラレザルヲ得ンヤ然ラバ則チ怪ム勿レ現時ト雖モ耶蘇教ヲ圍繞スルノ思想感情經驗傾向ハ盡ク耶蘇教ニ反對スルヲ而シテ更ニ一步ヲ進メテ第二世紀ノ曉ニ到達セバ此環象ガ益々進ンテ變化ヲ生ズルニ至ルハ必ズ復タ今日ノ比ニアラザルモノアラン而シテ此時コ方リテ耶蘇教猶ホ其舊時ノ面目ヲ維持セント欲スルハ恰モ是レ炎天熱地金流石礫ノ世界ニ於テ銀田冰海ノ奇觀ヲ留メント欲スル如シ豈ニ能ク爲シ得ベキノ事ナランヤ夫レ宗教モ亦一大機體ナリ而シテ其生命タルモノハ何ンゾヤ信

仰○是○也○。然○ル○ニ○今○ヤ○不○幸○ニ○シ○テ○人○心○上○社○會○上○ニ○生○シ○タ○ル○現○象○ハ○耶○蘇○教
 ニ○反○對○ス○ル○ノ○傾○向○ヲ○見○ハ○サ○バ○ル○ハ○ナ○シ○。故○ニ○耶○蘇○教○自○ラ○其○教○理○ヲ○一○變
 ス○ル○カ○若○ク○ハ○他○ノ○宗○教○ヲ○シ○テ○之○ニ○代○ハ○ラ○シ○ム○ル○ニ○ア○ラ○ザ○レ○ハ○其○信○仰○ヲ
 維○持○ス○ル○能○ハ○ザ○ル○ハ○烈○ト○シ○テ○火○ヲ○觀○ル○カ○如○シ○而○シ○テ○耶○蘇○教○自○ラ○其○教
 理○ヲ○一○變○セ○バ○如○何○ニ○之○ヲ○變○セ○ザ○ル○可○ラ○ザ○ル○乎○。他○ノ○宗○教○ニ○シ○テ○耶○蘇○教
 ニ○代○ハ○ル○モ○ノ○ア○ラ○バ○如○何○ナ○ル○宗○教○ナ○ラ○ザ○ル○可○ラ○ザ○ル○乎○。此○レ○則○チ○凡○神
 教○ノ○時○代○ニ○適○合○ス○ル○ノ○宗○教○ナ○ラ○ザ○ル○可○ラ○ズ○。此○レ○則○チ○彼○ノ○耶○蘇○教○ニ○反
 對○ナ○ル○傾○向○ヲ○有○ス○ル○政○治○法○律○社○會○學○術○文○學○技○藝○思○想○感○情○ノ○大○運○動○ヲ
 駕○馭○ス○ル○ノ○宗○教○ナ○ラ○ザ○ル○可○ラ○ズ○。
 斯○ノ○如○ク○論○ヲ○來○レ○バ○吾○輩○ハ○失○望○ナ○ル○前○途○ヲ○歎○ズ○ル○ト○同○時○ニ○我○レ○ヨ○リ
 後○ニ○來○ル○モ○ノ○ハ○我○ニ○勝○リ○テ○至○大○ナ○リ○。我○ハ○其○履○ヲ○モ○提○ル○ニ○足○ラ○ズ○ト○云
 ヘル○豫○言○者○ノ○言○ヲ○追○憶○シ○テ○坐○ロ○ニ○他○ノ○愉○快○ナ○ル○將○來○無○限○ノ○望○ヲ○喚○起

セズンバアラス。

第九章 哲學ト宗教

凡○神○教○ノ○時○代○ハ○破○壞○的○ト○建○設○的○ト○ノ○表○裡○兩○面○ヲ○示○メ○ス○モ○ノ○ア○リ○。蓋
 シ○破○壞○的○ノ○表○面○ニ○於○テ○一○神○教○ノ○妄○想○ヲ○破○レ○バ○建○設○的○ノ○裡○面○ニ○於○テ○ハ
 凡○神○教○ノ○真○理○ヲ○顯○ハ○シ○破○壞○的○ノ○表○面○ニ○於○テ○舊○宗○教○ノ○信○仰○ヲ○失○ス○ル○ヲ
 吊○哭○ス○レ○バ○建○設○的○ノ○裡○面○ニ○於○テ○ハ○新○宗○教○ノ○將○サ○ニ○起○ラ○ン○ト○ス○ル○ヲ○慶
 賀○シ○破○壞○的○ノ○表○面○ニ○於○テ○理○學○ノ○分○析○ヲ○以○テ○舊○宗○教○ノ○基○礎○ヲ○崩○サ○ン○ト
 ス○レ○バ○建○設○的○ノ○裡○面○ニ○於○テ○ハ○哲○學○總○合○ヲ○以○テ○新○宗○教○ノ○基○礎○ヲ○築○カ○ン
 ト○ス○。彼○ハ○現○時○文○明○ノ○宗○教○思○想○ナ○ル○モ○ハ○蓋○シ○此○ハ○表○裡○兩○面○ノ○中○間○ニ
 在○リ○テ○進○退○ス○ル○モ○ハ○ナ○リ○。而○シ○テ○吾○輩○既○ニ○前○章○ニ○於○テ○粗○ボ○破○壞○的○ノ○表
 面○ヲ○示○メ○シ○タ○レ○バ○今○ヤ○本○章○ニ○於○テ○ハ○少○シ○ク○建○設○的○ノ○裡○面○ヲ○モ○示○サ○マ
 ル○可○ラ○ズ○。

然レ凡神教建設的ノ裡面ヲ示サント欲スレバ近世哲學史ニ就ヒテ其全體ニ係ルノ思想進歩及ビ其講究ノ目的方法結局ヲ概論セザル可ラズ。然レ此ノ如キハ吾輩淺學微力ノ敢テ企及スル所ニアラズ。又本論ノ目的トスル所ニアラズ。吾輩ハ只近世哲學ノ思想ハ盡シ凡神教ニ傾向スルヲ證明スルヲ得ハ速ニ止マンハミ。

抑モ近世哲學ノ講究スル所ノ如何ハ姑ク措ヒテ之ヲ論セズ。哲學ト云フイガ即チ一大現象ナリ。奈何トナレハ宇宙ノ本源ト云ヒ萬有ノ性質ト云ヒ人間ノ命運ト云フガ如キ大問題ハ此レ蓋シ哲學者ガ其伎倆ヲ關ハシムルノ舞臺ナル可シ。而シテ此等ノ問題ニ關シテ「ハイブル」ノ説ク所ニ安着セバ何ソグ哲學ヲ要センヤ。彼ノトルチニリアンガ所謂一卷ノ「ハイブル」ハ詩ナリ。哲學ナリ。萬有智識ノ倉庫ナリト云ヘルノ言チシテ信然ナラシメバ何ソグ哲學ヲ要センヤ。然レ凡人間ハ此大問題ニ

關シテハ耶蘇一神教ノ説ク所ヲ以テ満足スル能ハズ。遂ニ此ニ近世哲學ノ一大光ヲ開クニ至ル。而シテ哲學ノ論タル諸家各其説ヲ異ニスルニモ係ハラズ。其多神教若クハ一神教ニ反對シテ凡神教ノ真理ヲ闡説スルニ至リテハ殆ンド同一ノ點ニ歸極スト云ハザル可ラズ。蓋シ近世哲學ニ於テブルノ「スピノサ」二氏ガ有名ナル凡神論者タルハ何人ト雖モ知ル所ナラン。然レ凡吾輩ノ見ル所ヲ以テスレバデカハト「ライプニツ」氏諸氏ノ哲學ト雖モ亦タ之ヲ詳察スレバ大ニ凡神教ニ傾向スル所アルヲ見ルニ足ル。然リ而シテ近世哲學ノ首唱家ハ猶ホ幾分一神教ノ習見ヲ脱セザル所アルヲ覺ユルモノアリト雖モ其愈々進ムニ從ツテ愈々凡神教ノ真理ヲ開説スルニ至ルハ掩フ可ラザルノ事實ナリ。

夫レ獨國哲學ノ師宗ヲ以テカント「氏」トシ佛國哲學ノ泰斗ヲ以テク「ザン」氏トシ英國哲學ノ領袖ヲ以テハミルトン「氏」トス。此三氏ハ凡神論

者ニアラザルナリ。然レモ三氏ヲ祖述シ若クハ三氏ノ論理ヲ進ムルモ
 ノハ蓋シ凡神論者ヲザルハナシ。蓋シカント氏ガ時間ト空間トヲ以
 テ主觀ニ歸スルノ論理ハ獨逸哲學ノ新天地ヲ開クモノニシテアヒテ
 セリ。ングヘーゲルノ三氏ニ至リテハ既ニ凡神論ノ最高嶺ニ達シテ古
 今東西ノ哲學ヲ俯瞰スルモノナリ。ネットマン氏(佛國文學史曰ク近世
 ノ凡神論ハ印度ノ凡神教ヲ學術的ニ開説シタルモノニシテ其徹底ニ
 至リテハ兩者敢テ異ナル所ナシト。而シテ獨逸哲學ノ凡神論タルレヨ
 ウペンハッセルハルトマンノ諸氏ニ至リテハ更ニ一步ヲ進メテ佛教小
 乘法ノ厭世主義迄モ之ヲ摸倣セントシタルハ實ニ奇々怪々ノ一大現
 象ナリト言ハザルヲ得ズ。(吾輩ガ主張スル大乘佛教ノ厭世主義ニアラ
 ザルコトハ前段説キ來ル所ヲ以テ之ヲ察ス可シ)ケーロ氏ハ此事ニ關レ
 テハ左ノ如ク言ナセリ

現時佛教ノ厭世主義ガ普拉亞王國ノ中心ニ進入セントスルハ唯
 々一大怪事ニアラズヤ。蓋シ阿片ノ餘毒ニ沈醉シテ其精神氣力ヲ
 麻痺シタル印度人民ガ厭世主義ヲ唱フルハ敢テ疑ムニ足ラザル
 モ。此活潑ニシテ氣力アル實際ニシテ好戰ナル勇猛ニシテ進取ナ
 ル普國國民ニシテ寂滅皆無ノ説法ニ隨喜歸向スルハ實ニ理ノ解
 ス可ラザルモノナリ。然レモ厭世主義ガ勢力ヲ得ルハ獨リ獨逸ノ
 ミニアラズ伊太利ニ於テハ有名ナル詩家レチパルヂー之ヲ鼓吹
 シ佛國モ亦タ頗ル此主義ノ進入スル所トナリ。而シテ魯國ニ至リ
 テハ彼ノ最モ恐怖ス可キ虛無黨トナリテ現出セリ。
 此ヲ要スルニ獨逸哲學ノ進歩ハ凡神教的ノ進歩ナリ。其運動ハ凡神教的ノ
 運動ナリ。故ニ獨逸ニ在ルモノハ耶蘇教神學者ト雖モ亦タ多少凡神教
 ニ傾向スルヲ免レザルナリ。而シテ吾輩又タ眼ヲ轉シテ佛國哲學ヲ觀ル

ニ彼ノクレーザン氏ハ自ラ凡神論者タルヲ辭避スト雖モ氏ガ眞理ハ宇
 宙ニ遍滿スト云ヘルノ一言ハ則チ萬有ハ眞理ナリ眞理ハ上帝ナリト
 ノ意義ニシテ此レゾ實ニレールミニエー氏ガ凡神論ヲ唱道シタルノ
 淵源ニシテクレーザン氏ノ折衷學派ハ即チ凡神論ノ指針ナリト謂ハザ
 ルヲ得ズ然リ而シテ佛國哲學ノ凡神論ヲシテ其極點ニ達セシメタル
 モノハ所謂ピエールル、一氏ニシテ氏ハ其哲學ヲ以テ新宗教トシテ
 耶蘇一神教ニ代立セント唱道シタリ。
 彼ノ英國哲學ニ至リテハハミルトン氏一タビ神性ヲ論ジテ絕對ノ稱
 ナ下セシヨリ氏ノ高弟マンセル氏ノ絕對ノ思議ス可ラザルヲ論ジス
 ベンセル氏ニ至リテハ此思議ス可ラザルノ絕對ノ存在スルヲ論ジテ
 更ニ一步ヲ進メタリ然ルニスベンセル氏ハ其著書ノ論ズル所ニ從ヘバ
 多神教一神教凡神教ノ三教共ニ其取ル所ニアラズト言フガ如シト雖

モ吾輩ヲ以テ之ヲ見レバスベンセル氏ノ如ク明瞭精確ニ凡神論ヲ主
 張シタルモスハアラズ蓋シ氏ハハミルトンマンセル二家ノ論ヲ進メ
 テ絕對ノ性質ハ思議ス可ラザルモ絕對ノ存在ハ思議セラル、モノナ
 リト立論シタルニアラズヤ然ラハ絕對ト萬有トハ如何ナル關係ヲ有
 スルヤ氏之ニ答ヘテ曰ク宇宙ノ本源ナリ時間ナリ空間ナリ物質ナリ
 運動ナリ勢力ナリ苟モ他物ト其關係比較チ離シテ其物自個ヲ考フル
 此ハ此レ皆絕對ニシテ思議ス可ラズ故ニ宇宙萬有ハ此絕對ノ現象ニ
 シテ絕對ハ即チ不可思議ノ上帝トモ不可思議ノ原因トモ不可思議ノ
 勢力トモ稱ス可シト此ニ由リテ之ヲ觀レバ絕對ト相對トハ同體不離
 ナルコトハ氏既ニ之ヲ明言スルニアラズヤ然ラハ今マ氏ヲシテ一步ヲ
 進マシメテ此絕對ノ現象タル宇宙萬有ハ自ラ進化シテ宏大無限ナル
 欲望アル人類ヲ生ジ現時世界ニ現出スル人類ハ猶ホ進化ノ初級タル

チ想ハシメバ氏ハ敬ンテ絶対ノ前ニ跪拜シテ其如何ナル勢力アルカ
 チ驚歎頌美セザルヲ得ズ又タ氏ハ此進化ノ目的ヲ求メテ其法則ヲ遵
 奉セザルヲ得ズ此レ則チスペンセル氏ノ自然宗教ナリ而シテ如此宗
 教ハ果シテ多神教ナルカ將ク一神教ナルカ抑モ凡神教ナルカ蓋シ氏
 ガ絶対ハ宇宙萬有ノ外ニ在リト言ハズシテ宇宙萬有皆ナ絶対ノ現象
 ナリト言ヘルヲ見レバ勿論問ハズシテ其凡神教ナルヲ知ル可シ氏ニ
 シテ凡神論者タラズンバ天下何人カ凡神論者タルヲ得ンヤ
 左レバ近世哲學ハ凡神教時代建設的ノ裡面ヲ見ハシタルモノニシテ
 世或ハ哲學ト宗教トハ反對スルガ如クニ説キ去ルモノナキコアラズ
 ト雖モ其反對スルモノハ一神教ナリ其一神教ニ反對スルハ凡神教ノ
 眞理ヲ顯ハス所以ナルトハ固ヨリ言ヲ待タズ論シテ此ニ到リテ只吾
 輩ノ腦裡ニ生ズル一大疑問ナルモノハ他ニアラズ彼ノ文明世界ハ何

故ニ速ニ耶蘇一神教ヲ抛テ此哲學ノ新宗教ニ歸向セザルヤノ疑問
 是也
 此疑問ニ答フルハ此論ノ一大主眼トスル所ニシテ此ニ到リテ吾輩ノ
 理論ハ大ニ事實ト吻合シ果シテ其眞理ノ謬ラザルモノアルヲ證明ス
 ルニ足ル可シ蓋シ宗教ハ二大要素ヲ以テ織成スルモノニシテ所謂二
 大要素トハ自然教ト顯示教ト是也自然教ナルモノハ智力感情ノ發達
 スル所ナリ理學哲學ノ建設スル所ナリ而シテ近世哲學ノ進步スル既
 ニ一神教ト云ヘル自然教ヲ倒シテ將サニ凡神教ト云ヘル自然教ヲ
 起サントス哲學諸家ノ新宗教トハ此自然教ニ外ナラザルナリ而シテ
 彼ハ耶蘇教ナルモノハ即チ此一神教ト云ヘル自然教ヲ基礎トシテ其
 上ニ建テラレタルモノナレバ如何ニ盛大壯麗ハ結構ナルニモセヨ此
 一大基礎ニシテ一タビ崩ルハ其建築モ之ト共ニ倒レザルヲ得ズ

然ルニ之ニ代ラントスルノ新宗教タル亦唯自然教タルニ止リテ顯示
 教ノ一大要素ヲ缺クハ此レ亦タ基礎アリテ建築ナキカ如シ焉ツ能
 ク宗教ノ宗教タル一大殿堂ヲ觀ルヲ得ンヤ然ルニ我邦ノ佛教論者
 往々宗教ノ何物タルヲ知ラズ口ヲ開ケハ輒チ曰ク我佛教ハ哲理ニ合
 スルモノナリ。哲理ヲ應用スルモノナリト夫レ徒ニ哲理ニ合スルモノ
 チ以テ真正ノ宗教トスルカ彼ノ哲學諸家が新宗教ハ早ク既ニ耶蘇教
 ニ代リテ文明世界ノ信仰ヲ支配ス可キ筈ナルニ其然ラザルモノハ何
 ツヤ此レ豈ニ宗教ノ宗教タル所以ノモノハ獨リ自然教ニアラザルチ
 以テスルコアラズヤ然ラハ則チ吾輩一言以テ方今文明世界宗教ノ現
 況ヲ評セン曰ク宗教進化ノ大法ニ由リテ一神教ノ時代既ニ去リテ凡
 神教ノ時代既ニ達セリ一神教ヲ以テ基礎トスルノ耶蘇教ハ顛覆セン
 トス凡神教ノ新基礎ハ將サニ成ラントス然レモ此新基礎ノ上ニ築ク

可キ顯示教ハ未ダ來ラザルナリ
 而シテ今マ一步ヲ進メテ此哲學ノ新基礎ノ上ニ築ク可キ宗教ハ如何
 ナル宗教ナルカ耶蘇教ニ代リテ文明世界ノ信仰ヲ支配ス可キ宗教ハ
 如何ナル宗教ノ命運ニ歸スルカ豫言セントスルハ前ニ方リテ更ニ
 一言以テ上章ノ意ヲ約說セザル可ラズ蓋シ吾輩ノ見ル所チ以テスレバ
 文明世界ノ有形ニ見ハレ無形ニ見ハルハ一ツトシテ一神教ニ
 傾向スルハ現象ニアラズシテ凡神教ニ傾向スルハ現象ナラザルハナ
 シ彼ノ佛國革命ノ時ニ道理ノ女神現出シタルモノハ是レ一神教ノ時
 代既ニ去リテ凡神教ノ時代將サニ來ラントスルハ現象ナリ彼ノ理學
 宗教相軋轢シテ理學遂ニ連戰連勝シタルモノハ是レ一神教ノ時代既
 ニ去リテ凡神教ノ時代將サニ來ラントスルハ現象ナリ。バチカン會議
 ニ於テ議決シタル破宗條例ナルモノヲ讀メヨ是レ一神教ノ時代既ニ

去リ、凡神教ノ時代將サニ來ラントスルハ現象ナリ、彼ノ宗教改革ノ結果タル四分五裂ノ渙散ヲ見ルニ至ルモハ是レ一神教ノ時代既ニ去リテ凡神教ノ時代將サニ來ラントスルハ現象ナリ、彼ノ耶蘇教中ヨリニエニテリアン派ノ如キモノチ現出シタルハ是レ一神教ノ時代既ニ去リテ凡神教ノ時代將サニ來ラントスルハ現象ナリ、彼ノ道德法律ニ於テ最大福祉ヲ基本トスル實利主義漸ク勢力ヲ得ルモノハ是レ一神教ノ時代既ニ去リテ凡神教ノ時代將サニ來ラントスルハ現象ナリ、彼ノ政治社會ニ於テ抑壓ヲ滅シ自由ヲ與ヘ一個人社會國家人類全體ヲシテ自然ノ發達ヲ促サシムルノ主義漸ク煥發スルモノハ是レ一神教ノ時代既ニ去リテ凡神教ノ時代將サニ來ラントスルハ現象ナリ、彼ノ文學美術ニ於テ造化ノ美ヲ頌美シテ却ツテ自己ノ想像ヲ偉大ニシ、基督ノ豪傑タルヲ稱賛シテ却ツテ自己ト同類視スルモノハ是レ一神

教ノ時代既ニ去リテ凡神教ノ時代將サニ來ラントスルハ現象ナリ、彼ノ理學ニ於テ宇宙萬有ノ變化運動スル皆ナ一定不變ノ大法ニ支配サレ、此大法ハ則チ自然力開發ノ正路ナルヲ證明スルモノハ是レ一神教ノ時代既ニ去リテ凡神教ノ時代將サニ來ラントスルハ現象ナリ、彼ノ哲學ニ於テ哲學ガ講究スル所ノ極點ハ遂ニ凡神教ノ真理ヲ開説スルニ外ナラザルヲ證明スルモノハ是レ一神教ノ時代既ニ去リテ凡神教ノ時代既ニ來ラントスルハ現象ナリ、吾輩ハ過去ヲ回臆シ現在ヲ觀察シ將來ヲ推測シテ宗教革命ノ必ズ來ル可キヲ信ズ否必ズ來ラザル可ラザルヲ信ズ、然リ而シテ吾輩ハ猶ホ又ク此ニ一言以テ上章ノ論及セザル所ヲ補ハザルヲ得ザルモノアリ、蓋シ如何ナル論者ニテモ宗教進化ノ大法ハ多神教ヨリ進ンデ一神教ニ至ルノ順序ニ反對スルモノハ之レ無ラン、彼

ノ一神論者或ハマツクスムーラル氏ノ説ヲ以テ反對ヲ證セントスル
 モ蓋シ氏ガ説ハ印度一國ノ變例ニシテ宗教進化ノ法則ヲ論シタルモノ
 ニアラザルナリ。然レモ其一神教ヨリ一步ヲ進メテ到達ス可キモノハ凡
 神教ニアラズシテ無神論ナリト言ヘルノ論者ナキニアラズ。此論ノ意味
 ハ勿論世界文明ノ極點ハ宗教ヲシテ全然無宗教タルニ至ル可シト言フ
 ニ外ナラズ。何ントナレバ則チ無神論ト無宗教トハ互ニ通用セラル、ノ
 名詞ナレバナリ。然リ文明世界固ヨリ無神論者ナキニアラズ。宗教ト云ヘ
 バ復タ其種類ノ如何ヲ問ハズ。性質ノ如何ヲ論ゼズ。盡ク擧ゲテ之ヲ抛
 棄スルノ論者ナキニアラズ。然レモ吾輩ガ所見ヲ以テスレバ。此レ一ハ
 耶蘇教ガ學術ニ反對シテ之レヲ抑壓シ之レヲ迫害シタルハ反動激ニ
 過ギテ軌道ノ外ニ飛ビ去リ一ハ其時代ノ智力感情ニ適合スル眞正善
 良ナル宗教ナキヲ以テ自暴自棄ノ念ヲ生シテ斯ル結果ヲ見ルニ至ル

ナラント思考ス。蓋シ彼ノ無神論ナルモノハ唯物論ノ結果ナリ。吾輩若
 シ此萬有現象ニ就ヒテ徒ニ物理的ノ解釋ヲ下スルハ。天地間只物質ア
 ルノミ。勢力アルノミ。運動アルノミ。而シテ其說無神ニ陥ルハ言ヲ待タ
 ザルナリ。然レモ少シシ心理的ノ解釋ヲ雜ユルハ。決シテ無神ナラズ。
 且ツ人間ノ體軀ナルモノハ塊然タル物質ノ分體ニ過ギズシテ有限的
 ナリト雖モ。其精神ニシテ知覺アル他ノ高尚ナル部分ハ。此分體ヲ破リ
 テ宇宙ノ全體ト接シ。彼ノ萬物ヲ以テ一大鏡面トシ。其法則秩序統系ノ
 關係ヲ繹ルガ如キ。自己理性ノ無限作用ヲ發達スルニアラザルハナシ。
 又タ彼ノ家族ヲ愛シ。國民ヲ愛シ。天下ヲ愛スルガ如キ。此レ亦タ彼我ノ
 別ヲ消滅スルモノニシテ。自己感情ノ無限作用ヲ發達スルニアラザル
 ハナシ。然ラバ。則チ知ト有ト理想ト現實ト觀念ト經驗トハ。吾輩ガ今日
 ニ於テ。未ダ一致セシムル能ハザル所ナリト雖モ。人間ハ實ニ無限的ノ

命運ヲ有スルモノト謂ハザルヲ得ズ。此ニ由リテ之ヲ觀レバ無宗教ハ人間ノ天性ニアラズ無神論ハ完全ナル萬有ノ解釋ニアラズ左テハ吾輩ハ彼ノ方今米國ニ於テ耶蘇教ノ一大勁敵ニシテ無神論ノ大天使ヲルインガーソル氏ニ質サン。氏曰ク彼ノ幽靈(上帝)ヲシテ此世界外ニ驅逐セシメヨ。彼レ去ルモ我兄弟姉妹ハ猶ホ依然トシテ去ラザルナリ。彼レ去ルモ山嶽河海ハ猶ホ依然トシテ去ラザルナリ。彼レ去ルモ自然ノ美景四時ノ佳興ハ猶ホ依然トシテ去ラザルナリ。彼レ去ルモ清亮哀雅ナル聲ヲ發シテ吾人ノ望ト愛ト和奏スルノ音樂ハ猶ホ依然トシテ去ラザルナリ。蓋シ人性ハ大海ノ如ク信仰ヤ書籍ヤ宗教ハ其上ニ現ズル瞬間ノ波瀾タルニ過ギズト而シテ知ラズ此大海ノ深濶ナルヲ知ラシムルモノハ何ゾヤ。氏亦タ曰ク奴隸恐怖愚昧ヲ以テ基礎トスルノ宗教ハ顛覆ス可シ將來ノ宗教ハ必ズ之レヨリモ一層

高尙ニ一層温和ナラント而シテ知ラズ此將來ノ宗教ナルモノハ何ゾヤ。

第十章 佛教ノ振興

吾輩ハ宗教ノ性質ヲ分析シテ自然教顯示教ノ二大要素アルヲ發明シ。自然教ハ宗教自然ノ進化法ニ從ツテ凡神教ニ進マザル可ラズ。顯示教ハ開明時代ノ信仰ニ適スルノ理證ヲ有スルノ宗教コソ真理ニ合スル純全ナル宗教ナル可キヲ發明シ而シテ此ノ如キ性質ヲ有スルハ宗教ハ則チ我カ佛教ナルヲ發明シタリ。然レ此レ吾輩ガ宗教ノ性質ヲ考ヘ其真理ヲ推シテ發明シタル一個ノ理論タルニ過ギザル而已。然ルニ進ンテ文明世界ノ理學哲學文學技術道德習慣法律政治其他凡ソ宗教思想ノ人心上ニ現ハレ社會上ニ現ハルモノヲ觀察シタレバ宗教進化ノ大法ハ既ニ一神教ノ時代ヲ去リテ凡神教ノ時代ニ達シタ

ルヲ發明シタリ。依リテ又タ耶蘇教ノ大勢ヲ察スレバ。果シテ人心上社
 會上ノ信仰モ背馳スル所アルヲ以テ。道途衰頽ノ運ニ就カントスルノ
 事實アルヲ發明シタリ。然ラバ則チ吾輩ノ理論ハ事實既ニ之レガ證明
 ナシタリ。吾輩更ニ喋々辨解ヲ費スチ要セザルモノアラン。而シテ更
 ニ吾輩理論ノ價值ヲ證セント欲セバ。聊カ輓近歐米ニ於テ俄然トシテ
 佛○教○ガ○振○興○セ○ン○ト○ス○ル○ノ○事○實○ヲ○モ○示○サ○マ○ル○可○ラ○ズ○何○ト○ナ○レ○ハ○眞○理○ニ
 合スル純全ナル宗教ニシテ將來世界ノ信仰ヲ支配ス可クンバ。未ダ佛
 教ノ如ク眞理ニ合スル純全ナル宗教アラザレバナリ。
 彼ノ佛國文學ヲ泰斗タルヴィクトルヒューゴ云ハズヤ。吾人ガ遭遇シ
 タル第十九世紀ハ前世紀ヨリモ至大ナル世紀ナリ。現世紀ハニ實佛國大
 革命ヨリ流れ出アタルモノナリ。現世紀ハ實ニ奴隸ヲ釋キ。刑罰ヲ寬ニ
 シ。海賊ヲ驅リ。戰爭ヲ賤メ。婦人ノ地位ヲ進メ。貴族ノ利ヲ以テ平民ノ利

トナシ。強者ノ權ヲ以テ義者ノ權トナシ。藝文ヲ言ヘバ。著述家。雄辨家。彫
 刻家。音樂家。各其輝光ヲ發シ。天才ヲ振ヒ。尊大。優美。勢力。光彩。深遠。葩麗。姿
 態具サニ備リテ。缺ルコトナシ。理ト實トチ兼併スルノ觀アリ。美ト眞トチ
 保合スルノ妙アリ。學術ヲ言ヘバ。蒸氣ヲ驅リテ。牛馬トナシ。電氣ヲ走ラ
 シメテ。脚夫トナシ。大陽ヲ僱フテ。荷工トナシ。無量大ナル星辰世界ヲ窺
 フニハ。望遠鏡アリ。無量小ナル虫豸世界ヲ窺フニハ。顯微鏡アリ。空間モ
 時間モ禍害モ。盡ク文明ノ權威ヲ以テ之レヲ制服セザルハナシト。實ニ
 然リ。而シテ今ヤ。此第十九世紀ガ漸ク老ヒテ。舞臺ヲ謝シ去ラントスル
 ニ臨ンデ。茲ニ亦一大現象ヲ呈シタリ。此レ他ニアラス。文明世界ニ於
 テ。佛○教○ハ○振○興○是○也。
 抑○モ○佛○教○ト○ハ○何○ゾ○ヤ○即○チ○眞○理○ニ○合○ス○ル○純○全○ナル○宗○教○ナ○リ○亦○タ○野○蠻○未
 開。妄想。卑屈。停滯。腐敗ノ宗教ナリ。蓋シ現時東洋各國民ハ其體力ヲ以テ

ナルモ其智力ヲ以テスルモ其道德ヲ以テスルモ其社會ヲ以テスルモ到底歐米ニ匹敵スルヲ得ルモノニアラズ故ニ其宗教ハ獨リ真理ニ適スル純全ナル宗教ナリト雖モ之レヲ理會スルノ智力ナシ亦之レヲ實行スルノ精神ナシ故ニ其名稱ハ佛教信徒ナリト雖モ其實彼等ガ尊奉スル佛教ナルモノハ一種變相的ノ佛教ニシテ所謂野蠻未開妄想卑屈停滯腐敗ノ宗教タルヲ免レズ然レモ今ヤ佛教ガ真正ノ輝光ヲ放テ真正ノ感化ヲ及ボシ全世界ニ翱翔シテ博愛ノ旗ヲ揮フ可キハ一大氣運ハ既ニ到達シタリ蓋シ古ヨリ真理ノ發スル所ハ必ズシモ堂々タル文明富強ノ大邦ニアラズ彼ノ雅典國民ヲ觀ヨ實ニ海岸ニ瀕スル區々タル掌大ノ一小市區ニ過ギズト雖モ其文學哲學ノ赫々タル輝光ハ普ク文明世界ヲ照ラシテ其智識ヲ支配シ其思想ヲ陶冶シ兵力ヲ以テ羅馬ニ制服セラレタルモ却ツテ智力ヲ以テ羅馬ヲ制服シ萬邦學藝ノ

淵藪タル名譽ヲ博セシニアラズヤ彼ノ猶太國民ヲ觀ヨ彼レハ耶和華ノ選民タルモ人間世界ノ最モ不幸ナル國民ナリ文學哲學ノ觀ル可キモノアルニアラズ社會政法ノ誇ル可キモノニアラズ遂ニ他邦ノ擒虜トナリ奴隸トナリテ其獨立不羈ノ體面スラ全フスル能ハズ然レモ現時ニ至ル迄殆ンド文明世界ノ信仰ヲ支配シタル一大宗教ハ此ノ國民ヨリ發達シタルニアラズヤ然ラバ則チ今日佛教ノ東洋ヨリ起リテ文明世界ノ宗教タラントスル亦ク豈ニ怪ムニ足ランヤ然ラバ則チ佛教ノ歐米ニ於ケル運動ハ如何吾輩未ダ之レヲ稱シテ運動ト言フ能ハズ只之ヲ指シテ發動ト言ハントス而シテ此發動ノ最モ著明ナル代表タルモノハ彼ノ神智學會ナリ此神智學會ノ代表者タルモノハ彼ノコロチルナルゴット氏其人ナリ蓋シ氏ガ一朝大ニ佛教ノ真理ニ感ズル所アリテ直チニ大平洋ヲ航シ印度ニ來リテ神智學會ヲ

設立シタルハ。未ダ僅々數年ノ久チ經過セズト雖モ其既ニ耶蘇教ニ改宗シタル印度人民チシテ佛教ニ歸順セシメタルヲハ。既ニ貳百萬人以上ニ超過シ。其歐米ノ兩大陸ハ固ヨリ論ナク亞洲濠洲ノ僻遠遐陬ニ至ル迄神智學會ノ支部チ設立シタルヲ既ニ貳百有余ニ超過シ。歐米ニ於テ純然タル佛教新聞チ發刊スルヲ既ニ數個ニ達シ。其他眞理ノ光既ニ文明世界チ透射シタル彰著ナル一例チ舉レバ。英京倫敦ニ於テ既ニ佛教出版會社チ起スモノアリ。米國ボストンニ於テ既ニ佛教ノ運動チ生セントスルモノアリ。麒麟チ雷キ鳳凰チ繼スルノ文字チ以テ佛陀ノ神聖ナル傳記チ著ハシテ。數十萬部チ刊布スルモノアリ。此レ皆チ數年ノ間ニ發表シタルノ現象ニシテ。今後若シ此割合チ以テ進歩シダランニハ。吾輩チシテ佛教ノ前途ニ希望チ措カンムル決シテ淺鮮ナリトセズ。之ヲ要スルニ。政治ニアレ。道德ニアレ。哲學ニアレ。宗教ニアレ。凡新主義ノ

天下ニ起ル過去ト現在トニ對シテハ。必ズ改革的ノ精神チ現ハシ。將來ニ對シテハ。必ズ豫言的ノ精神チ現ハス。トハ必然ハ勢ニシテ。此精神チハ。新主義ノ價值チ見ル能ハズ。現時佛教ノ歐米ニ起ル實ニ亦タ此精神チ以テ來ルモノナリ。吾輩既ニナルゴツト氏チ以テ新宗教ノ代表者トナシダレバ。今マ當サニ氏ガ言チ以テ。新宗教ノ精神チ示メス可シ。試ニ卿等印度人民ノ眸チ轉シテ。泰西世界ノ全面チハ精細ニ觀察セヨ。彼ノ各國間ニ生ズル競争ハ獨リ商業チ擴張センガ爲メニアラズ。亦タ宗教上ノ大問題チ斷定センガ爲メナリ。彼ノ米國チ見ヨ。其耶蘇教ハ分裂シテ無數ノ宗派トナリ。理學ハ公衆チ教會ヨリ驅逐シテ。唯物主義虛無主義ノ漠々タル曠野ニ彷徨セシメ。其僧侶ハ日ニ權力チ失スルニアラズヤ。彼ノ英國チ見ヨ。國教廢棄ノ問題ハ愈々氣餒チ生シ。愛蘭土モ亦タ漸ク國教チ廢シ。彼ノブラドローハ

日曜毎ニ倫敦ノ市街ニ大膽ナル無神論ノ說法ヲナスニアラズヤ。彼ノ佛國ヲ見ヨ。其政治上ノ革命一タビ中原ノ鹿ヲ共和黨ニ與ハテヨリ。彼ノ「ゼスユイト」ハマクマホンノ後ニ屏息スルニアラズヤ。彼ノ日耳曼ヲ見ヨ。既ニ羅馬法王ト喧嘩ヲ起シ。教會僧侶ノ特權ヲ廢シタルニアラズヤ。彼ノ魯西亞ヲ見ヨ。盛無黨派ノ鮮血手段ハ國家ト教會トヲ恐嚇シタルニアラズヤ。其他何クニ往クトシテ學術ト神學ノ猛烈ナル爭鬪ヲ目撃セザランヤ。

而シテ博士ウヰルリヤムドレーパー氏ハ最モ雄辨ニ此爭鬪ヲ叙シ來リ。此爭鬪ハ印刷術ノ發明ト共ニ創始シ。其進步ハ百戰百勝。遂ニ學術ニ歸シ。學術ハ人類ノ無量ナル恩惠者トナリテ萬國ノ交通ヲ便利シ。自然ノ利源ヲ發達シ。福祉ヲ進メ。改良ヲ促ガシ。社會ノ最下級ニ教育ヲ與ヘタリト稱贊シタリ。往キニ印度ガ他ノ東洋國民

ト共ニ此新文明ノ恩澤ニ浴セザリシハ。世界大勢ノ時務ヲ識ラザルヲ以テナリ。而シテ今ヤ卿等ハ既ニ泰西ノ理學文學ヲ學習スト雖モ。未ダ之レヲ實際ニ適用スルニ及バズ。此レ卿等ノ眠未ダ醒メザル所以ナリ。嗚呼海潮ハ一進一退シテ須臾クモ其止ムヲ見ズ。蓋シ盛衰消長ハ事物自然ノ法則ナリ。來ルモノハ斯ニ往カザルヲ得ズ。眠ルモノハ斯ニ醒メザルヲ得ズ。願フニアルヤハルタ(北印度ノ古名)ノ身體ハ眠ルト雖モ。其精神ハ猶ホ生活スルモノナレバ。必ズ復タ其輝光ヲ放ツナラン。必ズ復タ其繁昌ヲ恢復スルナラン。而シテ再タビ古代智慧ノ燭ヲ點シ。其宗教ト學術トヲ以テ泰西世界ニ教フルニ至ルハ。此レ亦必然ナラン。(右千八百七十九年五月廿三日。孟賣ニ於テ演說)

此レ豈ニ新宗教ガ一方ニ於テハ耶蘇教ノ衰頽ヲ嘆シ。一方ニ於テハ學

術ト一致聯合シテ大ニ天下ニ起ラントスルモノニアラズヤ。

第十九世紀ノ下半年期ニ於テ文明世界ハ果シテ如何ナル進歩ヲナシタルカ其進歩ハ果シテ人性ヲシテ完全ノ點ニ向ハシメタルカ果シテ卿等ノ先祖ヨリモ卿等ヲシテ純潔高尚ナラシメタルカ若シ智識ノ進歩ヲ以テ進歩トスルカ方今理學ノ智識ハ真正ナル智識ニ進マントスルハ着歩ニシテ而カモ此ニ止ラハ邪惡ナル結果ヲ生ズルニ過ギザルナリ其營々トシテ活動スルモノハ空シク徒勞ニ歸シテ精神ヲ惱マスニ過ギザルナリ抑モ理學ガ生シタル文明トハ何グヤ精銳ナル兵器ヲ作りテ巧ニ人ヲ殺スニアルカ阿片火酒ノ消費ヲ獎勵シテ利ヲ貪ルニアル乎廉價ナル衣食ヲ拵ヘテ買客ノ眼ヲ眩惑スル乎輕薄欺詐ノ風ヲ增長シテ其仲間ノ信用ヲ減ズルニアル乎直覺ノ能力ヲ撲滅シ宗教ノ感情ヲ破壊スルニア

ル乎此等ヲ以テ文明トセバ此下半年期ハ誠ニ驚ク可キノ長足進歩ヲナシタリト謂ハザルヲ得ズ然レモ真正ナル道德家ハ却ツテ之ヲ以テ文明ノ進歩ニアラズシテ退歩ナリトスルナラン確實ナル判斷力ヲ具フルモノハ却ツテ之ヲ以テ古昔印度ノ高尚ナル開明ニ比スレバ可憐ノ有様ナリトスルナラン夫レ進歩トハ關係的ノ名詞ナリ故ニ一ノ人民ニシテ驚ク可キノ進歩トスルモ他ノ人民ヨリシテ之ヲ見ルハ驚クニ足ラザルモノアリ左レバ余ハ此進歩ナル名稱ヲ以テ智德共ニ最高ノ域ニ達シ其一個人ノ權理人民全體ノ福祉善ク平等ニ發達シタルノ國民ニ適用セント欲ス余ハ彼ノ英米二國ノ人民カ五時間ヲ以テ宗教及ビ世俗ノ教育ニ費スモ亦タ其五時間ヲ以テ酒精ヲ飲ムヲ見レバ文明進歩ノ名稱ヲ與フル能ハズ況ンヤ彼ノ阿片火酒ヨリ生ズル歲入ヲ以テ國

力ヲ培養シ。經濟學及道德宗教ノ原則ヲ犯シ腕力ヲ以テ他ノ國
 民ヲ侵掠攘奪スルガ如キニ至リテハ之レヲ以テ野蠻ノ最モ甚キ
 モノナリトセザルヲ得ズ。嗚呼印度錫蘭ノ朋友ヨ。卿等青年ハ一方
 ニ於テハ近世ノ賜ニ係ル實利ヲ採リ。一方ニ於テハ古代ヨリ傳來
 スル宗教ヲ保テヨ。此レ豈ニ印度國民ガ需要ス可キノ文明ニアラ
 ズヤ。ソレ古今ヲ極メ萬世ニ亘リテ變ズ可ラザルノ真理ハ。卿等ガ
 特有財産ナリ。彼ノ基督ガ教フル所ハ善且美ナラザルニアラズ。然
 レモ基督ガ教フル所ノモノハ基督ノ前ニ既ニ之レヲ教フルモノ
 ナリ。余ハ又タ道德ノ法言ヲ以テ文明ノ程度ヲ測ルモノニアラズ。
 乃チ此ヲ實行スルノ程度ヲ以テ之レヲ測ラントスルナリ。左レハ
 基督教國ガ道德ノ法言タル善且美ナラザルニアラズト雖モ。奈何
 セン。其實際ニ至リテハクルツプアルノミ。アトハストロングアル

ハ。ミ。粒。彈。銃。アル。ハ。ミ。阿。片。舶。アル。ハ。ミ。詭。辨。的。ノ。商。賣。アル。ハ。ミ。鄙。猥
 的。ノ。游。戲。アル。ハ。ミ。不。正。的。ノ。政。治。アル。ハ。ミ。故。ニ。余。ハ。基。督。教。國。ヲ。指
 シ。テ。其。德。義。ハ。腐。敗。シ。其。元。氣。ハ。消。亡。シ。タ。ル。ト。云。ハ。ン。ト。ス。耶。蘇。宣。教
 師。等。若。シ。余。ノ。言。フ。所。ヲ。以。テ。然。ラ。ズ。ト。セ。バ。卿。等。躬。ラ。乞。フ。彼。ノ。基。督
 教。國。ニ。往。ヒ。テ。之。レ。ヲ。觀。ヨ。若。シ。往。ク。テ。能。ハ。ザ。レ。バ。其。適。當。ノ。書。ヲ。得
 テ。之。レ。ヲ。讀。メ。必。ズ。余。ガ。言。フ。欺。カ。ザ。ル。ヲ。知。ル。ニ。足。ラン。彼。ノ。進。步。女
 神。ガ。妖。嬌。タル。形。貌。ハ。假。面。ノ。ミ。其。内。裡。ハ。必。ズ。既。ニ。腐。敗。ス。ル。モ。ハ。ア
 ラ。ン。此。ニ。於。テ。余。ハ。切。望。ス。卿。等。ハ。學。者。ト。ナ。ラン。ヨ。リ。モ。寧。ロ。善。人。ト
 ナ。レ。富。チ。貪。ラ。ン。ヨ。リ。モ。寧。ロ。其。心。ヲ。潔。白。ナ。ラ。シ。メ。ヨ。惡。ニ。耽。ル。ノ。紳
 士。ト。ナ。リ。テ。智。者。ト。稱。セ。ラ。レ。ン。ヨ。リ。モ。寧。ロ。德。ヲ。抱。ク。農。夫。ト。ナ。リ。テ
 愚。者。ト。稱。セ。ラ。レ。ヨ。進。步。ト。文。明。ト。ナ。リ。テ。揚。々。自。得。ス。ル。歐。羅。巴。人。ト。ナ
 リ。テ。眞。正。ノ。福。祉。眞。正。ノ。進。步。ニ。臻。ラ。シ。ム。ル。所。ノ。法。則。ヲ。蹂。躪。セ。ン。ヨ

リ、モ、寧、ロ、依、然、タ、ル、古、代、聖、賢、ノ、道、徳、ヲ、實、行、ス、ル、ハ、印、度、國、民、タ、レ、ヨ、
 (千八百八十一年九月廿二日、コリントニ於テ演説)
 此レ豈ニ耶蘇教ガ既ニ信仰ヲ失シ基督教國ヲ感化スルノ勢力ナキヲ
 以テ新宗教ガ一層博大ナル眞理、一層高尚ナル道徳ヲ以テ宗教ノ新天
 地ヲ開拓セントスルモノアラズヤ、

余ハ恒ニ歐洲ノ學識アル人士ニ向ツテ余ノ愚見ヲ開陳セント欲
 ス、然ルニ今ヤ此ニ臨席セラレタル諸賢ハ、英國理學、技術、文學、外交、
 社會ヲ代表スルノ諸賢ナレバ、余ノ光榮實ニ大ナリ、余ハ實ニ今日
 ナリ以テ我が神智學會ノ新時代トセント欲ス、今ヤ歐洲ニ於テ唯物
 主義、實理主義、非宗教主義、不可思議主義ガ耶蘇教ニ反對スルノ論
 鋒ハ、甚ダ銳利ニシテ其勢宗教ノ感情ヲ撲滅シ、精神ノ感化ヲ顛覆
 スルニアラザレバ殆ンド止マザルガ如シ、而シテ耶蘇神學ノ脆弱

ナル、固ヨリ生物論者進化論者ノ堅甲利兵ニ敵スル能ハズ、彼ノ自
 由思想ノ徒ハダ、ル、ヴ、ヰ、イン、パ、ツ、ク、ス、リ、ヘ、ツ、ケ、ル、ミ、ル、シ、リ、フ、ホ、ル
 ドリ、ユ、ニ、ス、グ、レ、グ、ノ、麾下ニ集リテ鼓ヲ鳴ラシ戰歌ヲ唱ヘ、往時耶
 蘇教ガ異教ヲ亡ボシ其殿堂ヲ以テ教會トナシタルガ如ク、プラト
 プラズムト云ヘル新神ノ殿堂ヲ築カント欲ス、此レ實ニ人類思想
 ノ一大變化ナリ、然レモ此ノ如ク舊信仰ノ枯死スルト同時ニ新信
 仰ノ種子ハ既ニ萌芽ヲ發シタリ、即チ方今ノ一大問題ハ無神論ヲ
 ラン乎、神智學ヲラン乎、ニツク、ア、ラ、ン、ノ、ミ、蓋、シ、今、日、ニ、方、リ、テ、天、下
 宗○教○ノ○一○大○基○礎○タ、ル、モ、ハ、復、タ、神、智、學、ノ、外、ニ、求、ム、可、ラ、ズ、此、一、大
 基○礎○ニ、築、カ、ザ、ル、ノ、宗、教、ハ、實、ニ、空、中、樓、閣、ナ、リ、ト、謂、ハ、ザ、ル、ヲ、得、ズ、耶
 蘇教徒ハ云ハン、「バイブル」ハ神命ナリ、猶太人ハ云ハン、摩西ノ律法
 ハ上帝ノ躬ヲ授ケシモノナリ、印度人ハ云ハン、韋陀聖經ハ眞理ナ

リト。然レモ彼ノ懷疑不信ノ徒ハ、實驗ヲ以テ之ヲ示スニアラザレ
 バ決シテ此言ヲ信セザルナリ。而シテ實驗ヲ以テ之ヲ示スモノハ、
 我が神智學ノ目的トスル所ナリ。即チ吾輩神智學會ノ創立者ハ、此
 堅牢不拔ナル基礎ニ據リテ天下批評ノ風潮ニ當ラント欲ス。今ヤ
 本會ノ事業ハ既ニ兩亞歐米濠洲ニ擴張シ、日ニ新支會ノ設立ヲ見
 ルニ至ル。而シテ吾輩ノ目的トスル所ハ色ノ黑白ヲ論セズ。信仰ノ
 同異ヲ問ハズ。萬民同胞ノ友愛ヲ通シ、東洋古代ノ宗教、哲學、理學ヲ
 講究シテ萬有ノ秘奧ナル法則ヲ發明シ、人間ノ高尚ナル能力ヲ發
 達スルニ外ナラズ。是ヲ以テ本會創設以來、未ダ七年ヲ經過セザル
 ニ印度、シンハラ、ス、青年ハ翕然トシテ本會ニ同盟シ、相共ニ正義
 博愛眞理ヲ以テ團結シ、泰西懷疑ノ學風ヲシテ漸ク勢力ヲ失セシ
 メ、本會ノ氣運ハ駸々トシテ旭日ノ如ク、今ヤ其運動ハ遠ク米國ニ

波及シ、茲ニ中央本部ヲ組織シ一ハ紐育ノ勢力アル新聞記者一ハ
 學術ノ名譽アル學校教授相携ヘテ大西洋ヲ航シ、本會ニ來リテ米
 國將來ノ運動ヲ計畫セリ。而シテ余ハ此レヨリ直チニ日耳曼ニ向
 ツテ發程シ、彼ノ狐逸思想ノ深廣ナル大洋ニ聊カ神智學ノ一葉ヲ
 泛ヘント欲スルナリ。千八百八十四年七月廿一日倫敦ニ於テ演說
 抑モナルゴット氏ガ數年前、其郷土米國ヨリ始メテ錫蘭ニ到ルヤ、其大
 守ハ氏ヲ迎ヘ之ニ語りテ曰ク、君ガ來ル實ニ晩シ、今ヤ佛教ハ既ニ死セ
 リ。君如何ニ盡力スト。雖モ徒ニ勞シテ其益ナカラシト。蓋シ此時ニ
 方リテ東洋佛教ノ淵藪タル錫蘭モ、耶蘇教ノ爲メニ蹂躪セラレ、殆ンド
 死灰冷燼ノ有様ナリキ。然レモ氏ガ卓然タル炯眼ハ、早ク既ニ第十九世
 紀宗教進化ノ一大氣運ヲ看破スルノ識見ヲ有シタリ。豈ニ區々タル眼
 前ノ現象ニ眩惑セラレテ落膽失望センヤ。此ニ於テ一身ヲ抛テ佛教

恢復ノ犧牲ニ供シ、風雨ヲ避ケズ、寒暑ヲ厭ハズ、英國官吏ノ冷遇ヲモ願
 ミズ、耶蘇教宣教師ノ娼嫉ヲモ怖レズ、山野ニ暴露シ、四方ニ奔走シ、至誠
 熱心ニ佛教ノ真理ヲ説キシカバ、印度國民ノ佛教ニ歸向スルモノ、恰モ
 水ノ卑ニ就クガ如ク、僅ニ數年ノ久ヲ出デズシテ、既ニ二百五十萬人ノ信
 徒ヲ得タリ、此ニ於テ氏ハ印度ヲ以テ新宗教運動ノ中心トシ、歐米各國
 ニ向ツテ其教ヲ擴張スルヲ以テ自ラ任ヲ今ヤ、又タスマンガラ僧正ヨ
 リ、佛教教會ヲ全世界ニ創立スルノ全權ヲ委託セラレタレバ、氏ガ將來
 佛教ニ於ケルノ運動ハ、殆ンド測ル可ラズ、然リト雖モ、此レ豈ニ獨リ氏
 ガ一人ノ力ナランヤ、宗教進化ノ大勢氏ヲ驅リテ運動セシムルニアラ
 ザレバ、固ヨリ此ニ至ラザルナリ、左レバ近日歐米ノ宗教ニ關スル新聞
 雜誌若クハ其紳士貴女ガ、我が西京ト通信スル所ヲ見ルニ、一ツトシテ
 佛教ノ爲メニ前途萬里遙々トシテ大ニ望ミアルノ好報ニアラザルハ

ナシ、試ニ其一例ヲ舉レバ、紐育サン新聞ハ則チ合衆國ニ於テハ佛教ヲ
 信ズルモノ甚ダ多シ、殊ニボストン府ニ於テ東方宗教(佛教)ハ既ニ其立
 脚ノ地ヲ得タリト云ヒ、同國「カンサス」新聞ハ則チ我國人ヲ彼等ガ佛教
 者トナス多ク且ツ速カナルヲ覺フ、尙ホ佛教ヲ信ズルモノハ、大概我々
 ハ最上ノ學者若クハ教育アル上位ノ人民ナリト云ヒ、同國「ウヰンステ
 ヲ」トプレス「新聞」ハ則チ亞細亞ニ於ケル基督宣教師ハ多クノ資金ト大
 ナル勞力トヲ以テ、幾多ノ歲月ヲ費シ、漸ク僦々ノ愚民ヲ改宗セシメタ
 ルノミ、而シテ佛教ハ傳道會社ヲ設ケズ、或ル他ノ威力ヲ借ラズシテ
 既ニ國內數千ノ人民ヲ感化ス、多クハ是レ博識智慮アル有力者ナリ、其
 數ハ益々多ク加ヘ、其信仰ハ他ノ遙ニ及バザル所ナリ、然ルニ人民中自
 ラ其思想ノ佛教線内ニ漸入シ、靡然佛教的ノ信仰ニ赴ヒテ自ラ知ラザ
 ルモノニ至リテハ甚ダ多シト云ヒ、同國佛光新聞ハ則チ北米合衆國ノ

人、民、ニ、シ、テ、苟、モ、獨、立、ノ、思、想、ヲ、有、シ、正、理、ヲ、愛、シ、佛、教、ノ、書、籍、ヲ、讀、見、シ、タ
 ル、モ、ハ、皆、ナ、其、法、ヲ、奉、信、セ、リ、然、レ、モ、信、仰、條、目、ニ、束、縛、セ、ラ、レ、タ、ル、基、督
 教、派、ノ、敵、對、ア、ル、ガ、爲、メ、ニ、其、信、ズ、ル、所、ヲ、公、ニ、ス、ル、能、ハ、ズ、ト、云、ヒ、紐、育、神
 智、學、會、員、ウ、キ、リ、ア、ム、ヂ、ヤ、ツ、ヂ、氏、ノ、書、信、ニ、ハ、則、チ、我、ガ、人、民、ニ、シ、テ、果、シ
 テ、佛、教、ヲ、講、究、ス、ル、ニ、至、レ、バ、我、ガ、開、明、ノ、上、ニ、戴、ク、可、キ、榮、光、ハ、即、チ、此、宗
 教、ナ、ル、ヲ、發、明、ス、ル、ニ、至、ラ、ン、ト、云、ヒ、蘇、格、蘭、エ、ヂ、イ、ス、シ、ヨ、ン、ス、ト、ン、嬢、ノ
 書、信、ニ、ハ、則、チ、妾、ハ、神、智、學、ヲ、研、究、シ、衆、多、ノ、宗、教、ヲ、講、習、シ、テ、真、理、ヲ、探、究
 シ、佛、教、ニ、於、テ、真、理、ノ、存、ス、ル、ヲ、發、見、シ、タ、リ、ト、云、ヒ、印、度、ド、ン、ダ、ビ、ッ、ド
 氏、ノ、書、信、ニ、ハ、則、チ、今、ヤ、我、ガ、佛、教、ノ、教、義、ハ、歐、米、諸、國、ノ、注、意、ヲ、屬、ス、ル、所
 ト、ナ、リ、幾、萬、ノ、人、民、ハ、既、ニ、我、ガ、美、麗、ナ、ル、真、理、ヲ、了、解、ス、ル、ノ、針、路、ニ、導、レ
 居、レ、リ、ト、云、ヒ、米、國、エ、リ、オ、ト、ビ、ー、ペ、ー、氏、ノ、書、信、ニ、ハ、則、チ、米、國、佛、教、ノ
 有、様、ニ、就、キ、余、ノ、見、聞、ス、ル、所、ニ、テ、ハ、現、今、我、ガ、國、人、ヲ、佛、教、會、ニ、入、會、セ

レ、ム、ル、ニ、適、當、ナ、ル、教、師、之、レ、ナ、キ、ガ、爲、メ、ニ、真、正、ノ、佛、教、徒、タ、ル、ハ、誠、ニ、少
 數、ナ、リ、然、レ、モ、釋、尊、ニ、敬、禮、ヲ、表、シ、其、教、義、ヲ、尊、重、ス、ル、モ、ハ、甚、ダ、多、シ、ト
 云、ヒ、英、國、ア、ー、ラ、ン、デ、ル、嬢、ノ、書、信、ニ、ハ、則、チ、最、モ、驚、ク、ベ、キ、モ、ハ、近、來、歐
 洲、各、國、人、ガ、相、率、ヒ、テ、新、宗、教、佛、教、ニ、傾、向、ス、ル、ハ、一、事、ナ、リ、ト、云、ヒ、米、國、カ
 ー、ル、カ、ツ、ソ、ウ、會、社、ノ、書、信、ニ、ハ、則、チ、現、今、基、督、教、ノ、衰、頹、迅、速、ニ、シ、テ、佛、教
 盛、ン、ニ、興、起、セ、リ、將、來、我、邦、ハ、佛、教、ノ、美、田、ト、ナ、ラ、ン、ト、云、フ、嗚、呼、世、人、ハ、之
 ヲ、以、テ、怪、訝、ス、可、キ、ノ、現、象、ト、ス、ル、カ、誠、ニ、然、リ、唯、吾、輩、ハ、既、ニ、宗、教、進、化、ノ
 大、法、ヲ、推、究、シ、テ、此、怪、訝、ス、可、キ、現、象、ノ、源、因、ヲ、發、見、シ、タ、レ、バ、亦、タ、其、怪、訝
 ス、可、キ、ノ、現、象、ナ、ル、ヲ、見、ザ、ル、ナ、リ、

宗教革命ノ結局ヲ論ズ

第十一章 我邦ト佛教ノ關係

耶蘇教ヲ輸入セン乎佛教ヲ改革セン乎ノ一大問題ハ實ニ我邦將來命運ノ要部ヲ占ムルノ問題ナルヲ以テ我邦人ハ獨リ哲學家トシテ此問題ヲ解釋ス可ラズ亦タ實務家トシテ此問題ヲ解釋セザル可ラズ。蓋シ宗教ナルモノハ哲學トシテ論ズレバ實ニ遠大深奥ナル哲學ナリ。理想トシテ論ズレバ實ニ高尚美麗ナル理想ナリ。然レモ此哲學タル天上ニ奏スル微妙ナル音樂タルニ止ラザルナリ。此理想タル人類萬里ノ前途ヲ照ラスノ燈火タルニ止ラザルナリ。即チ此問題ハ實際ト云ヘバ之レヨリ實際ナル問題ハアラズ。適切ト言ヘバ之レヨリ適切ナル問題ハアラズ。吾輩如何ニシテ笑ハンカ如何ニシテ泣カンカ如何ニシテ生センカ如何ニシテ死センカ如何ニシテ各個人タラシク如何ニシテ家

族タラシク如何ニシテ國家ノ臣民タラシク此レ皆チ宗教ナル最大問題ノ一小部分ニアラザルハナシ。彼ノ鶏ヲ聞テ起キ星ヲ戴テ歸ルノ貧寒ナル勞力社會ト雖モ其卑近ナル職業ニ自ラ高尚ナル義務ヲ寓シ。勤勞ヲ以テ祈禱トナシ茅屋ノ下ニ家族團樂ノ樂殆ンド天國ノ小摸範ヲナスガ如キ。彼ノ政黨ノ首領ガ聲ヲ伺ヒ虛ヲ擣キ龍鬪虎戰ヲ挑ンデ互ニ仇敵ノ如クナルモ其心事ニ至リテハ堂々トシテ青天白日ノ如ク。又チ其王室ニ忠シ國家ヲ愛スルノ丹誠ニ至リテハ互ニ同胞モ畜ノミナラザルガ如キ。彼ノ家ニ在リテハ清白ナル處女タリ。既ニ嫁シテハ良妻タリ。賢母タリ。婉婉温順ノ中ニ於テ一點凜然トシテ犯ス可ラザルノ義氣ヲ有シ。暗々ノ裡ニ非常ナル勢力ノ源ヲナスガ如キ。彼ノ德育ヲ以テ智育體育ノ精神トシ。俯仰天地ニ愧ヂス。社會ト眞理ノ爲メニハ一身ヲ犠牲ニスルノ健兒ヲ薰陶シ。前途國家ノ健全ナル繼續者ヲ生ズルガ如キ。

若クハ護國ノ爲メニハ。劍銃ヲ荷ヒ。千軍萬馬ノ際ニ出入シテ。死ヲ視ル
 一歸スルガ如キノ。兵卒ヲ出スガ如キ。孰レカー。トシテ。靈魂ノ遠大高
 尙ナル。感化ヨリ來ラザランヤ。之ヲ約言スレバ。各個人ニ在リテ。其生命
 タリ。社會ニ在リテ。其元氣タルモノハ。宗教ナリ。而シテ無宗教ノ人物ニ
 ハ。真正ノ德義ハ存セザルナリ。無宗教ノ社會ニハ。真正ノ進歩ハ存セザ
 ルナリ。無宗教ノ國民ニハ。真正ノ愛國ハ存セザルナリ。無宗教ノ兵卒ニ
 ハ。真正ノ勇氣ハ存セザルナリ。無宗教ノ教育ニハ。真正ノ感化ハ存セザ
 ルナリ。無宗教ノ智識ニハ。真正ノ眞理ハ存セザルナリ。無宗教ノ學術ハ
 真正ノ學術ニアラザルナリ。無宗教ノ美術ハ。真正ノ美術ニアラザルナ
 リ。故ニ之ヲ約言スレバ。宗教ハ各個人ニ在リテハ。其生命ナリ。社會ニ在
 リテハ。元氣ナリ。
 吾輩ガ所見ヲ以テスレバ。歐米ノ文明ハ。宗教的ノ文明ナルヲ信ズ。否少

ク。トモ。宗教的ノ精神ニ。胚胎スルノ文明ノ文明ナルヲ信ズ。試ニ看ズヤ。
 彼レ社會ノ進歩トスル所ハ。自由平等博愛ノ三大主義ヲ以テ理想トシ。
 彼レ教育ノ目的トスル所ハ。圓滿完備ニ人性ヲ發達シ。至美。至善。至眞ヲ
 以テ極致トシ。彼レ道德法律ノ思想トスル所ハ。上帝ノ命令ヲ奉シ。若ク
 ハ天意ヲ實行スルヲ以テ基礎トシ。彼レ學問技術ノ觀念トスル所ハ。造
 化ノ法則ヲ注解シ。或ハ造化ノ意象ニ摸倣スルヲ以テ本色トシ。彼レ經
 濟商業ノ功業トスル所ハ。人類ノ能力ヲ發達シ。萬有ノ實利ヲ調和スル
 ヲ以テ眞理トナシ。人類社會ノ最大禍害タル戰爭スラ。猶ホ勝敗ヲ鮮血
 ニ訴ヘテ。上帝ニ義トセラル。ヤ否ヤヲ判決セントスルニアラズヤ。而
 シテ。其宗教上ノ儀式ヲ應用スルニ至リテハ。帝王ニ。軍事ニ。國會ニ。裁判
 ニ。家族ニ。交際ニ。職業ニ。學校ニ。婚姻ニ。宴會ニ。言語ニ。文學ニ。音樂ニ。其他
 日常瑣細ノ事物ニ至ル迄。盡ク。感化ヲ及ボサハハナク。實ニ。歐米社會

ニ於ケル宗教ノ感化ハ廣大ニ瀰リ精微ニ入ルト云ハザルヲ得ズハツクスリト氏曰ク學術ハ其宗教的ナルヲ以テ貴ブ可ク宗教ハ其學術的ナルヲ以テ信ズ可シ故ニ理學家ノ偉大ナル勳業ハ其智力ノ結果ヨリモ寧ロ其宗教ノ成情ニ存ストヘンリーヨルギー氏曰ク現時社會ノ問題ヲ解釋センガ爲メニ要ス可キモノハ智力ニアラズシテ宗教ハ感情ニアリト夫レハツクスリト氏ガ有名ナル唯物論者タルハ天下ノ知ル所ナリヨルギー氏ガ論ズル所最モ宗教ト關係ナキ經濟上社會上ノ問題ニアルハ亦タ其書ヲ讀ムモノノ知ル所ナリ而シテ二氏ノ言此ノ如シ此レ吾輩ガ絶ヘテ我邦ノ學士論者ニ見ザル所ニシテ恒ニ歐米ノ學士論者ニ見ル所ナリ孰レカ歐米ノ文明ハ宗教的ノ文明ニアラズト謂フカ

然レモ吾輩ハ復タ此ニ今日ノ宗教ノ我邦ニ必要ナルヲ喋々スルヲ欲

セズ唯冒頭ニ掲ゲタル問題即チ耶蘇教ヲ輸入センカ佛教ヲ改革センカノ問題ニ就ヒテ少シク辨論ヲ費サント欲ス抑モ此ノ問題タル吾輩始メテ之レヲ提出シタルニアラズ殆ンド現時我邦ノ學士論者ガ學ツテ講究セントスル所ノ問題ニシテ其解釋ノ結果タル亦タ各々異ナル所アルガ如シ即チ耶蘇教ヲ信奉スルノ諸氏ハ勿論從來ノ佛教ハ既ニ腐敗レテ國民ノ信仰ヲ繫グニ足ラズ今日ニ方リテ我邦ノ生命元氣ヲ喚起スルモノハ唯基督ガ福音アランノミト論シテ耶蘇宣教師ノ中ニモ最モ學識アリ且ツ雄辨ナルイビー氏ハ其東京演說ニ自ラ叙シテ曰ク

日本古來ノ信仰ハ學者社會ニ道德力ヲ及ボスヲ掛ナク一般人民ニテ漸ク將サニ其勢力ヲ失ハントスルガ如シ苟モ社會ニ立チテ至當ノ觀察ヲ下ス人々ハ皆此事實ヲ明知セザルモノナシ然ラバ

此薄弱ナル信仰ニ代立シテ能ク一般ノ道德ヲ震興スルニ足ル可
 キモノハ何ゾヤ。是則目下日本帝國ノ大問題ニシテ。或社會ハ早ク
 モ既ニ運命ノ旦夕ニ迫ルヲ豫察スルガ如シ。夢中ニ彷徨タル夕
 ハ過テ拂曉ニ達シ。今日日本ハ智識政路ヲ一新シテ。各人開化ノ華ヲ
 競ヒ。文明ノ諸力益々相加ハリテ無用ノ古風ハ衰頽セル宗教及道
 徳ト共ニ消滅シテ。將ニ實力アル代立者ニ其地位ヲ讓ラントス。基
 督教信徒ハ其地位ヲ受ケテ更ニ純良ノ教理ヲ布カントシテ企望ス
 ルモノナレド。日本ニ在テ忍耐強キ人々ハ未ダ其援助ヲ請ハズ。殊
 ニ古代ノ偏見未ダ全ク挫ケザルヲ以テ其偏見ヲ懷ク輩ハ。常ニ
 基督教ヲ敵視ス。西洋不信者ハ著書弘ク。國中ニ行ハレ。學術哲學ノ
 需要少カラザル中ニ就テ。該教ニ抗スル所ハ書類極メテ多ク。基督
 教ハ識者ノ措テ問フ可ラザル迷惑説ト思惟セラルハ。蓋シ現今

日本ノ景況ナリ。

イビ一氏ノ言誠ニ然リ。吾輩又々轉シテ佛教ヲ改革ス可シト主唱スル
 論者ノ中ニ就ヒテ。現時佛教ノ新勇將ト稱セラレタル井上圓了氏ノ言
 ヲ聞ケル左ノ如シ。

願テ我僧侶ノ内情ヲ察スルニ。其過半ハ無學無識ニシテ時勢ヲ知
 ラズ。無資無力ニシテ生計ニ苦ミ。其力佛教ヲ改良シテ開明ノ宗教
 トナス能ハザルハ必然ノ勢ナリ。我邦大政維新以來百般ノ學問工
 藝皆一時ニ進歩シ。國家富強ノ基礎從ツテ定マリ。政法治道又大ニ
 興ル。殊ニ去ル十四年國會開設ノ詔一タビ發シヨリ。上下競フテ泰
 西ノ學ヲ講シ。政法ノ理ヲ究メテ。立憲ノ制度漸ク全シ。而シテ佛者
 社會ハ明治ノ維新ニ遇フモ。依然舊ヲ守リ。國會開設ノ期ニ逼ルモ。
 頑眠未ダ醒メズ。進ンテ功ヲ國家ニ立ツルモノナク。退テ力ヲ護法

ニ盡クスモノナシ。而シテ其教法ハ孤城落日ノ勢ヲナシ存亡旦夕ニ逼ルモ更ニ知ラザル者ノ如シ。嗚呼明治二十三年モ近キニ在リ。今後世道人心ノ變革復タ昔日ノ比ニアラザルベシ。佛者今ヨリ之ヲ備ヘザレバ何レノ日ニカ佛教ノ再興ヲ期センヤ。

夫レ進ムモノハ進マシメヨ。仆ルモノハ自ラ仆レシメヨ。此レ則チ自然淘汰ノ大法ナリ。此レ則チ優勝劣敗ノ大勢ナリ。イビ一氏何ゾ進ンテ大ニ耶蘇教ヲ擴張セザルヤ。井上氏又何ゾ佛教ニ戀々タルヤ。夫レ耶蘇教ニシテ果シテイビ一氏ノ言フ所ノ如クナラシメ。佛教ヲシテ亦タ果シテ井上氏ノ言フ所ノ如クナラシメ。吾輩ハ斷然佛教ヲ拋棄シテ耶蘇教ヲ輸入セザルヲ得ズ。然レモ試ニ思ヘイビ一氏ノ眼光視線ハ日本國內ノ外ニハ一步ヲモ出ル能ハズ。井上氏ノ眼光視線モ亦タ日本國內ノ外ニハ一步ヲモ出ル能ハズ。兩氏ノ眼光視線共ニ日本國內ノ外ニハ

一步ヲ出ル能ハズシテ耶佛二教ノ盛衰興廢ヲ判斷セントスルハ是レ日本一國ノ問題ハ日本一國ヲ以テ判斷ス可シト信ズルモノナリ。然レモ今日ニ方リテ果シテ日本一國ヲ以テ判斷ス可キ問題アルカ。彼ノ軍備ノ擴張セザル可ラザルヲ説キ。法律ノ改正セザル可ラザルヲ説キ。實業ノ振起セザル可ラザルヲ説キ。教育ノ進歩セザル可ラザルヲ説キ。現時我邦ヲシテ進歩若クハ改革ニ汲々タラシムルハ恰モ大敵ハ既ニ國境ニ逼リテ狼狽防禦セザル可ラザルガ如キモハ何ゾヤ。直接ニ間接ニ第十九世紀全世界ノ大勢ト交通スルヲ以テナリ。而シテ知ル日本一國ニ於テ維持ス可キモノト雖モ第十九世紀世界ノ大勢ニ於テ維持ス可ラザルモノナレバ亦タ遂ニ日本一國ニ於テモ維持ス可ラズ。日本一國ニ於テ擴張ス可キモノト雖モ第十九世紀世界ノ大勢ニ於テ擴張ス可ラザルモノナレバ遂ニ亦日本一國ニ於テモ維持ス可ラザルヲ

ハ○則○チ○耶○蘇○教○ニ○シ○テ○盛○ン○ト○レ○ハ○亦○タ○此○第○十○九○世○紀○世○界○ノ○大○勢○ト○共○ニ○盛○ン○ト○ラ○ザ○ル○可○ラ○マ○佛○教○ニ○シ○テ○衰○フ○レ○ハ○亦○タ○此○第○十○九○世○紀○世○界○ノ○大○勢○ト○共○ニ○勢○ト○共○ニ○衰○ベ○ザ○ル○可○ラ○マ○之○ニ○反○シ○テ○世○界○ノ○大○勢○ニ○於○テ○ハ○衰○フ○ル○可○キ○モ○ノ○モ○日○本○ニ○於○テ○ハ○却○ツ○テ○盛○ン○ニ○世○界○ノ○大○勢○ニ○於○テ○ハ○盛○ン○ト○ル○可○キ○モ○ノ○モ○日○本○ニ○於○テ○ハ○却○ツ○テ○衰○フ○ル○ガ○如○キ○ハ○此○レ○一○時○ノ○現○象○ニ○シ○テ○永○遠○ノ○現○象○ニ○ア○ラ○ザ○ル○ナ○リ○大○陽○既○ニ○東○天○ニ○上○リ○テ○高○堂○猶○ホ○窓○ヲ○推○サ○シ○レ○ハ○室○内○或○ハ○暗○シ○然○レ○モ○世○界○大○勢○ノ○赫○々○タ○ル○輝○光○ハ○豈○ニ○一○國○ノ○能○ク○遮○ル○所○ナ○ラ○ンヤ○

吾輩ハ依リテ此問題ヲ以テ涉々タル東洋ノ孤島ニ於テ判断スルヲ欲セズ之ヲ第十九世紀世界ノ大勢ニ質問シタルニ社會政治法律道德教育理學哲學文學技術總シテ彼ノ思想ノ傾向スル所文明ノ趋向スル所ハ舊宗教(耶蘇教)ノ世界既ニ去リテ新宗教(佛教)ノ世界將サニ來ラント

ス○ル○ハ○休○徴○ヲ○示○サ○シ○ル○ハ○ハ○ナ○リ○然○ル○ニ○今○ヤ○願○ミ○テ○我○邦○ヲ○察○ス○レ○バ○泰○西○文○明○ノ○風○潮○ハ○駭○々○ト○シ○テ○日○ニ○進○入○シ○殆○ン○ド○將○サ○ニ○歐○瀾○米○濤○ノ○間○ニ○捲○キ○サ○ラ○レ○ン○ト○ス○ル○ノ○奇○觀○ナ○キ○ニ○ア○ラ○ズ○而○シ○テ○彼○ノ○泰○西○ニ○於○テ○舊○宗○教○ニ○反○對○シ○テ○新○宗○教○ニ○趨○向○シ○タル○思○想○ト○文○明○ト○ハ○盡○ク○既○ニ○我○邦○ニ○來○リ○社○會○モ○來○リ○政○治○モ○來○リ○法○律○モ○來○リ○道○德○モ○來○リ○教○育○モ○來○リ○理○學○モ○來○リ○哲○學○モ○來○リ○文○學○モ○來○リ○技○術○モ○來○リ○之○ヲ○一○言○ス○レ○バ○凡○神○教○ノ○時○代○早○ク○既○ニ○我○邦○ニ○到○達○シ○タ○リ○更○ニ○比○喻○ヲ○以○テ○之○ヲ○譬○ヘ○ン○ニ○我○邦○文○明○ノ○圃○思○想○ノ○園○タル○氣○候○ノ○如○キ○地○味○ノ○如○キ○空○氣○ノ○如○キ○其○他○同○園○ノ○境○遇○一○ツ○ト○シ○テ○泰○西○ニ○異○ナル○モ○ノ○ナ○シ○則○チ○泰○西○ニ○於○テ○新○ニ○萌○芽○ヲ○發○シ○其○一○タ○ビ○美○花○ヲ○開○ク○ニ○至○リ○テ○ハ○ソ○ロ○モ○ン○王○ガ○榮○華○ノ○極○ニ○製○シ○タル○衣○服○モ○及○バ○ザ○ル○程○ハ○百○合○花○ヲ○以○テ○之○レ○ヲ○我○ガ○日○本○ニ○移○植○ス○ル○亦○ダ○曷○ソ○不○可○ナ○ラ○ンヤ○而○シ○テ○彼○ノ○泰○西○ニ○於○テ○舊○宗○教○ノ○朽○幹○枯○根○未○ダ○一○掃○シ○去○ラ○ザ○ル

モ、ハ、此、レ、千、百、年、間、ニ、培、養、シ、タ、ル、慣、習、ノ、猶、ホ、遺、存、ス、ル、ニ、由、ル、而、シ、テ、我、邦、既、ニ、斯、ル、慣、習、ノ、遺、存、ス、ル、ア、ラ、ズ、將、タ、何、ノ、苦、ム、所、ア、リ、テ、カ、彼、新、宗、教、ヲ、取、ラ、ズ、シ、テ、彼、舊、宗、教、ヲ、取、ル、ト、チ、要、セ、ン、ヤ、此、ニ、由、リ、テ、之、ヲ、觀、レ、バ、泰、西、ニ、於、テ、舊、宗、教、ト、ス、ル、モ、ハ、我、邦、ニ、於、テ、ハ、僅、々、數、十、年、前、ヨ、リ、新、ニ、進、入、セ、ン、ト、ス、ル、ノ、新、教、ナ、リ、泰、西、ニ、於、テ、新、宗、教、ト、ス、ル、モ、ハ、我、邦、ニ、於、テ、千、百、餘、年、既、ニ、傳、來、シ、タ、ル、ノ、舊、宗、教、ナ、リ、然、ラ、バ、則、チ、新、ニ、進、入、ス、ル、ノ、新、教、ヲ、輸、入、ス、ル、ト、既、ニ、傳、來、シ、タ、ル、ノ、舊、教、ヲ、改、革、ス、ル、ト、ハ、其、利、不、利、孰、レ、世、界、ノ、大、勢、ニ、於、テ、維、持、ス、可、ラ、ザ、ル、ノ、耶、蘇、教、ヲ、維、持、ス、ル、ト、世、界、ノ、大、勢、ニ、於、テ、擴、張、ス、可、キ、ノ、佛、教、ヲ、擴、張、ス、ル、ト、其、利、不、利、孰、レ、茲、ニ、於、テ、我、邦、宗、教、ノ、一、大、問、題、明、白、ニ、判、斷、ス、ベ、シ、

然、レ、モ、我、邦、今、日、ノ、佛、教、ナ、ル、モ、ハ、所、謂、停、滯、腐、敗、既、ニ、其、真、面、目、ヲ、失、ス、然、ラ、バ、何、人、カ、奮、ツ、テ、此、改、革、ノ、一、大、事、業、ニ、任、ズ、ル、モ、ハ、ア、ル、歟、曰、ク、吾、輩、

ハ、改、革、家、ノ、出、テ、ザ、ル、ヲ、憂、ヘ、ズ、只、改、革、ス、可、キ、時、勢、ノ、一、日、モ、早、ク、到、達、セ、ザ、ル、ヲ、憂、フ、蓋、シ、時、勢、ハ、豪、傑、ヲ、生、ズ、ル、ノ、機、關、ナ、リ、豪、傑、ハ、時、勢、ヲ、生、ズ、ル、ノ、勢、力、ニ、ア、ラ、ザ、ル、ナ、リ、故、ニ、豪、傑、ヲ、生、ズ、ル、ノ、時、勢、サ、ヘ、ア、レ、バ、千、萬、人、ノ、豪、傑、ハ、忽、チ、奔、躍、狂、舞、シ、テ、起、ラ、ズ、ン、バ、ア、ラ、ズ、試、ニ、内、外、古、今、ノ、歴、史、ヲ、一、看、セ、ヨ、彼、レ、學、問、中、興、ノ、時、勢、一、タ、ビ、到、達、ス、ル、ヤ、否、ヤ、暗、世、ノ、長、夜、猶、ホ、曉、鐘、ヲ、報、セ、ザ、ル、ニ、モ、係、ハ、ラ、ズ、理、學、家、哲、學、家、文、學、家、美、術、家、早、ク、既、ニ、星、ノ、如、ク、四、方、ニ、現、ハ、レ、燦、爛、ト、シ、テ、滿、天、ヲ、輝、シ、タ、ル、ニ、ア、ラ、ズ、ヤ、彼、レ、宗、教、改、革、ノ、時、勢、一、タ、ビ、到、達、ス、ル、ヤ、否、ヤ、羅、馬、法、王、ノ、威、權、猶、ホ、赫、々、ト、シ、テ、歐、洲、ヲ、威、壓、ス、ル、ニ、係、ラ、ズ、ハ、ツ、ス、ズ、ウ、キ、ン、ク、リ、ル、テ、ル、カ、ル、ビ、ン、ノ、徒、早、ク、既、ニ、前、後、輩、出、シ、大、聲、疾、呼、シ、テ、羅、馬、教、會、ニ、抗、敵、シ、タ、ル、ニ、ア、ラ、ズ、ヤ、彼、レ、權、理、發、達、ノ、時、勢、一、タ、ビ、到、達、ス、ル、ヤ、否、ヤ、チ、ヤ、ア、レ、ス、第、一、世、ハ、將、サ、ニ、神、權、主、義、ヲ、主、張、シ、憲、法、ノ、神、聖、國、民、ノ、權、理、ヲ、蹂、躪、セ、ン、ト、ス、ル、ニ、方、リ、テ、

クロンウエル。ハンブレン。ミルトンノ徒ハ早ク既ニ時勢ノ先鋒トナリ。自由ノ爲メニ劍芒ヲ脱シ。遂ニ一大改革ヲ成就セタルニアラズヤ。彼レ、佛國革命ノ時勢一タビ到達スルヤ否ヤ。路易十四世ガ君主專政ノ餘威ハ猶ホ霜雪ノ草木ヲ壓スルガ如クナルニモ係ハラズ。モンテスキユルウソウ。ウナルテル。ミラボーン。諸氏ハ早ク既ニ駘蕩タル春風ノ百花ヲ扇グガ如ク。革命ノ人心ヲ風靡シタルニアラズヤ。彼レ、奴隸廢止ノ時勢一タビ到達スルヤ否ヤ。米國南部ノ聯邦ハ之ガ爲メニ非常ナル利益ヲ占ムルニモ係ハラズ。遂ニ鮮血ヲ以テ野蠻暴力ノ汗痕ヲ洗滌セント欲シテ。一大内亂ヲ惹起シタルニアラズヤ。彼レ、自由貿易ノ時勢一タビ到達スルヤ否ヤ。保護政策ノ習慣ハ猶ホ深ク一國多數ノ腦裡ニ印刻スルニモ係ハラズ。ゴブデン。ブライト。諸氏ハ早ク既ニ其妄想ヲ喝破シテ。自由貿易ノ真理ヲ發揮シタルニアラズヤ。試ニ又タ我が現時大勢ノ由來ス

ル所ヲ看ヨ。大政維新ノ氣將將サニ來ラントスルヤ。彼ノ高山蒲生。藤田佐久間。木戸。西郷。大久保ノ諸氏。後先相踵ヒテ勃興シタルニアラズヤ。之ヲ譬フレバ。時勢ハ猶ホ颶風ノ如シ。豪傑ハ猶ホ波瀾ノ如シ。彼ノ汪洋大海モ平時ハ甚ダ穩靜ナリ。然レモ一旦颶風忽然トシテ起レバ。日月ヲ吞吐シ。鯨鯢ヲ翻蕩スルノ狂瀾怒濤ヲ見ルニ至ル亦何ク疑ハソヤ。而シテ今ヤ。宗教世界ニ於テ一大革命ノ時勢既ニ到達シ。將サニ第二、三世紀ノ新天地ヲ開カントス。則チ將來ニ於テ豪傑ノ士奮起スルハ。吾輩ガ竊ニ期シテ疑ハザル所。而シテ彼ノ一女丈夫。ブラハツキ。一豫言者。チルゴット。ハ。豈ニ其人ニアラズヤ。然リ而シテ此一大氣運タル既ニ我邦ニモ駿々進入レ。方今佛教改革ノ時勢ハ。内外交々逼ラントスルノ有様ナレバ。我邦モ亦タ宗教維新ノ豪傑ヲ出サズト斷言ス可ラズ。バツクル氏曰ク。前途衰微ニ歸セントスル職業ニ。誓ツテ豪傑ヲ出サズト之ニ

反シテ、佛教ノ前途ハ希望アルノ前途ナリ、佛教ノ命運ハ文明世界ノ信
 仰ヲ支配セントスルノ命運ナリ、彼レ將來大ニ輝光ヲ發セントスルノ
 新理ヲ發明シ、若クハ將來ノ時勢ニ適合スルノ制度ヲ建設スルガ爲メ
 ニハ、毎ニ千萬人ノ豪傑ヲ生ズルヲ見レハ、佛教ニモ亦タ活潑偉大ナル
 改革家ヲ出サズト斷言ス可ラザルナリ、
 若シ果シテ第二世紀ニ於テ愈々世界ノ一統宗教タル可キ命運ヲ有
 スルノ佛教ヲ以テ我邦ノ宗教トシ、我邦ノ前途ヲ以テ之レニ委託スル
 一ヲ得ハ、我が國民ハ實ニ非常ノ天幸ヲ得タルノ國民ナリト謂ハザル
 ヲ得ズ、蓋シ現時我邦ハ新ニ外交ヲ開キ、世界列國ノ間ニ周旋シ、第十九
 世紀ノ新氣運ニ遭遇スルノ奇局ニ當ルヲ以テ、理勢ノ必到スル所遂ニ
 國內ニ於テ二大主義ヲ現出シタリ、即チ一ハ外部ノ勢力ニシテ、世界ノ
 大勢ヲ驅リテ我邦ヲ威化セント欲シ、一ハ内部ノ勢力ニシテ、我邦ヲシ

テ此大勢ニ反抗セシメント欲ス、此二大主義ナルモノハ、實ニ牽引反撥
 ノ二力ニシテ、其權衡ヲ得テ、調和スルハ、我邦ヲシテ、獨立ヲ保タシム
 可ク、亦タ我邦ヲシテ、文明ニ進マシム可シ、若シ權衡ヲ失フテ、調和セザ
 ルハ、我邦ヲシテ、獨立ヲ保タシムルハ、能ハズ、亦タ我邦ヲシテ、文明ニ
 進マシムルハ、能ハズ、蓋シ内部主義ノ目的トスル所ハ、獨立ニ在リ、故ニ
 務メテ國粹ヲ保存シ、妄リニ外邦ヲ摸倣スルノ流風ヲ擯斥シテ、以テ國
 民愛國ノ感情ヲ扶植養成センヲ欲ス、然レモ其極端ニ馳スルニ方リ
 テハ、獨立アルヲ知リテ、文明アルヲ忘レ、國粹アルヲ知リテ、泰西アルヲ
 忘レ、保守アルヲ知リテ、進歩アルヲ忘レ、愛國アルヲ知リテ、愛人アルヲ
 忘レ、遂ニ恐ラクハ、我邦ヲシテ、第十九世紀ノ新氣運ト離縁シテ、文明世界
 ノ舞臺ニ登リテ、競争ヲ試ルヲ能ハザラシムルニ到ラントス、之ニ反シテ、
 外部主義ノ目的トスル所ハ、文明ニ在リ、故ニ務メテ進歩ヲ獎勵シ、泰西

ノ制度文物ヲ輸入シテ以テ社會各人ヲ發達改良セシムヲ欲ス然レモ亦タ其極端ニ馳スルニ方リテハ文明アルヲ知リテ獨立アルヲ忘レ泰西アルヲ知リテ國粹アルヲ忘レ進歩アルヲ知リテ保存アルヲ忘レ愛人アルヲ知リテ愛國アルヲ忘レ遂ニ恐ラクハ我邦ノ國情ヲ一掃シ歐瀾米滿ノ爲メニ漂流セラレ國家ノ獨立ヲ失フニ倒ラントス左レハ今日ニ方リテ我邦ノ急務トスル所ハ此二大主義ノ運動ヲシテ權衡ヲ得セシメ一方ニ於テハ國家獨立ノ大義ヲ重シ一方ニ於テハ將來文明ノ進路ヲ開クニ在ル可キハ吾輩ノ喋々ヲ要セザル所ナリ然ラバ何ヲ以テ之ヲ調和ス可キカ吾輩ガ所見ヲ以テスレバ亦タ唯ダ佛教アル而已蓋シ佛教ナル者ハ世界ヨリシテ之ヲ言ヘバ文明ノ潮流ナリ進歩ノ光華ナリ博愛ノ旌旗ナリ我邦ヨリシテ之ヲ言ヘバ獨立ノ生命ナリ國粹ノ愛兒ナリ愛國ノ元氣ナリ然ラバ則チ今日ニ於テ内外兩主義ノ喋

カ
交トナリ牽引反撥ノ反對作用ヲ調和セシメ其權衡ヲ執リテ以テ我邦ノ獨立ヲ保チ文明ヲ進マシメント欲スルモノハ佛教ヲ措ヒテ又タ何者ニ依頼セントスルカ嗟呼佛教ヲ措ヒテ又タ何者ニ依頼セントスル

吾輩論シテ既ニ此ニ到レバ聊カ微シク平生ノ持論ヲ洩ラサルヲ得ズ凡ソ文明ナルモノハ各國國粹ノ集合シタルモノニ外ナラズ更ニ之ヲ詳説スレバ世界文明ノ氣運ヲシテ現時ノ地位ニ進マシメタルモノハ各國人民ガ精神氣力智慧道德實利眞理ヲ發達シタルノ結果ニ外ナラズ乞フ看ヨ上古希臘羅馬ノ二國ハ其文學美術法律政治ノ思想ヲ以テ當代ニ輝キ後世ヲ化シ近世ニ及ンデ伊太利ハ學問中興ノ率先者トナリ西班牙葡萄牙ハ新世界ヲ發見シテ航海商業ニ先鞭ヲ着シ佛蘭西ハ其華麗ノ文學優美ノ風儀新奇ノ思想ヲ以テ他邦ニ誇リ特ニ其革命